

鈴鹿市
子ども・子育て支援事業に関する
アンケート調査結果報告書（案）

令和6年3月
三重県 鈴鹿市

目 次

第1章 調査実施の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の設計	3
3 調査票の配布と回収状況	3
4 報告書の見方について	4
(1) 年齢、学年の定義	4
(2) 電算処理の注意点	4
(3) グラフの見方について	4
5 調査対象者の属性、家族状況	5
(1) 就学前児童の属性	5
(2) 小学生の属性	5
(3) 居住地域の状況	6
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無	7
第2章 子育て家庭を取り巻く環境	11
1 子育ての環境について	11
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況	11
(2) 子育てに関する相談者の状況	15
2 保護者の就労状況	17
(1) 母親の就労状況	17
(2) 父親の就労状況	23
3 子育て家庭を取り巻く環境における分析、課題	26
第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	31
1 就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と 今後の利用希望 ..	31
(1) 平日の定期的な教育・保育事業	31
(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由	34
2 小学生の平日の定期的な子育て支援事業の利用現状等	37
(1) 平日の定期的な子育て支援事業の利用状況	37
(2) 定期的な子育て支援事業の利用理由と未利用の理由	40
3 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	41
(1) 土曜日と日曜日、祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	41
(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	47
4 地域の子育て支援事業の利用状況	51
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況	51

(2) 今後の利用意向	52
(3) 子育て支援事業の認知度、利用状況と今後の利用意向について	53
5 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	54
(1) 病気やケガで通常の事業が利用できない時の対処について	54
6 不定期の一時保育の利用について	62
(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況	62
(2) 宿泊を伴う一時保育の利用状況	68
7 放課後の過ごし方について	70
(1) 平日の放課後の過ごし方について	70
(2) 休日（長期休暇期間中を含む）の放課後児童クラブの利用希望	75
8 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望における分析、課題	78
第4章 育児休業制度の利用状況	85
1 育児と仕事の両立支援制度について	85
(1) 育児休業制度の利用状況	85
(2) 職場復帰の状況	87
(3) 短時間勤務制度の利用状況	90
(4) 育児休業取得期間の希望	91
2 子どもの貧困対策について	92
3 子どもの権利や子育てのことについて	97
4 育児休業制度の利用状況、子育ての環境や支援の満足度 における分析、課題	106

第5章 子ども・子育て支援に関する自由意見

これから作成

資料編

これから作成

第1章

調査実施の概要



第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、全ての子どもや子育て家庭が健やかに成長することができる社会の実現を目指して、令和2年3月に「第2期鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいます。

本計画が令和6年度末で計画期間の満了を迎えることから、令和7年度を始期とする第3期計画の策定を予定しています。

第3期計画策定にあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭のニーズの動向分析等を行い、本市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題の整理を目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数及び調査期間、方法は、以下のとおりです。

■ 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「鈴鹿市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査【就学前児童保護者用】」	
調査対象者	鈴鹿市に居住する就学前児童の保護者から無作為抽出
調査票配布数	2,400人
調査期間	令和5年12月27日～令和6年1月29日
調査方法	郵送配布後、郵送回収またはWeb回答
②調査票「鈴鹿市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査【小学生保護者用】」	
調査対象者	鈴鹿市に居住する小学生の保護者から無作為抽出
調査票配布数	1,600人
調査期間	令和5年12月27日～令和6年1月29日
調査方法	郵送配布後、郵送回収またはWeb回答

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布、回収状況は、以下のとおりです。

■ 調査票の配布、回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童の保護者	2,400	1,020	42.5
小学生の保護者	1,600	760	47.5



4 報告書の見方について

(1) 年齢、学年の定義

就学前児童、小学生の年齢は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

就学前児童

年齢区分	該当する生年月
0歳	2023年4月以降
1歳	2022年4月～2023年3月
2歳	2021年4月～2022年3月
3歳	2020年4月～2021年3月
4歳	2019年4月～2020年3月
5歳	2018年4月～2019年3月
6歳	2017年4月～2018年3月

小学生

年齢(学年)区分	該当する生年月
7歳(1年生)	2016年4月～2017年3月
8歳(2年生)	2015年4月～2016年3月
9歳(3年生)	2014年4月～2015年3月
10歳(4年生)	2013年4月～2014年3月
11歳(5年生)	2012年4月～2013年3月
12歳(6年生)	2011年4月～2012年3月

(注) 調査期間【2023年度】における年齢区分

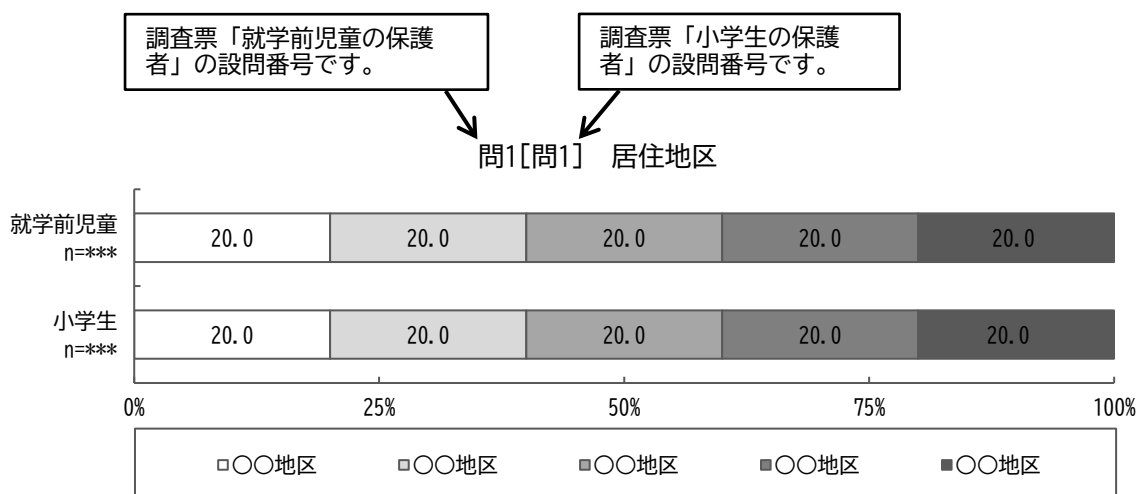
(2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

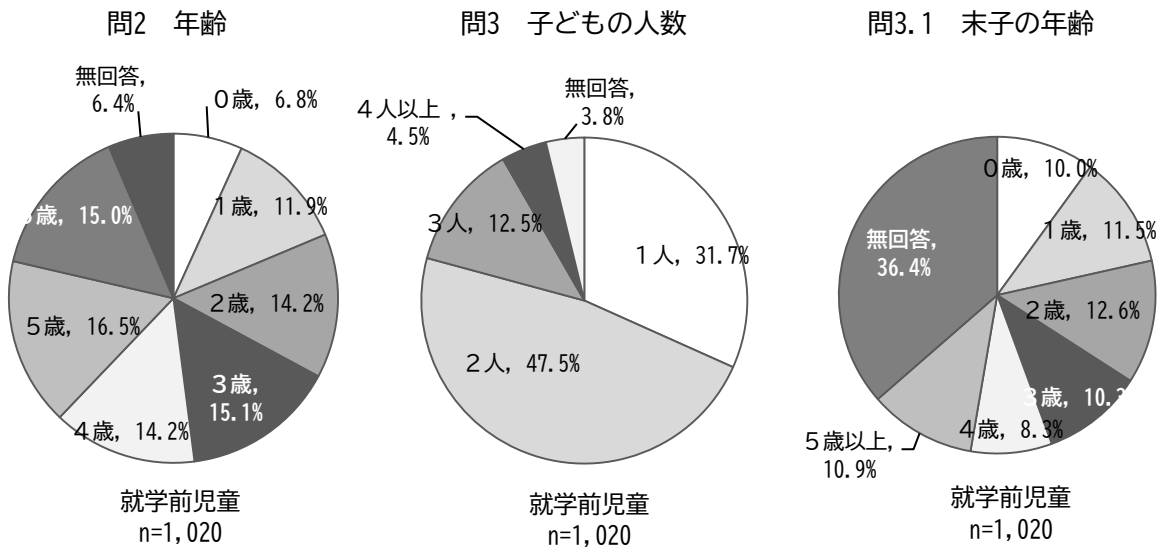
(3) グラフの見方について



5 調査対象者の属性、家族状況

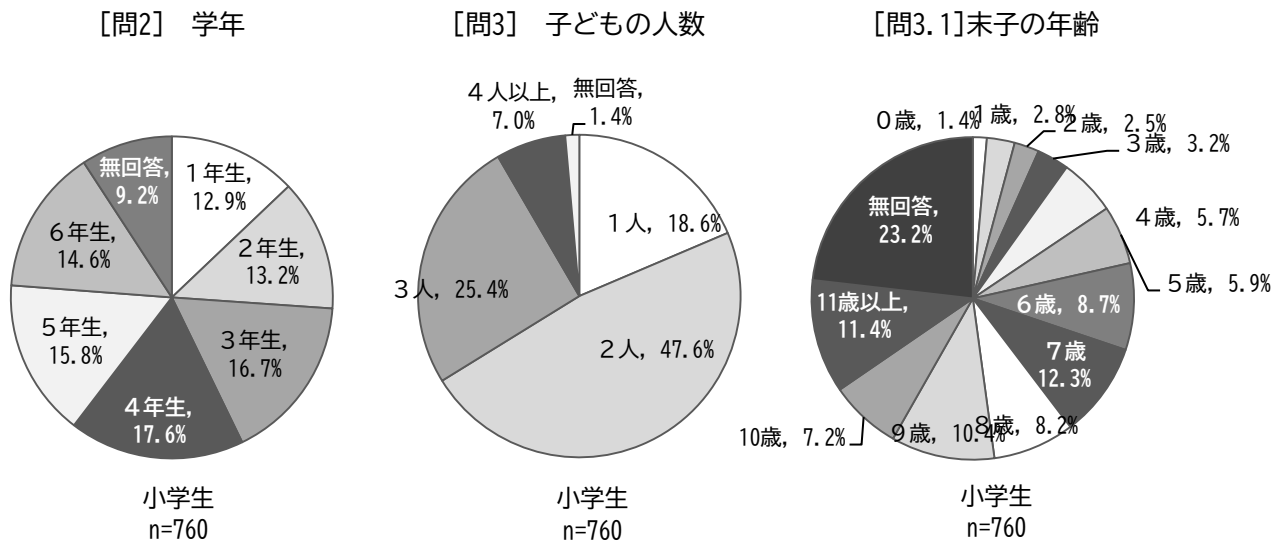
(1) 就学前児童の属性

○回答された1,020人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



(2) 小学生の属性

○回答された760人の小学生の属性は、以下のとおりです。

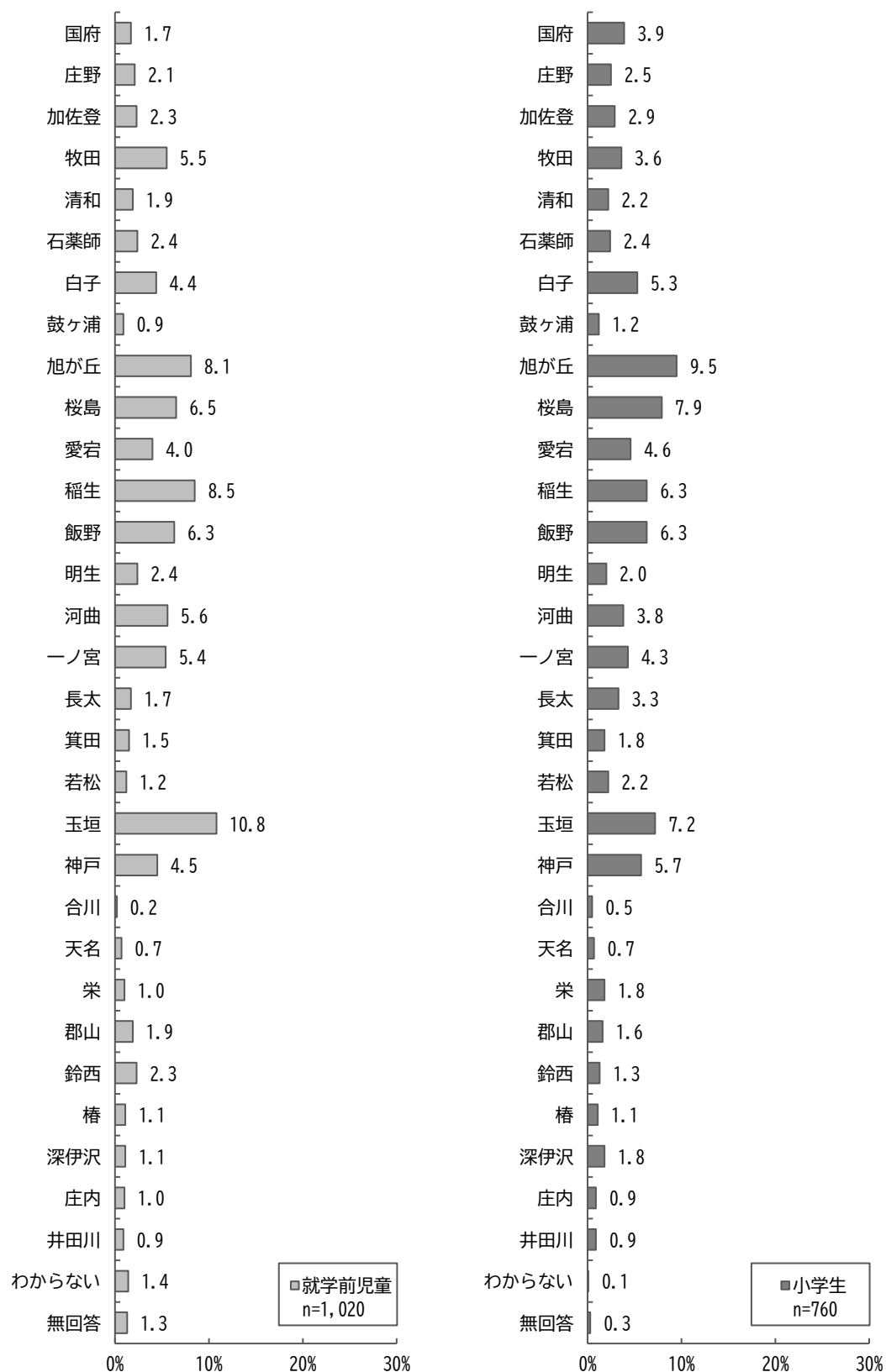




(3) 居住地域の状況

○回答者が居住する小学校区は、以下のとおりです。

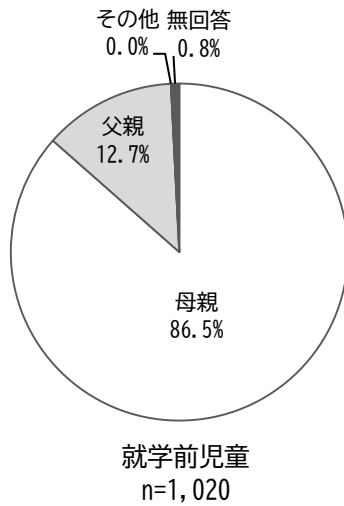
問1[問1] 居住小学校区



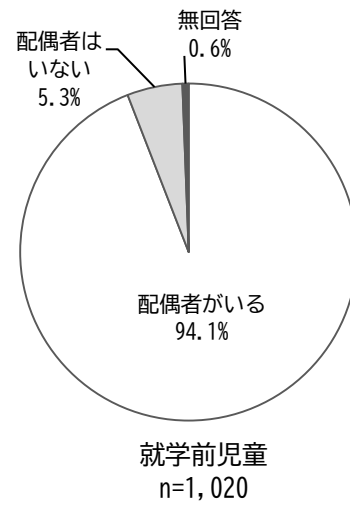
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無

○この調査の回答者は、以下のとおりです。

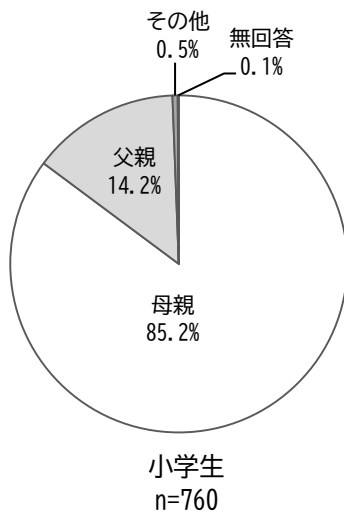
問4 調査回答者(就学前児童)



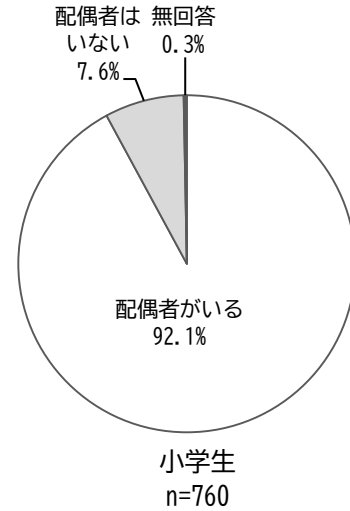
問5 配偶者の有無(就学前児童)



〔問4〕 調査回答者(小学生)



〔問5〕 配偶者の有無(小学生)



第2章

子育て家庭を取り巻く環境



第2章 子育て家庭を取り巻く環境

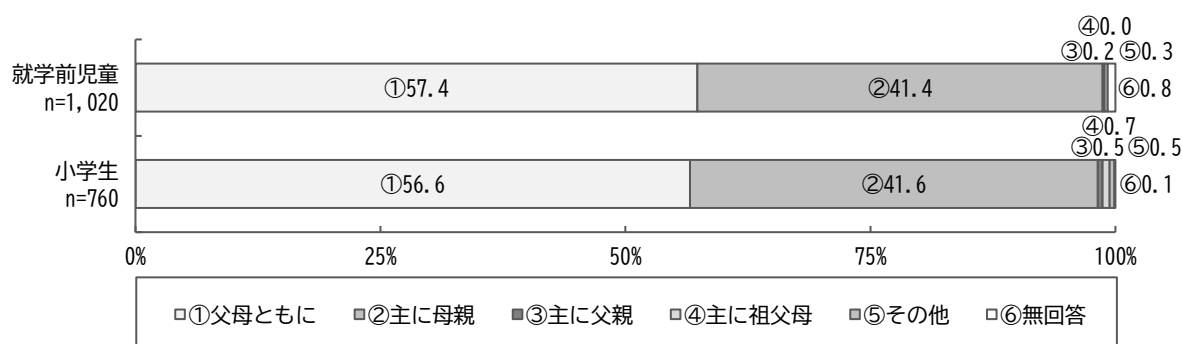
1 子育ての環境について

(1) 主な保育者と親族等協力者の状況

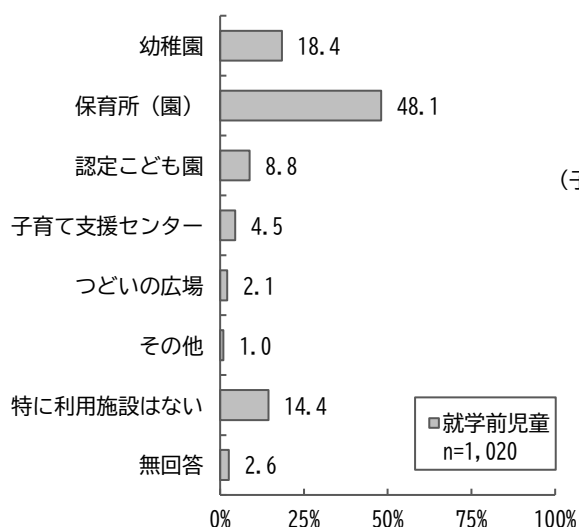
○主な保育者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「父母ともに」「主に母親」が9割以上を占めています。

○日常的に子育てに関わっているものをみると、就学前児童では、「保育所(園)」(48.1%)が最も高く、次いで「幼稚園」(18.4%)となっています。また、「特に利用施設はない」(14.4%)となっています。小学生では、「学習塾、習い事」(64.7%)が最も高く、次いで「放課後児童クラブ(学童保育)」(25.5%)、「地域の青少年団体活動(子ども会、スポーツ少年団)」(21.1%)となっています。

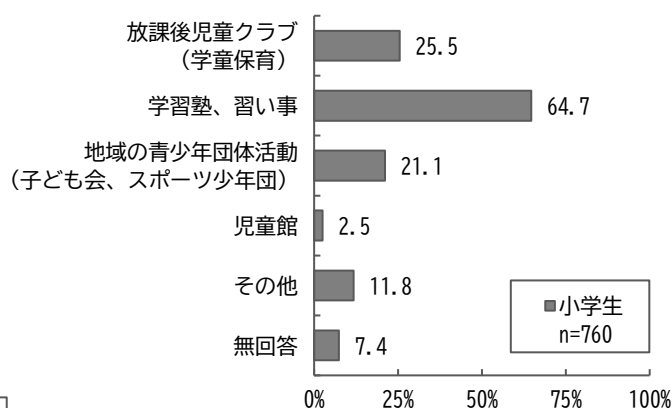
問6[問6] 主な保育者の状況



問7 子育てに日常的に利用しているもの
(施設含む)



【問7】 子育てに日常的に関わっているもの
(施設む)(複数回答)

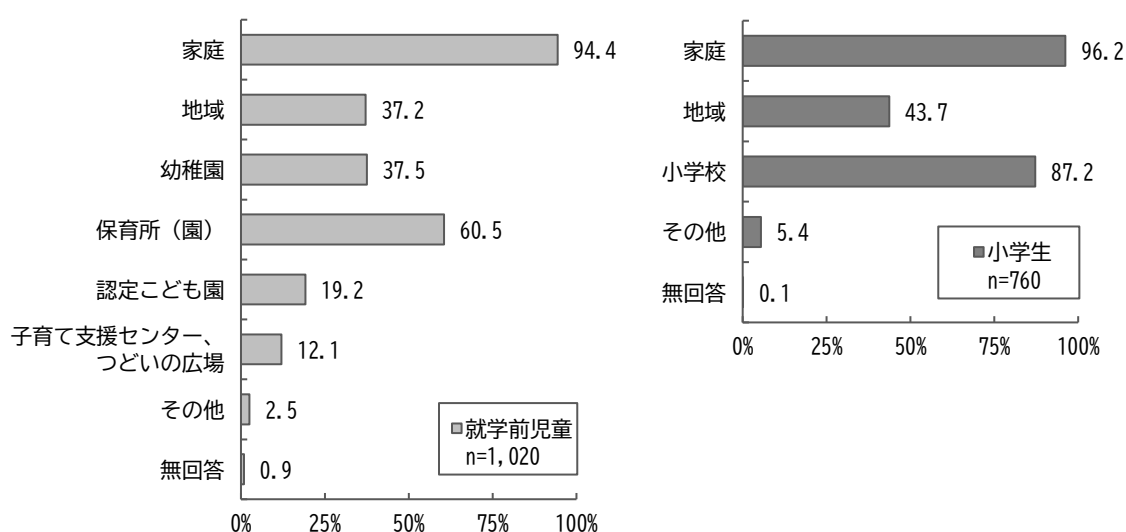




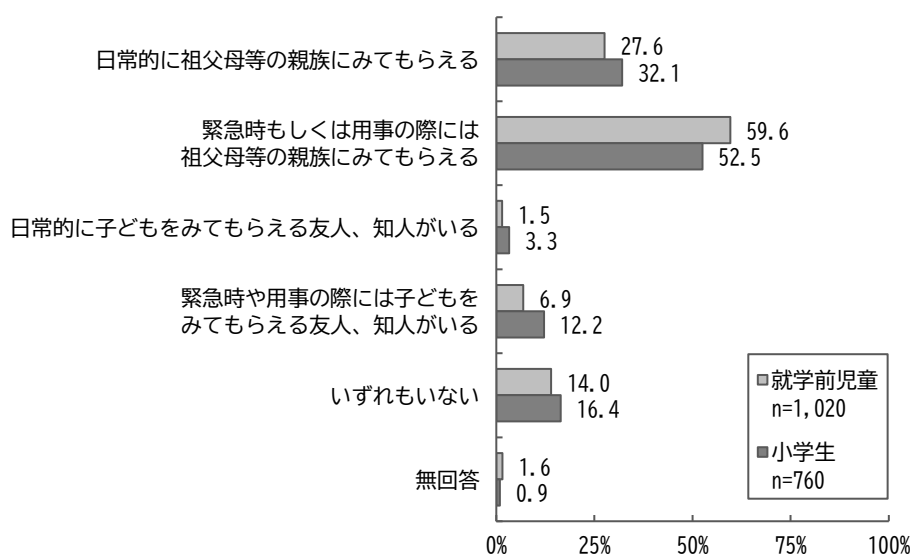
○子育てに影響を与える環境をみると、就学前児童では、「家庭」(94.4%)が最も高く、次いで「保育所(園)」(60.5%)、「幼稚園」(37.5%)「地域」(37.2%)となっています。小学生では、「家庭」(96.2%)が最も高く、次いで「小学校」(87.2%)、「地域」(43.7%)となっています。

○親族、知人等協力者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童59.6%、小学生52.5%)、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童27.6%、小学生32.1%)と回答した方が多い一方で、「いずれもない」と回答した方が就学前児童、小学生の保護者ともに1割強となっています。

問8[問8] 子育てに影響を与えると思う環境(複数回答)

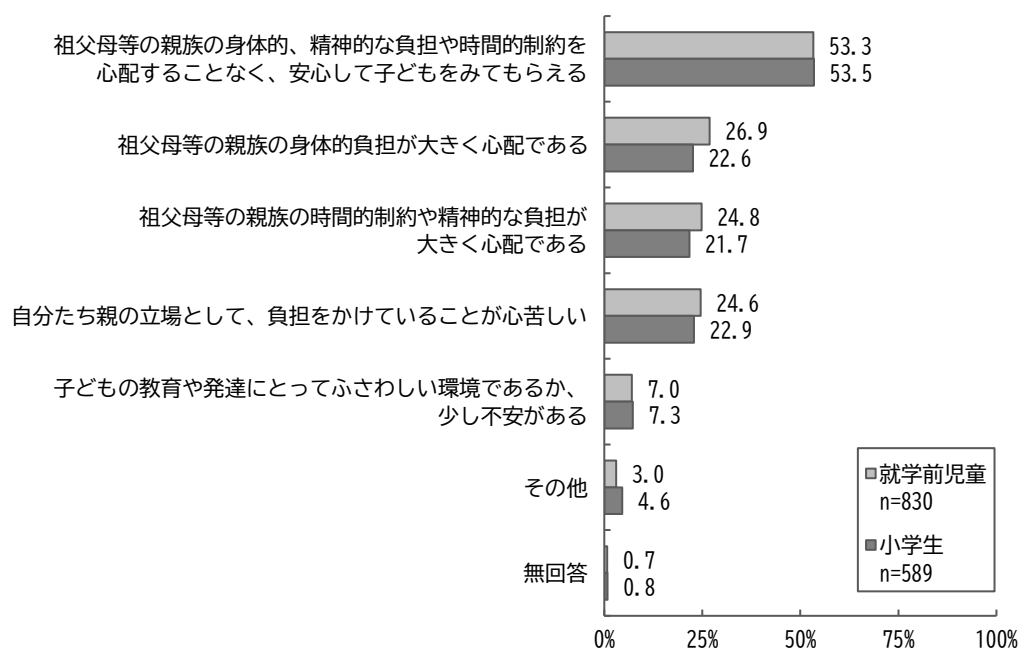


問9[問9] 親族、知人等の協力者の状況(複数回答)



○祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(就学前児童53.3%、小学生53.5%)が最も高いものの、一方で、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(就学前児童26.9%、小学生22.6%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(就学前児童24.8%、小学生21.7%)「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(就学前児童24.6%、小学生22.9%)と祖父母等の負担を心配しながらみている割合も高くなっています。

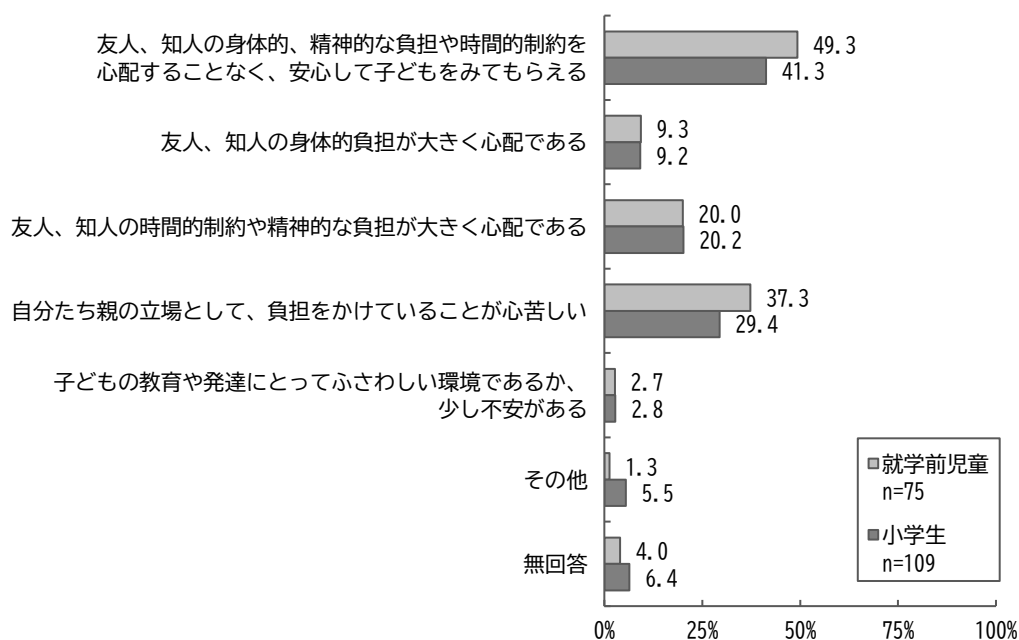
問9-1[問9-1] 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え（複数回答）





○友人、知人に子どもを預かってもらっている状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「友人、知人の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（就学前児童49.3%、小学生41.3%）が最も高いものの、一方で、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（就学前児童37.3%、小学生29.4%）「友人、知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（就学前児童20.0%、小学生20.2%）と回答した方の割合も多く、友人、知人の負担を心配しながらみてもらっている状況です。

問9-2[問9-2] 友人、知人に子どもをみてもらうことへの考え（複数回答）



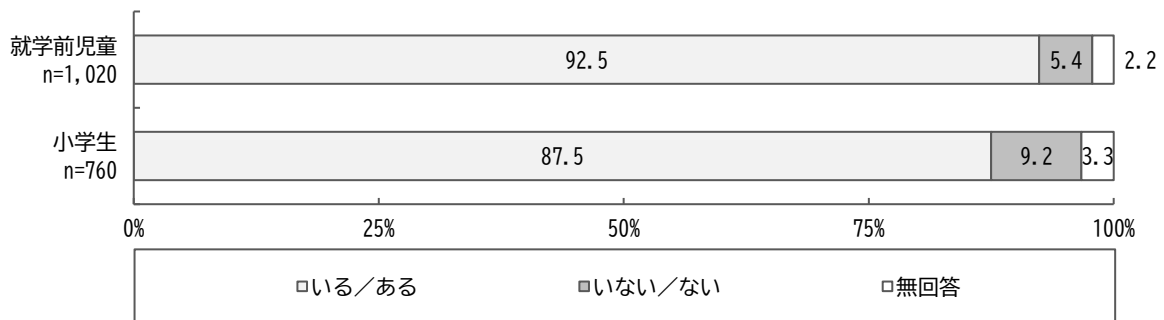
(2) 子育てに関する相談者の状況

○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」が就学前児童では9割以上、小学生では約9割となっています。

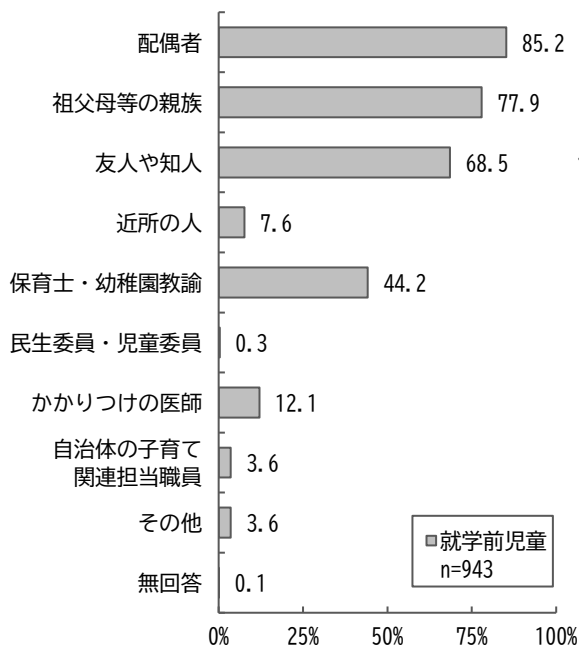
○気軽に相談できる人の状況をみると、就学前児童では、「配偶者」(85.2%)が最も高く、次いで「祖父母等の親族」(77.9%)、「友人や知人」(68.5%)となっています。

○気軽に相談できる場所をみると、就学前児童では、「保育所(園)」(43.3%)が最も高く、次いで「幼稚園」(14.6%)、「子育て支援センター」(11.8%)となっています。

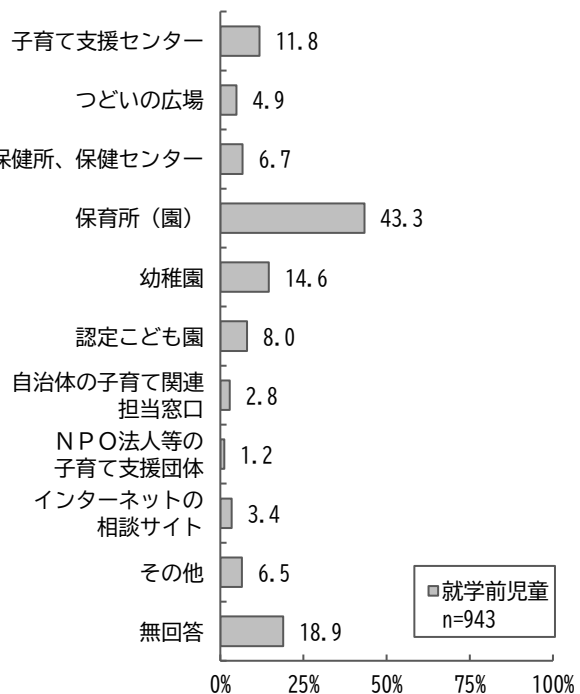
問10[問10] 子育てに関して気軽に相談できる人(場所)の有無



問10-1(1) 気軽に相談できる人(複数回答)



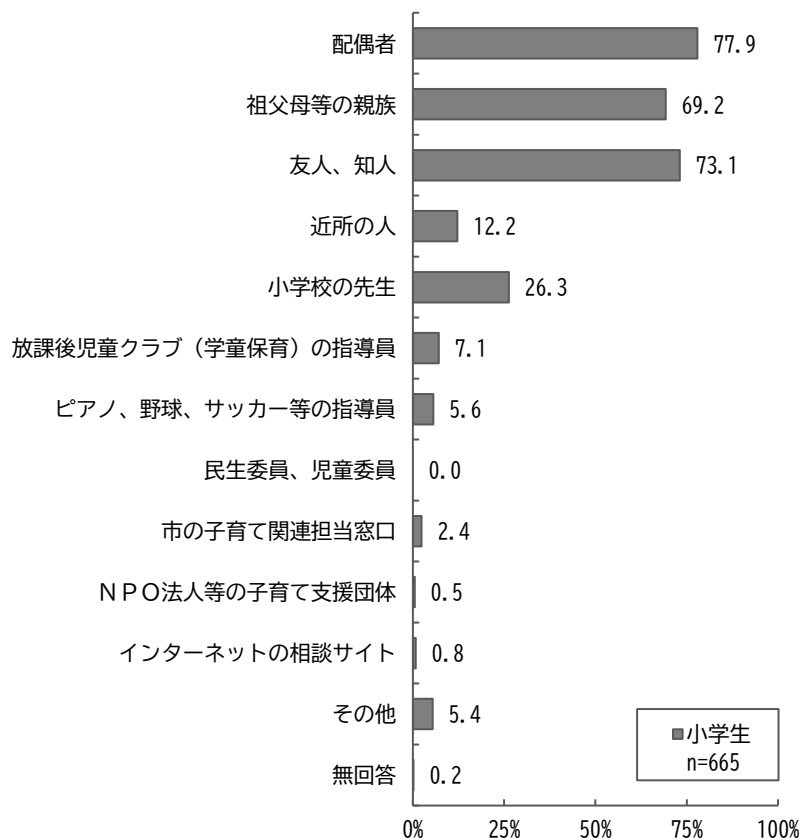
問10-1(2) 気軽に相談できる場所(複数回答)





○気軽に相談できる人の状況をみると、小学生では、「配偶者」（77.9％）が最も高く、次いで「友人や知人」（73.1％）、「祖父母等の親族」（69.2％）となっています。

〔問10-1〕 気軽に相談できる人等（複数回答）

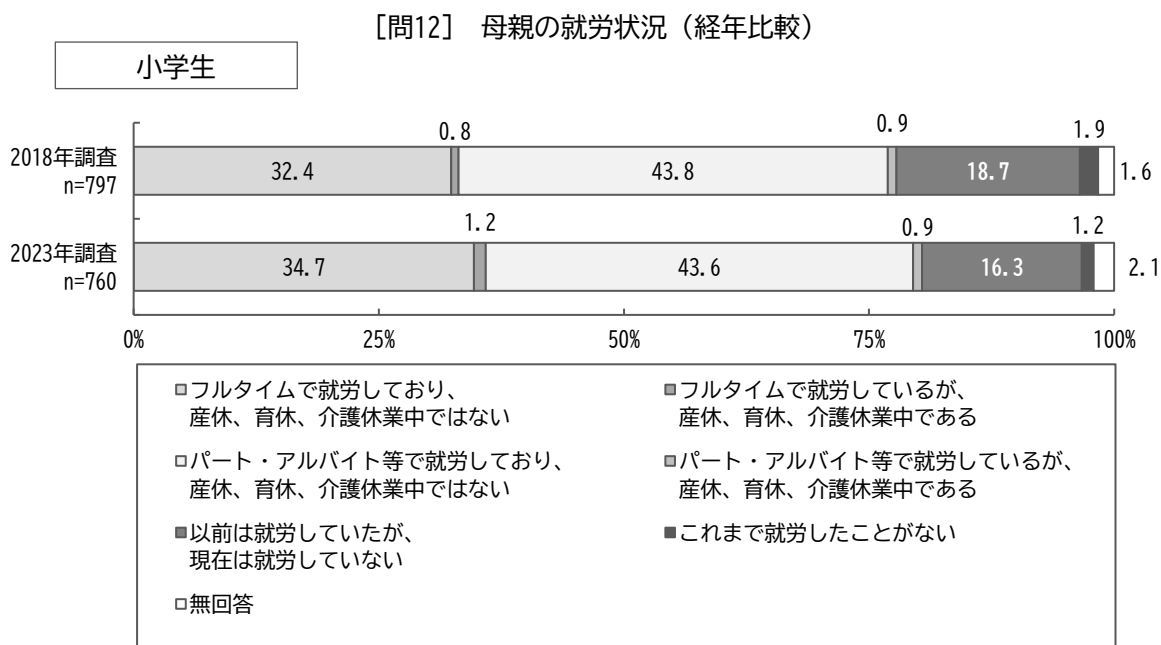
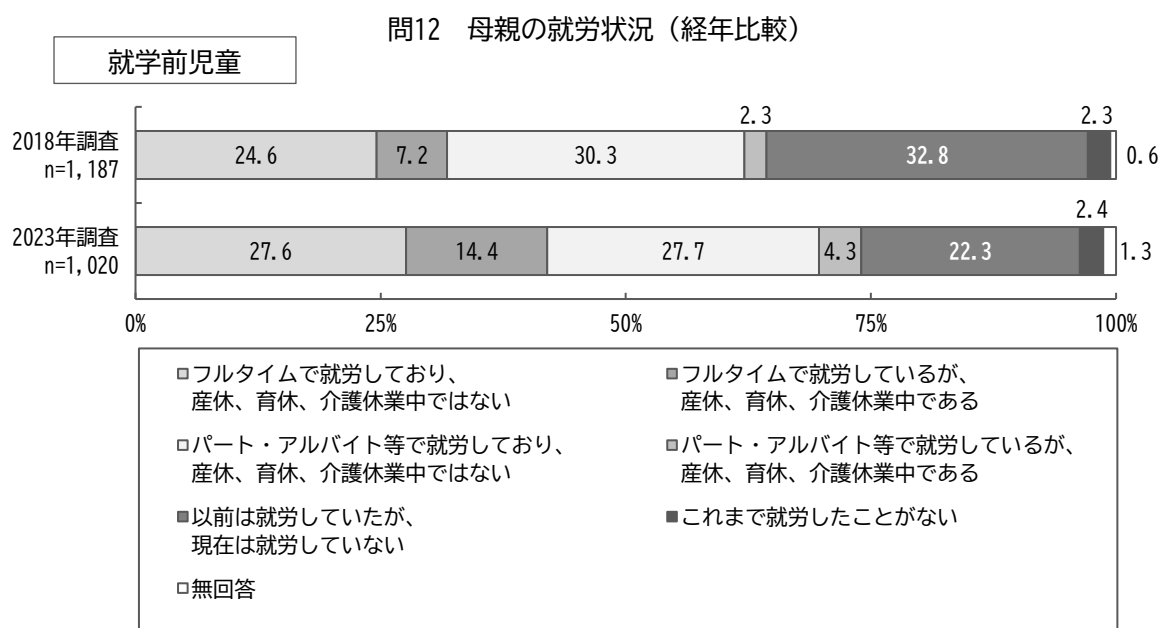


2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」（産休・育休・介護休業中含む）を合わせた現在就労している方は、就学前児童が74.0%、小学生が80.4%となっています。そのうち産休、育休、介護休業を取得中の方は、就学前児童が18.7%、小学生が2.1%となっています。

○前回調査と比較すると、就労している母親は、就学前児童が9.6^{ポイント}、小学生が2.5^{ポイント}高くなっています。

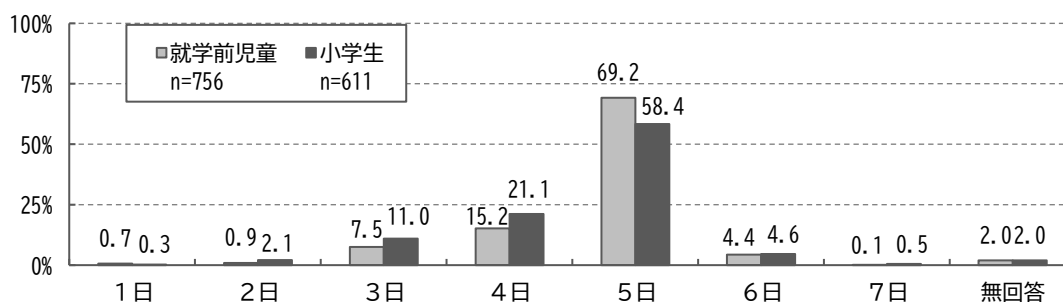




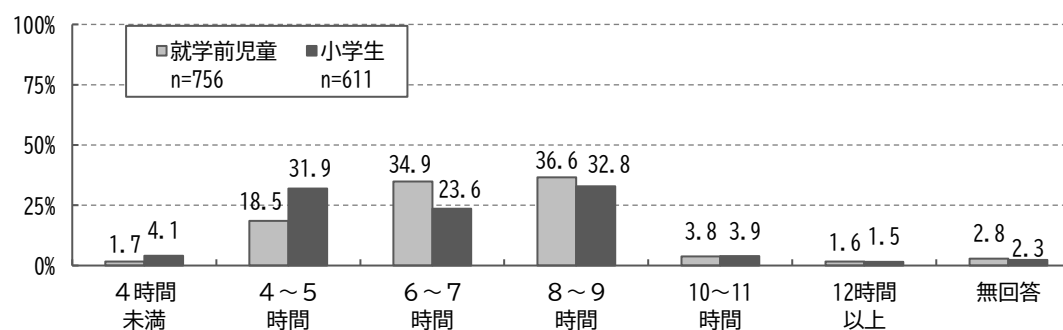
○母親の就労日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「5日」（就学前児童69.2%、小学生58.4%）が最も高く、次いで「4日」（就学前児童15.2%、小学生21.1%）、「3日」（就学前児童7.5%、小学生11.0%）となっています。

○母親の就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「8～9時間」（就学前児童36.6%、小学生32.7%）が最も高く、次いで就学前児童では「6～7時間」（34.9%）、「4～5時間」（18.5%）、小学生では「4～5時間」（31.9%）、「6～7時間」（23.6%）となっています。

問12-1(1)[問12-1(1)] 母親の就労日数（1週当たり）



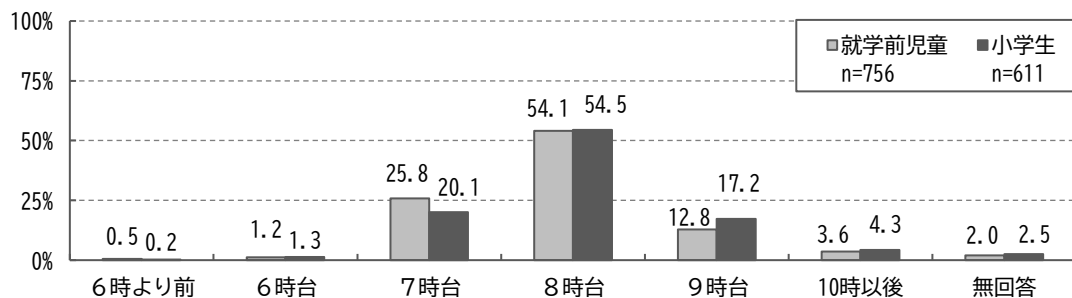
問12-1(1)[問12-1(1)] 母親の就労時間（1日当たり）



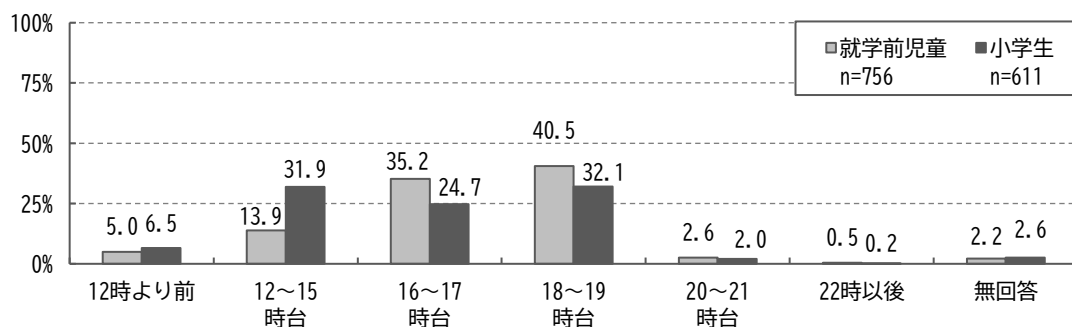
○母親の家を出る時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「8時台」（就学前児童54.1%、小学生54.5%）が最も高く、次いで「7時台」（就学前児童25.8%、小学生20.1%）、「9時台」（就学前児童12.8%、小学生17.2%）となっています。

○母親の帰宅時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「18～19時台」（就学前児童40.5%、小学生32.1%）が最も高く、次いで就学前児童では「16～17時台」（35.2%）、「12～15時台」（13.9%）、小学生では、「12～15時台」（31.9%）、「16～17時台」（24.7%）となっています。

問12-1(2)[問12-1(2)] 母親の家を出る時刻



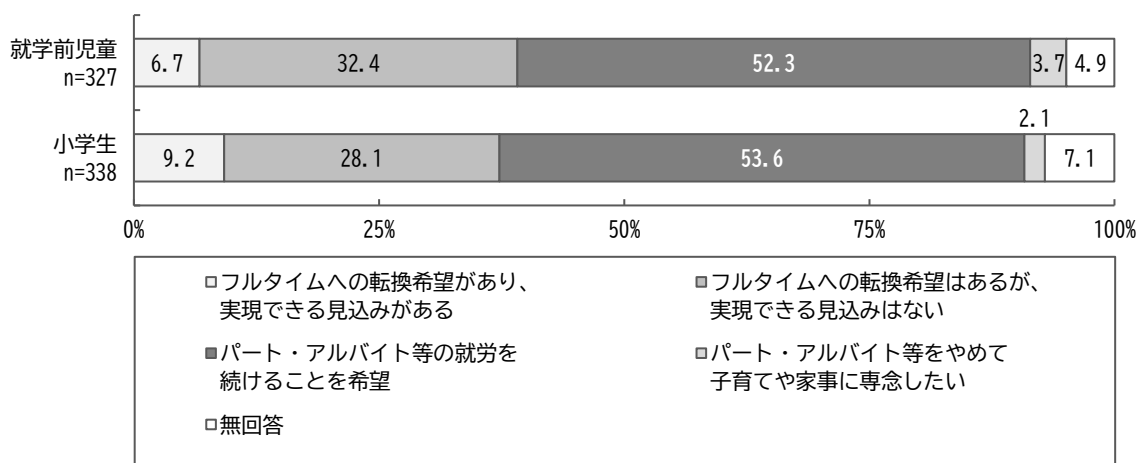
問12-1(2)[問12-1(2)] 母親の帰宅時刻





○母親のフルタイム勤務に対する意向をみると、就学前児童、小学生いずれも「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答した方が半数以上を占めています。また、約4割にフルタイムへの転換希望があるものの、4分の3以上が実現できる見込みがない状況です。

問12-2[問12-2] 母親のフルタイム勤務に対する意向

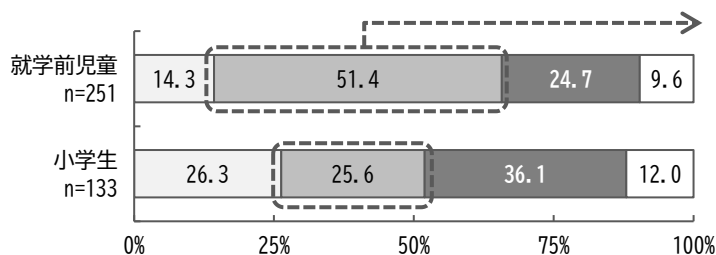


○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望をみると、就学前児童では76.1%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに働きたい」(51.4%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(24.7%)となっています。小学生では61.7%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに働きたい」(25.6%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(36.1%)となっています。

○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望する就労形態をみると、就学前児童では「パートタイム・アルバイト等」(87.1%)、「フルタイム」(11.3%)となっています。小学生では「パートタイム・アルバイト等」(79.2%)、「フルタイム」(16.7%)となっています。

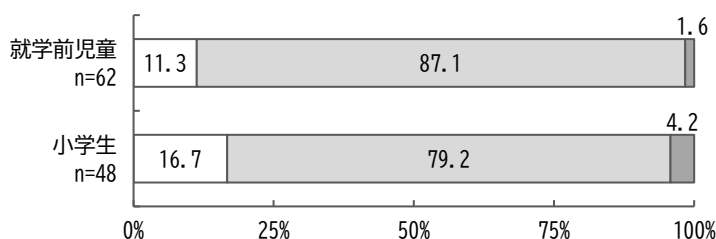
○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望する就労時期となる子どもの年齢は就学前児童では「0～3歳」(49.6%)、小学生では「8歳以上」(44.1%)が最も高くなっています。

問12-3[問12-3] 就労していない母親の就労希望



□子育てや家事などに専念したい
(働く予定はない)
□1年より先、一番下の子どもが□□歳に
なったところに働きたい
■すぐにでも、または1年以内に働きたい
□無回答

【母親の希望する就労形態】

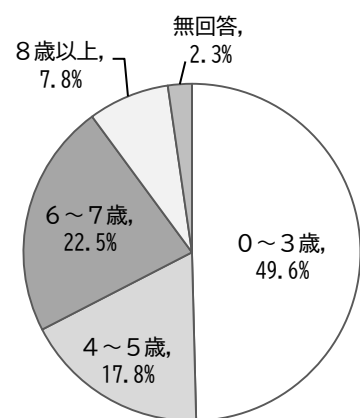
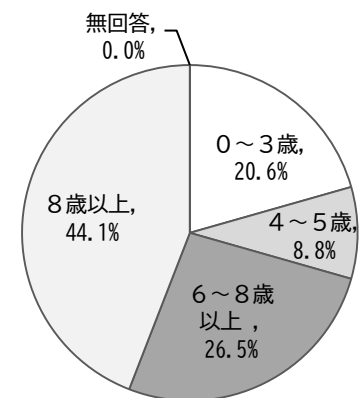


□フルタイム □パートタイム・アルバイト等 □無回答

【希望就労日数と希望就労時間】へ

「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」を選んだ方

【就労希望時の末子の年齢】

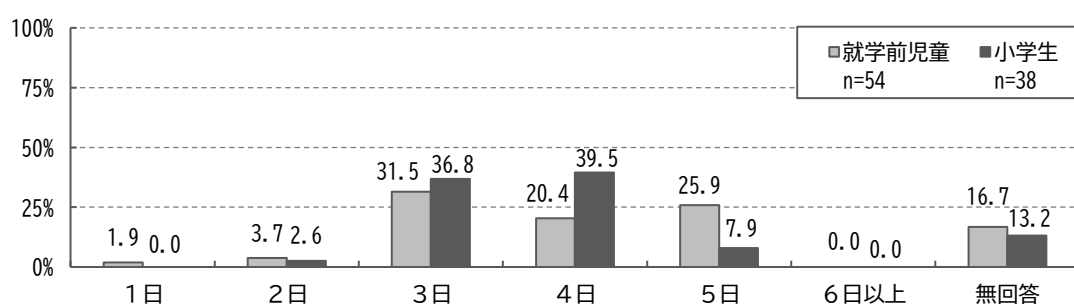
就学前児童
n=129小学生
n=34



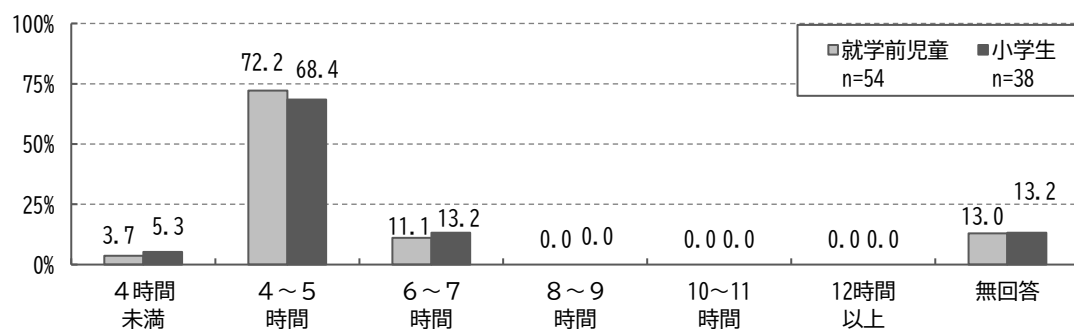
○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数をみると、就学前児童では「3日」(31.5%)が最も高く、次いで「5日」(25.9%)、「4日」(20.4%)となっています。小学生では「4日」(39.5%)が最も高く、次いで「3日」(36.8%)、「5日」(7.9%)となっています。

○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「4～5時間」(就学前児童72.2%、小学生68.4%)が最も高く、次いで「6～7時間」(就学前児童11.1%、小学生13.2%)、「4時間未満」(就学前児童3.7%、小学生5.3%)となっています。

問12-3[問12-3] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数(1週当たり)



問12-3[問12-3] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間(1日当たり)

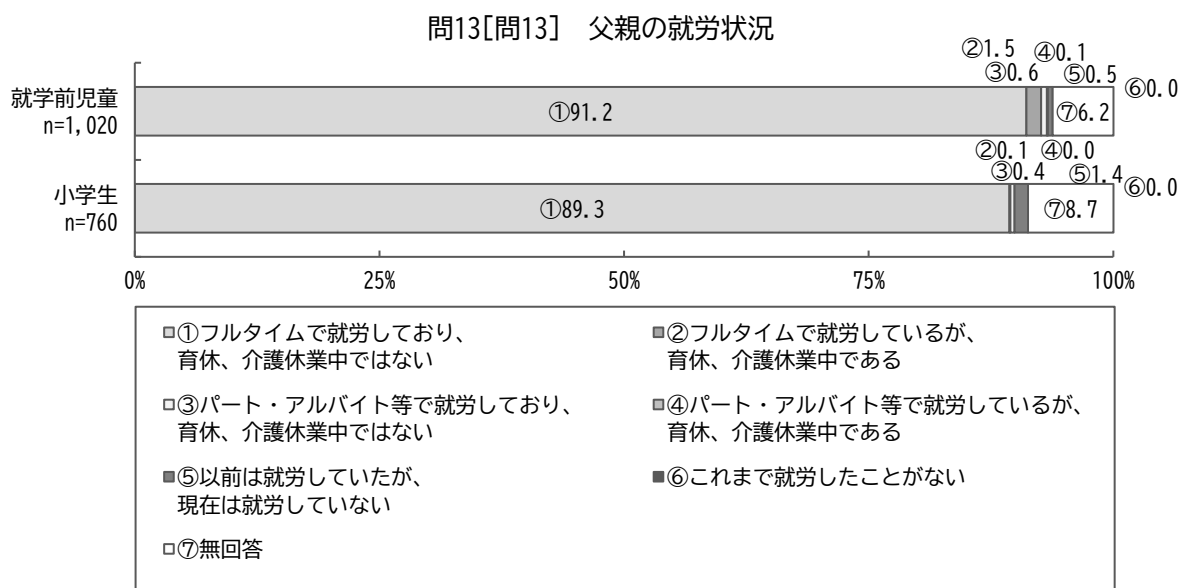


(2) 父親の就労状況

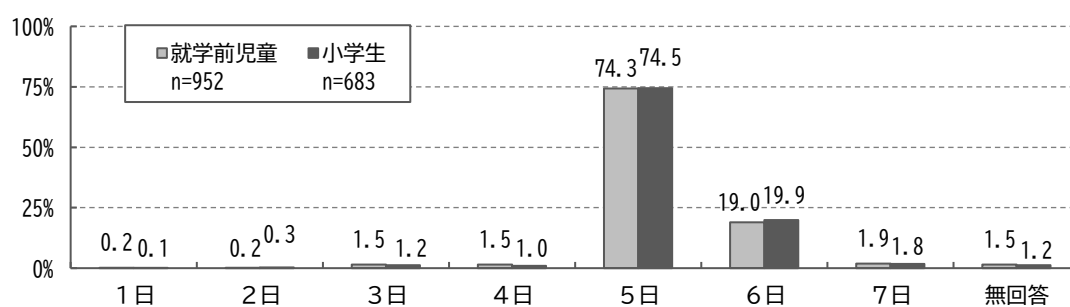
○父親の就労状況をみると、就学前児童、小学生いずれも約9割が「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」となっています。

○父親の就労日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「5日」（就学前児童74.3%、小学生74.5%）が最も高く、次いで「6日」（就学前児童19.0%、小学生19.9%）となっています。

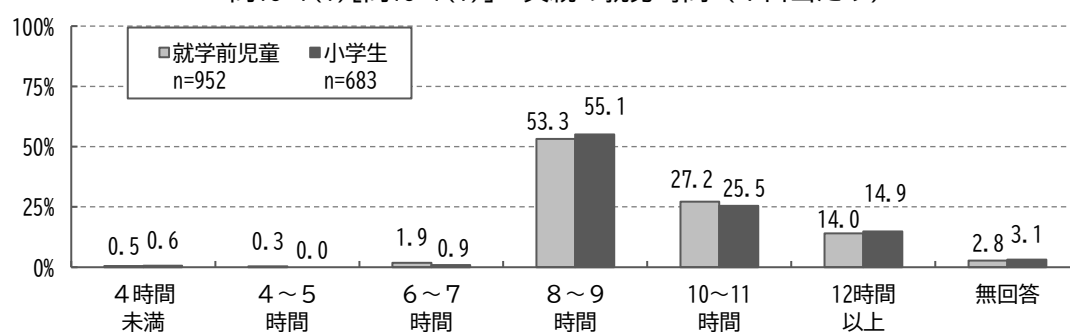
○父親の就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「8～9時間」（就学前児童53.3%、小学生55.1%）が最も高く、次いで「10～11時間」（就学前児童27.2%、小学生25.5%）、「12時間以上」（就学前児童14.0%、小学生14.9%）となっています。



問13-1(1)[問13-1(1)] 父親の就労日数（1週当たり）



問13-1(1)[問13-1(1)] 父親の就労時間（1日当たり）

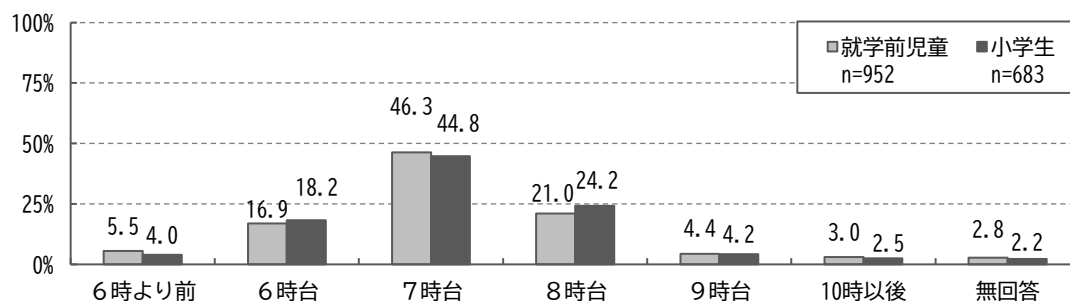




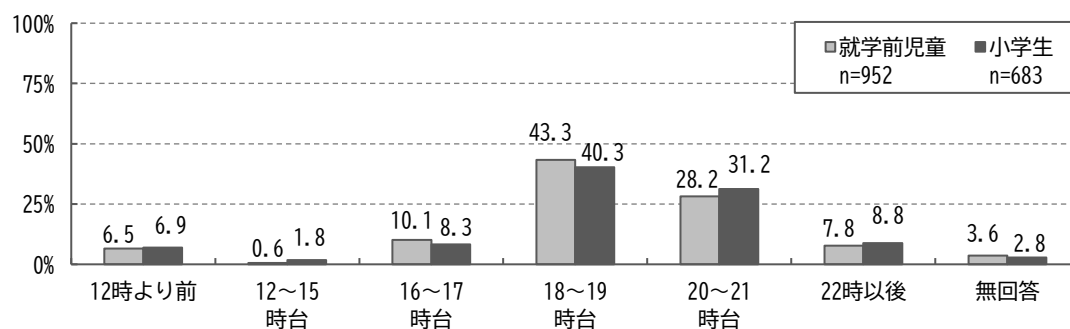
○父親の家を出る時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「7時台」（就学前児童46.3%、小学生44.8%）が最も高く、次いで「8時台」（就学前児童21.0%、小学生24.2%）、「6時台」（就学前児童16.9%、小学生18.2%）となっています。

○父親の帰宅時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「18～19時台」（就学前児童43.3%、小学生40.3%）が最も高く、次いで「20～21時台」（就学前児童28.2%、小学生31.2%）、「22時以降」（就学前児童7.8%、小学生8.8%）となっています。

問13-1(2)[問13-1(2)] 父親の家を出る時刻

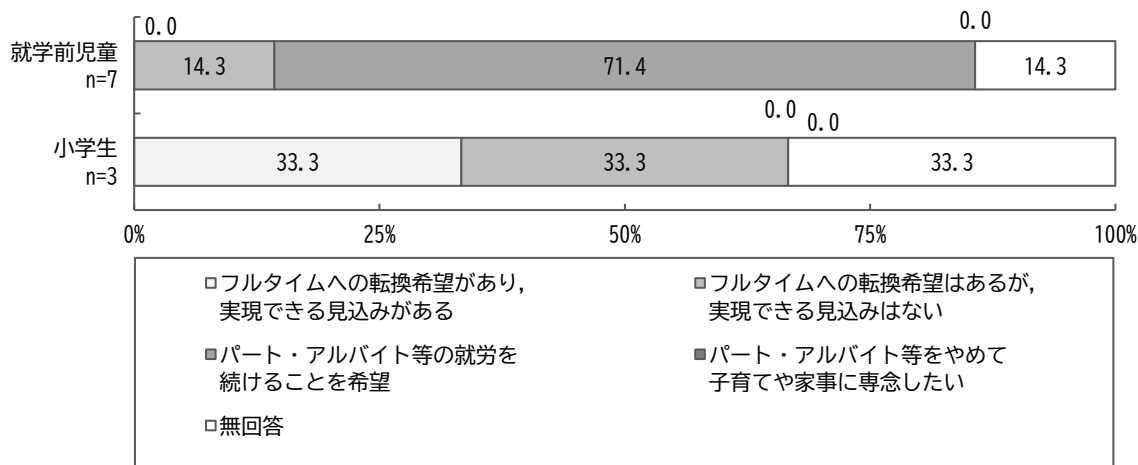


問13-1(2)[問13-1(2)] 父親の帰宅時刻



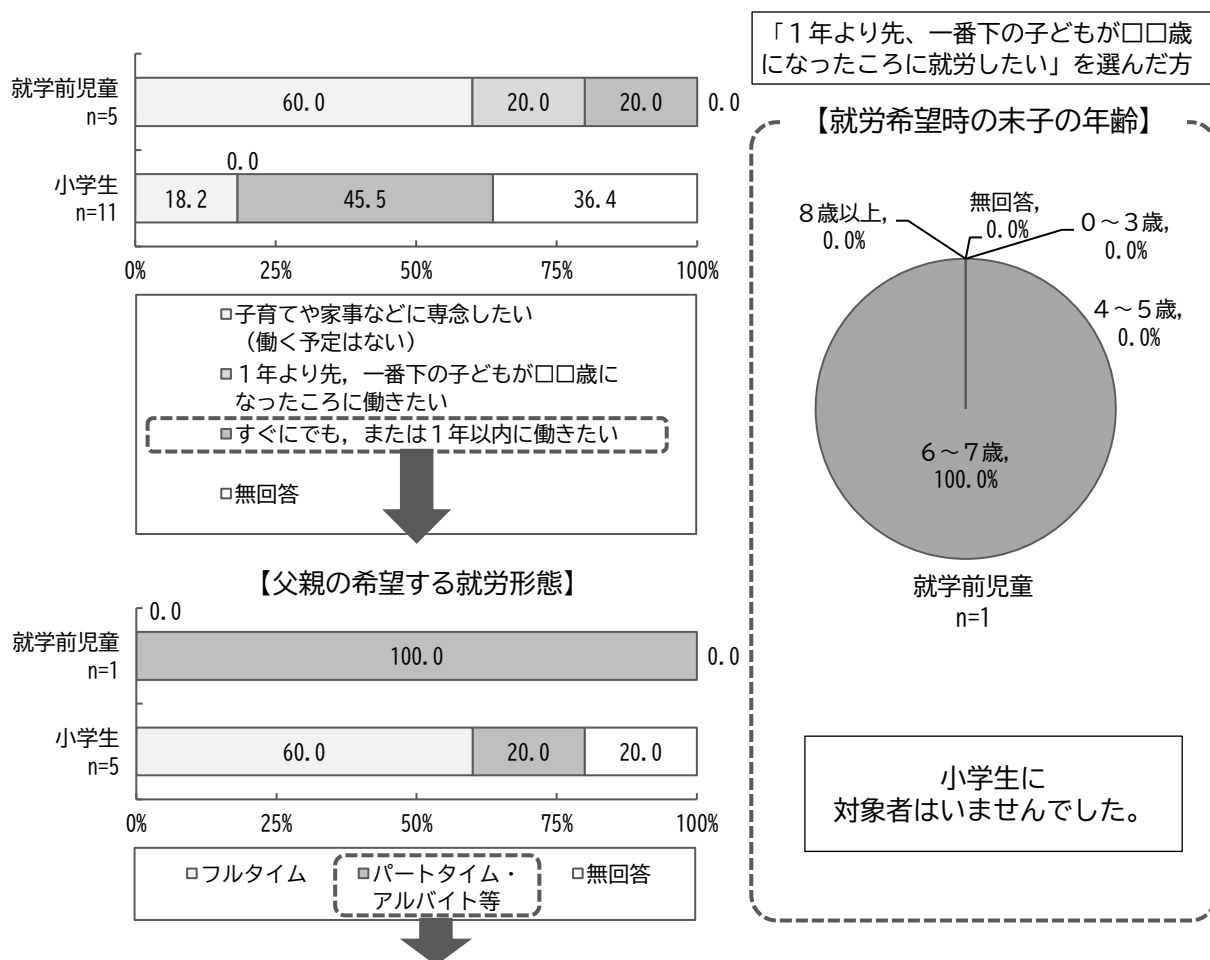
○父親のパートタイムからフルタイムへの転換意向は以下のとおりです。

問13-2[問13-2] 父親のフルタイム勤務に対する意向

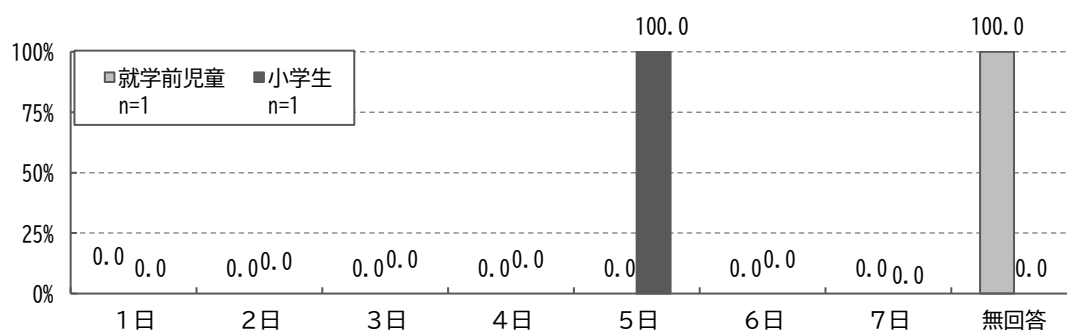


○現在就労していない父親の今後の就労意向は、以下のとおりです。

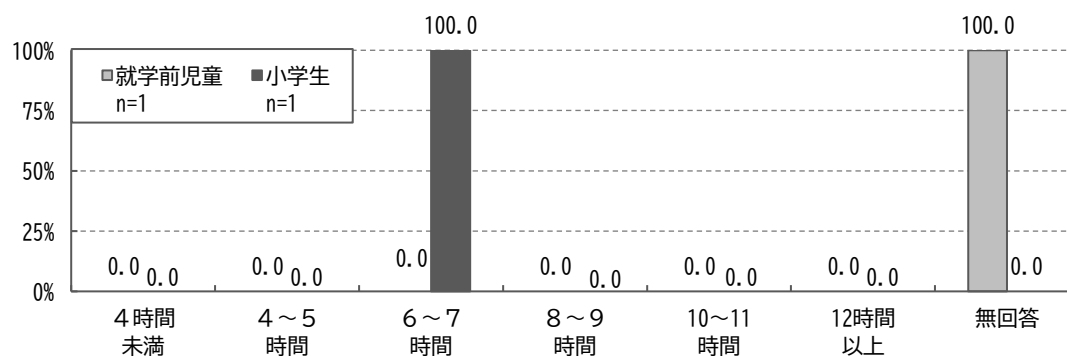
問13-3[問13-3] 就労していない父親の就労希望



問13-3[問13-3] 就労希望のある父親の希望就労日数（1週当たり）



問13-3[問13-3] 就労希望のある父親の希望就労時間（1日当たり）





3 子育て家庭を取り巻く環境における分析、課題

課題等の抽出にあたっては、分析を通して考察と課題抽出等を行いました。

結果1 周囲の援助が得られない、孤立した子育て環境にいる保護者は 就学前児童で14.0% 小学生で16.4%

子育てに関する親族、知人等協力者の状況は、就学前児童、小学生の保護者ともに、8割以上が日常的、または緊急時、用事の際に祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答しており、大半の保護者は協力を得られる状況です。

その一方で、協力者が「いずれもない」と回答した、孤立した子育て環境にいる保護者は就学前児童で14.0%、小学生で16.4%となっています。【問9、[問9]】



前回調査（2018年）と比較すると、協力者が「いずれもない」と回答した保護者は、就学前児童で13.6%、小学生で12.7%であったことから、今回調査では就学前児童が0.4^{ポイント}、小学生が3.7^{ポイント}増加しています。

以上の結果から、孤立した子育て環境にいる保護者に対してどのような子育て支援が必要とされ、有効であるかの把握が依然として課題となっています。引き続き、様々なニーズに即した子育て支援施策の実施を進める必要があります。

結果2 子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）がいない保護者は 就学前児童で5.4%、小学生で9.2%

子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）が、「いる／ある」と回答した保護者は、就学前児童、小学生の保護者ともに約9割となり、その相手として「配偶者」（就学前児童85.2%、小学生77.9%）、「祖父母等の親族」（就学前児童77.9%、小学生69.2%）、「友人や知人」（就学前児童68.5%、小学生73.1%）が上位を占め、その多くは身近な人達となっています。

身近な親族や友人、知人以外では、就学前児童は「保育士、幼稚園教諭」（44.2%）、小学生は「小学校の先生」（26.3%）の割合が高く、対照的に「民生委員、児童委員」、「自治体の子育て関連担当職員」、「市の子育て関連担当窓口」などの公的機関をあげた割合は就学前児童、小学生の保護者ともに1割未満となっています。

また、気軽に相談できる相手（先）が「いない／ない」と回答した保護者は、就学前児童で5.4%、小学生で9.2%となっています。【問10・10-1（1）（2）、[問10・10-1]】



前回調査（2018年）と比較すると、気軽に相談できる相手（先）が「いない／ない」と回答した保護者は、就学前児童で3.5%、小学生で6.0%であったことから、今回調査では就学前児童が1.9^{ポイント}、小学生が3.2^{ポイント}増加しています。

以上の結果から、相談することができる公的な機関の充実や教育・保育施設等との連携、活動内容の周知、アクセスしやすく気軽に相談できる体制づくりなどについて引き続き実施するとともに、ニーズに即した新たな支援施策についても検討する必要があります。

**結果3 母親の就労率（育休等を含む）は就学前児童で74.0%、小学生で80.4%**

母親の就労状況（産休・育休・介護休業中含む）をみると、就学前児童が74.0%、就学児童が80.4%となり、そのうち産休、育休、介護休業中の方は、就学前児童で18.7%、小学生で2.1%となっています。

母親の就労日数は、就学前児童、小学生ともに「5日」（就学前児童69.2%、小学生58.4%）の割合が最も高くなっています。

母親の家を出る時刻は、就学前児童、小学生ともに「8時台」（就学前児童54.1%、小学生54.5%）の割合が最も高く、次いで「7時台」（就学前児童25.8%、小学生20.1%）となり、また、帰宅時刻は就学前児童、小学生ともに「18時～19時台」（就学前児童40.5%、小学生32.1%）の割合が最も高くなっています。

【問12・12-1（1）（2）、[問12・問12-1（1）（2）]】



前回調査（2018年）と比較すると、母親の就労率（育休等を含む）は、就学前児童で64.4%、小学生で77.9%であったことから、今回調査では就学前児童が9.6^{ポイ}、小学生が2.5^{ポイ}増加しています。また、就労日数についても、前回調査に比べて「5日」の割合が就学前児童で4.4ポイント、小学生が3.6ポイント増加しています。

以上の結果から、前回調査よりも就労する母親がさらに増加していることから、定期的な教育、保育事業については、就労実態に即した事業体制を整える必要があり、土日、祝日の事業体制の構築についても検討していく必要があります。

第3章

子育て支援サービスの現状と 今後の利用希望



第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

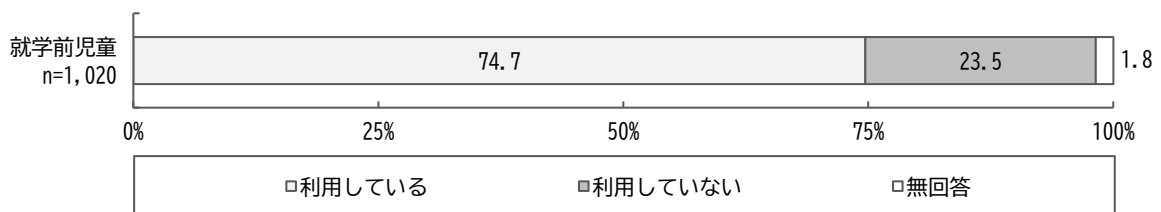
1 就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

(1) 平日の定期的な教育・保育事業

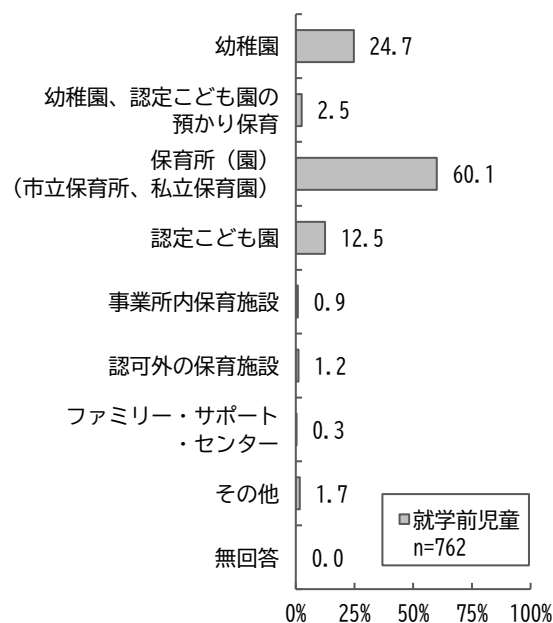
○定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、就学前児童では、「利用している」が7割以上を占めています。

○利用中の事業をみると、就学前児童では、「保育所（園）」（60.1%）が最も高く、次いで「幼稚園」（24.7%）、「認定こども園」（12.5%）となっています。

問14 定期的な教育・保育事業の利用状況



問14-1 定期的な教育・保育事業の利用状況

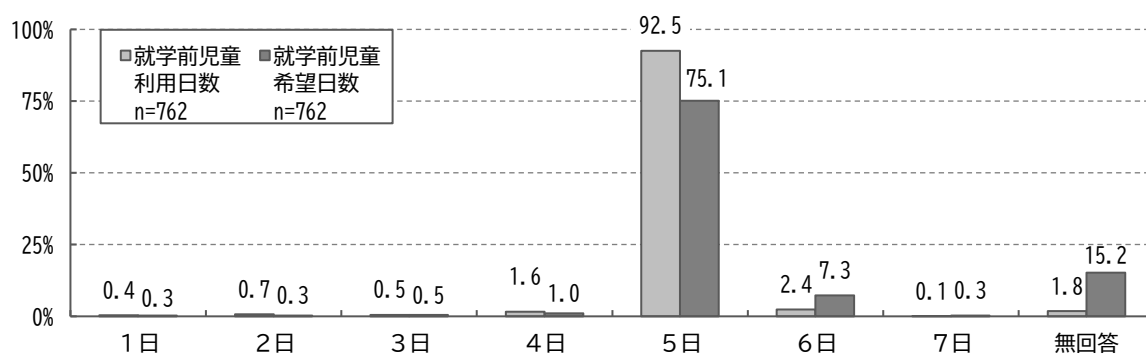




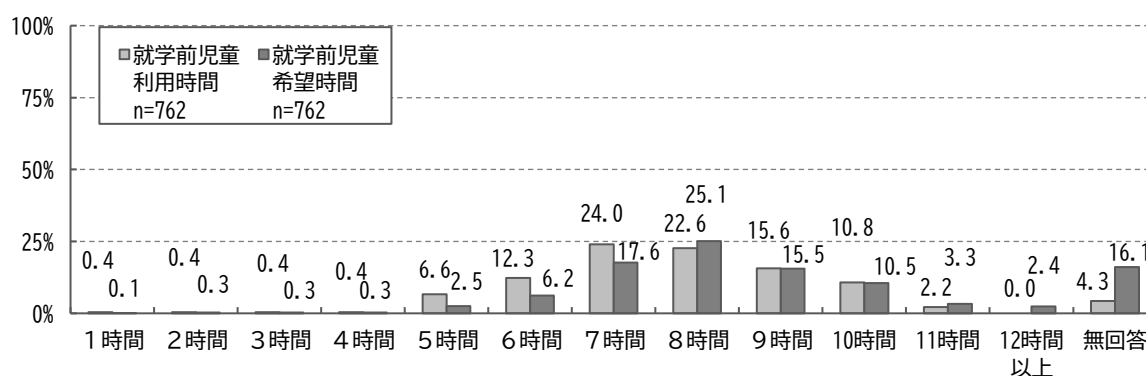
○定期的な教育・保育事業の1週当たりの利用日数と希望日数をみると、就学前児童では、利用日数、希望日数いずれも「5日」（利用日数92.5%、希望日数75.1%）が最も高くなっています。

○1日当たりの利用時間と希望時間をみると、就学前児童では、利用時間で「7時間」（24.0%）が最も高く、次いで「8時間」（22.6%）となっています。希望時間では「8時間」（25.1%）が最も高く、次いで「7時間」（17.6%）、「9時間」（15.5%）の順となっています。

問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数(1週当たり)

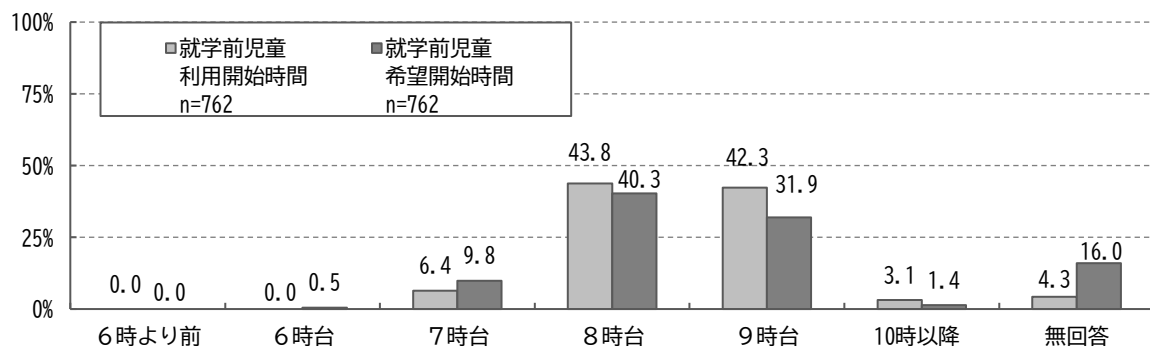


問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間(1日当たり)

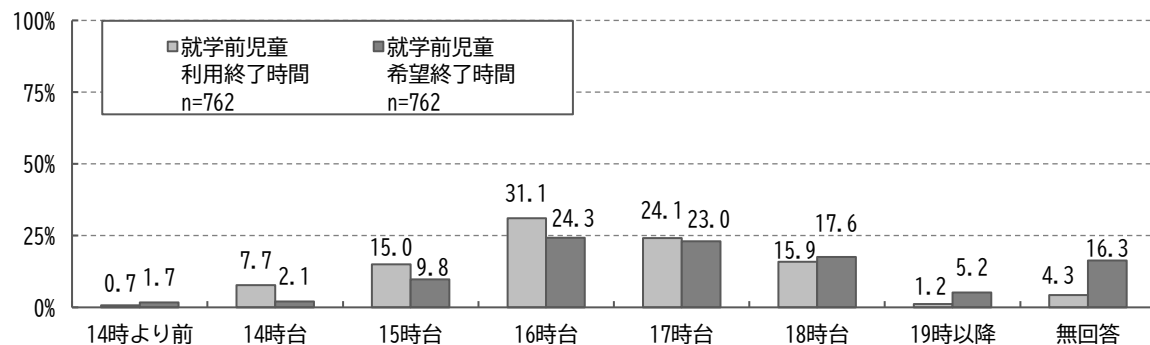


- 定期的な教育・保育事業の利用開始時間と希望開始時間をみると、利用開始時間、希望開始時間いずれも「8時台」（利用開始時間43.8%、希望開始時間40.3%）が最も高く、次いで「9時台」（利用開始時間42.3%、希望開始時間31.9%）となっています。
- 定期的な教育・保育事業の利用終了時間と希望終了時間をみると、利用終了時間、希望終了時間いずれも「16時台」（利用終了時間31.1%、希望終了時間24.3%）が最も高く、次いで「17時台」（利用終了時間24.1%、希望終了時間23.0%）となっています。
- 定期的な教育・保育事業を選んだ理由をみると、就学前児童では、「施設が距離的に近い場所にある」が7割となっています。

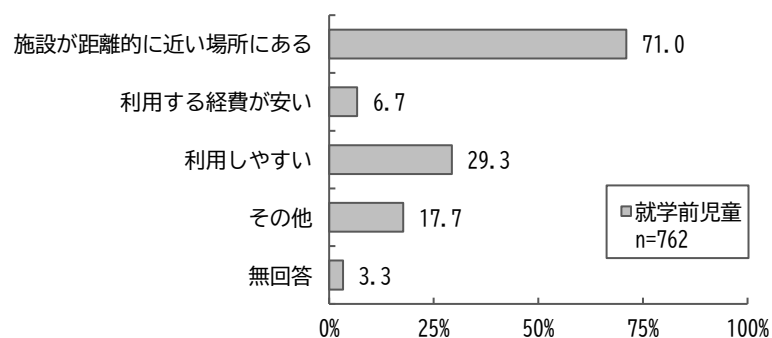
問14-2(1)(2) 利用開始時間 希望開始時間



問14-2(1)(2) 利用終了時間 希望終了時間



問14-2(1).1 定期的に利用している教育・保育の事業を選んだ理由



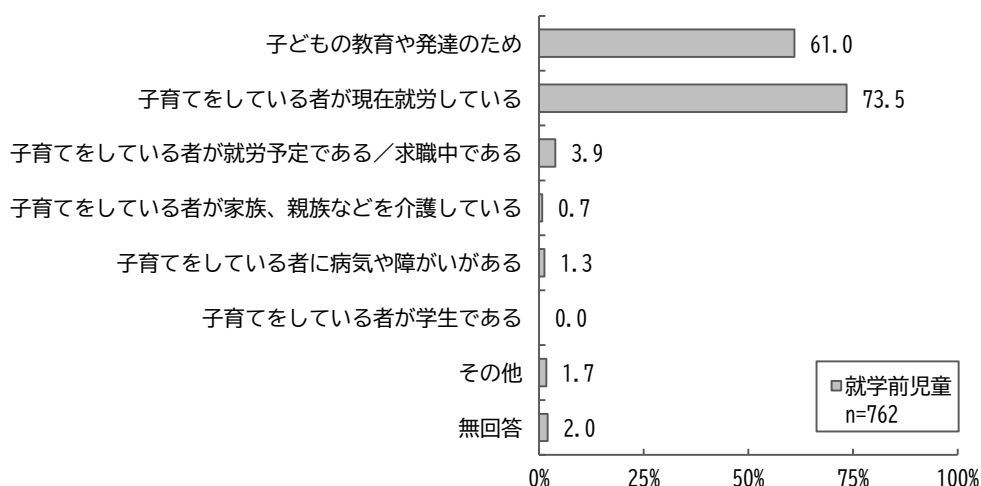
(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由

○平日に教育・保育事業を利用している理由をみると、「子育てをしている者が現在就労している」(73.5%)が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」(61.0%)となっています。

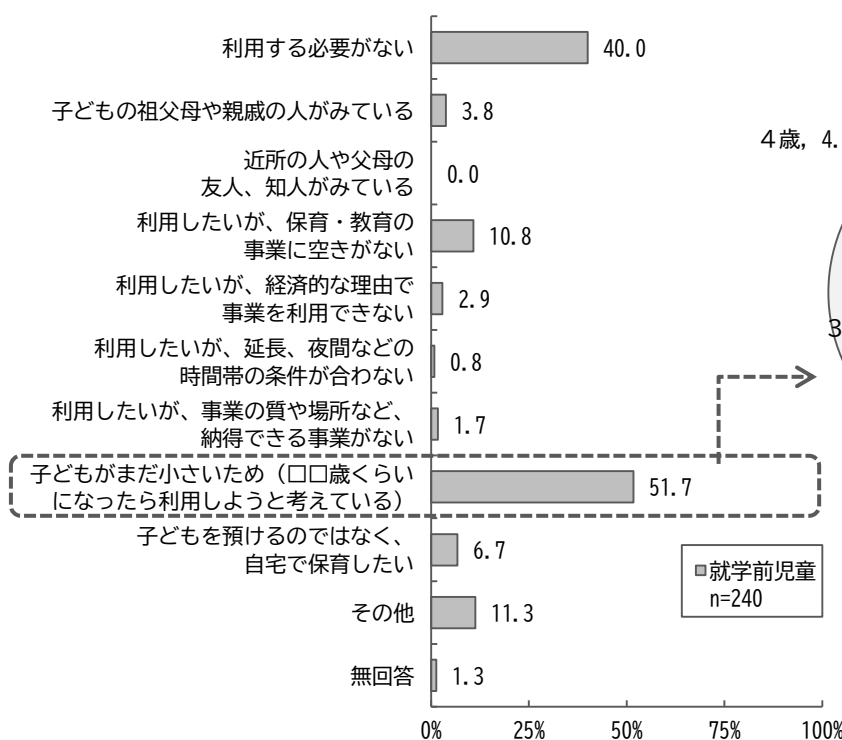
○平日に教育・保育事業を利用していない理由をみると、「子どもがまだ小さいため(□□歳くらいになったら利用しようと考えている)」(51.7%)が最も高く、次いで「利用する必要がない」(40.0%)となっています。

○「子どもがまだ小さいため(□□歳くらいになったら利用しようと考えている)」と回答した人が、教育・保育事業の利用を希望する子どもの年齢をみると、就学前児童では、「3歳」(50.8%)が最も高くなっています。

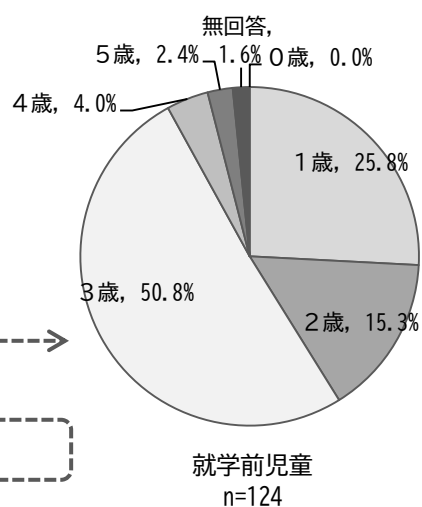
問14-4 平日に教育・保育事業を利用している理由



問14-5 教育・保育事業を利用していない理由

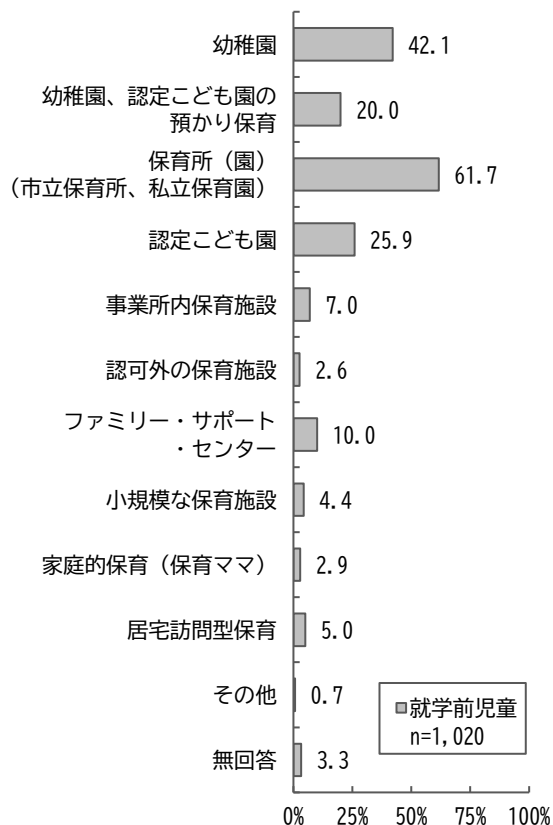


問14-5.8 利用を希望する子どもの年齢

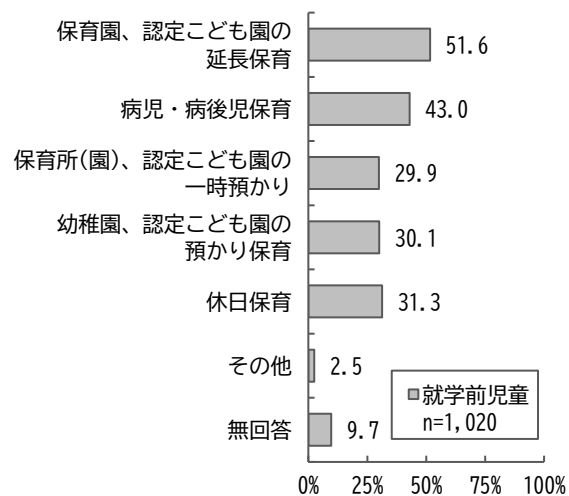


- 希望する定期的な事業をみると、「保育所（園）」（61.7%）が最も高く、次いで「幼稚園」（42.1%）、「認定こども園」（25.9%）となっています。
- 利用したい保育サービスは、「保育園、認定こども園の延長保育」（51.6%）が最も高く、次いで「病児・病後児保育」（43.0%）、「休日保育」（31.3%）となっています。
- 定期的な教育・保育事業として、「幼稚園」や「幼稚園、認定こども園の預かり保育」と合わせてほかの事業の利用も希望される方のうち、特に「幼稚園」の利用を強く希望している方は、約6割となっています。

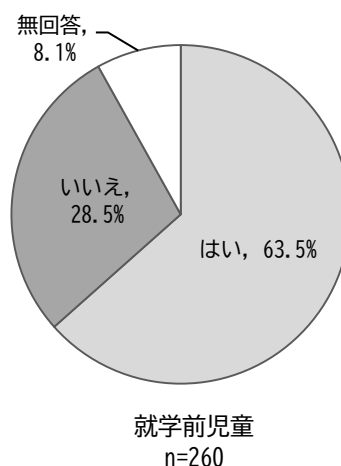
問15 希望する定期的な教育・保育事業



問15-1 利用したい保育サービス



問15-2 幼稚園の利用を強く希望

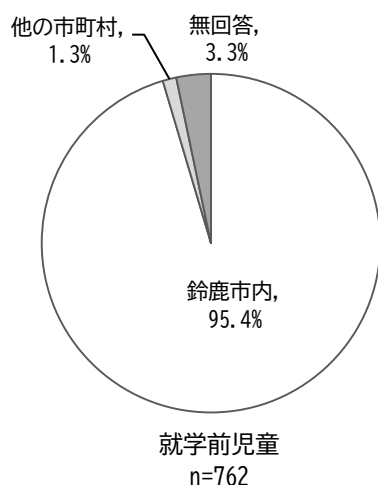




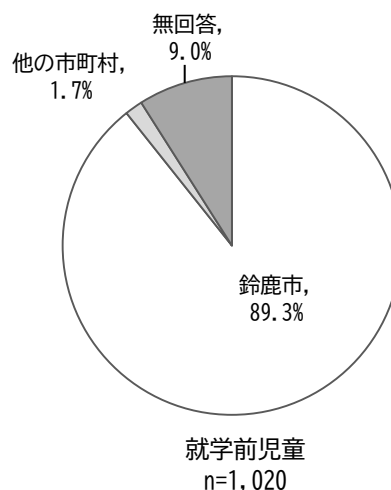
○現在平日に利用している教育・保育事業の実施場所と希望実施場所をみると、就学前児童では、実施場所、希望実施場所いずれも「鈴鹿市内」が約9割となっています。

○鈴鹿市の子育て支援施策として期待するものをみると、「経済的支援の充実」(82.2%)が最も高く、次いで「就労要件などが無く、誰でも利用できる保育サービスの充実」(49.8%)、「オムツ等の物資支援の充実」(44.8%)、「子育てに関する相談、情報提供の充実」(30.9%)となっています。

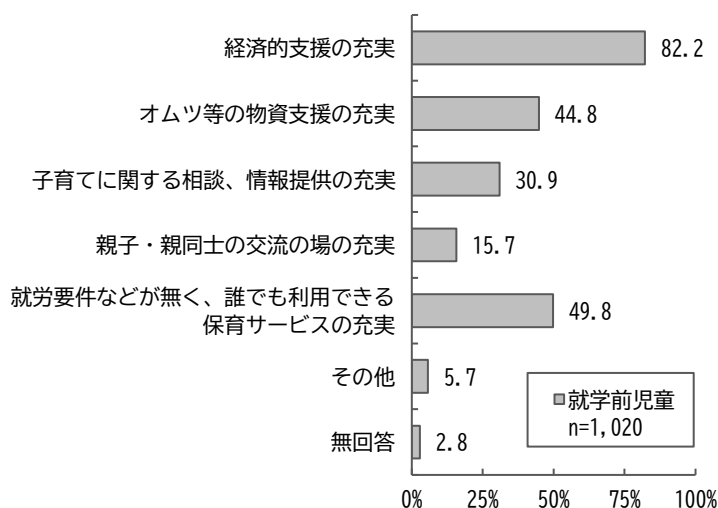
問14-3 教育・保育事業の実施場所



問15-3 教育・保育事業の希望実施場所



問15-4 鈴鹿市の子育て支援施策として期待するもの



2 小学生の平日の定期的な子育て支援事業の利用現状等

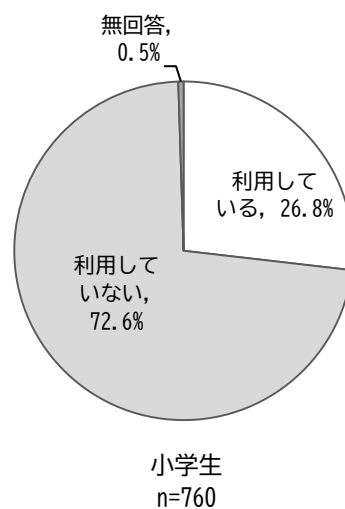
(1) 平日の定期的な子育て支援事業の利用状況

○小学生における平日の定期的な子育て支援事業の利用状況をみると、「利用していない」が7割以上を占めています。

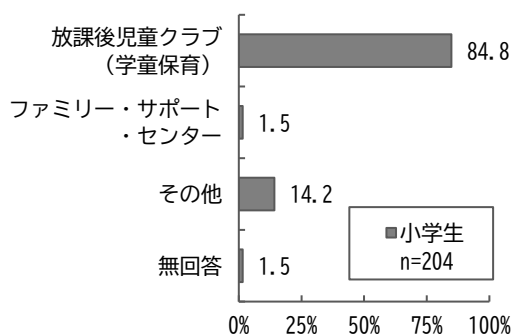
○利用中の事業をみると、小学生では、「放課後児童クラブ（学童保育）」が8割を占めています。

○希望する事業をみると、小学生では、「放課後児童クラブ（学童保育）」（45.9%）が最も高くなっています。

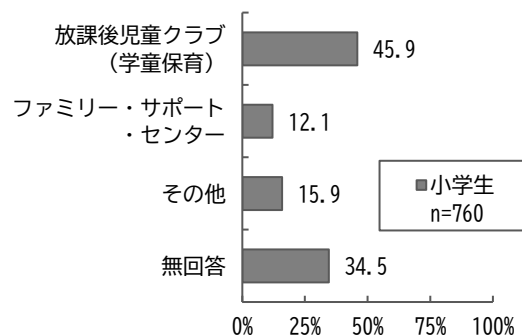
〔問14〕 定期的な子育て支援事業の利用状況



〔問14-1〕 定期的な子育て支援事業の利用状況



〔問15〕 希望する子育て支援事業

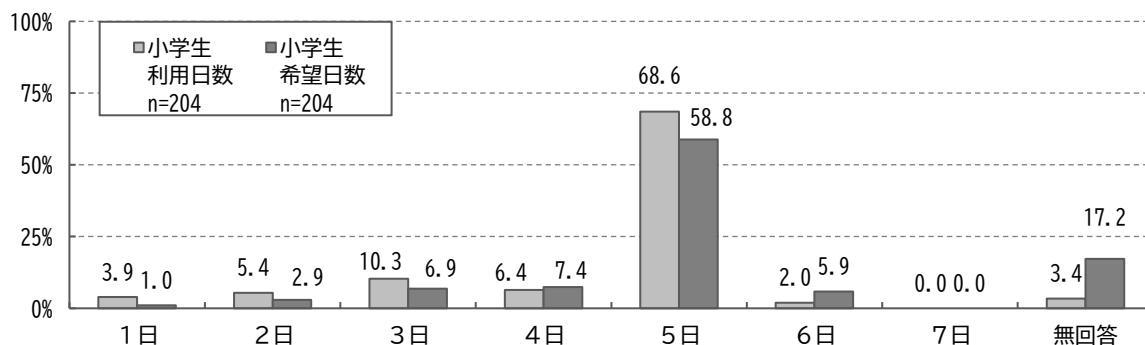




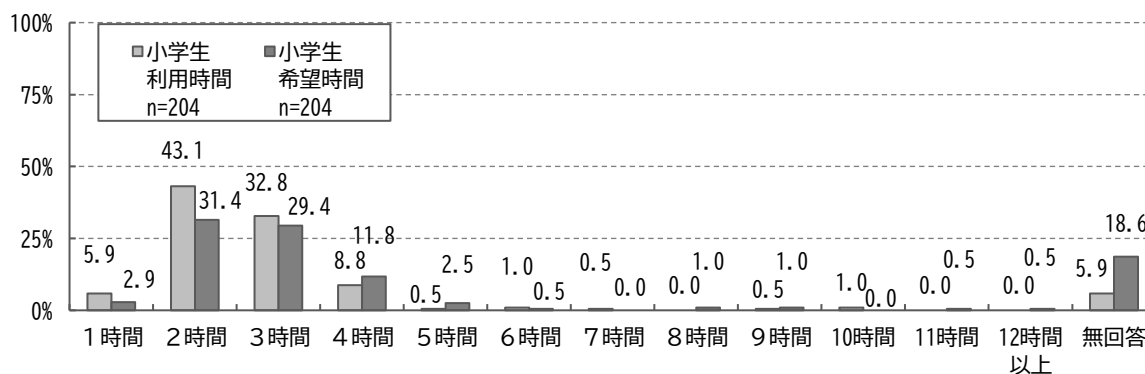
○定期的な子育て支援事業の1週当たりの利用日数と希望日数をみると、小学生では、利用日数、希望日数いずれも「5日」（利用日数68.6%、希望日数58.8%）が最も高くなっています。

○定期的な子育て支援事業の1日当たりの利用時間と希望時間をみると、小学生では、利用時間、希望時間いずれも「2時間」（利用時間43.1%、希望時間31.4%）が最も高くなっています。

〔問14-2(1)(2)〕 定期的な子育て支援事業の利用日数と希望日数(1週当たり)



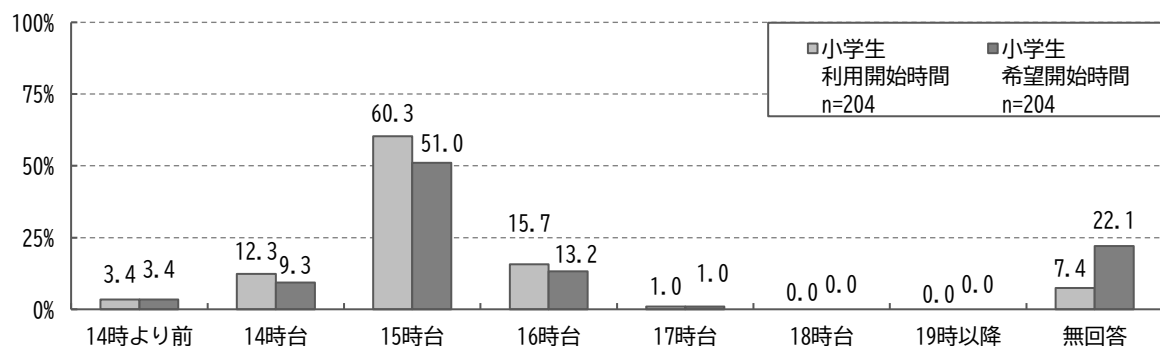
〔問14-2(1)(2)〕 定期的な子育て支援事業の利用時間と希望時間(1日当たり)



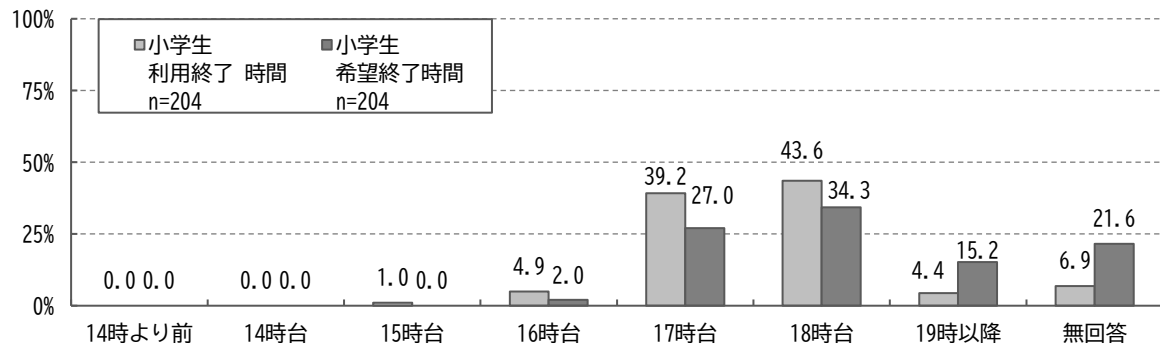
○定期的な子育て支援事業の利用開始時間と希望開始時間をみると、小学生では、利用開始時間、希望開始時間いずれも「15時台」(利用開始時間60.3%、希望開始時間51.0%)が最も高く、次いで「16時台」(利用開始時間15.7%、希望開始時間13.2%)となっています。

○定期的な子育て支援事業の利用終了時間と希望終了時間をみると、小学生では、利用終了時間、希望終了時間いずれも「18時台」(利用終了時間43.6%、希望終了時間34.3%)が最も高く、次いで「17時台」(利用終了時間39.2%、希望終了時間27.0%)となっています。

〔問14-2(1)(2)〕 利用開始時間 希望開始時間



〔問14-2(1)(2)〕 利用終了時間 希望終了時間

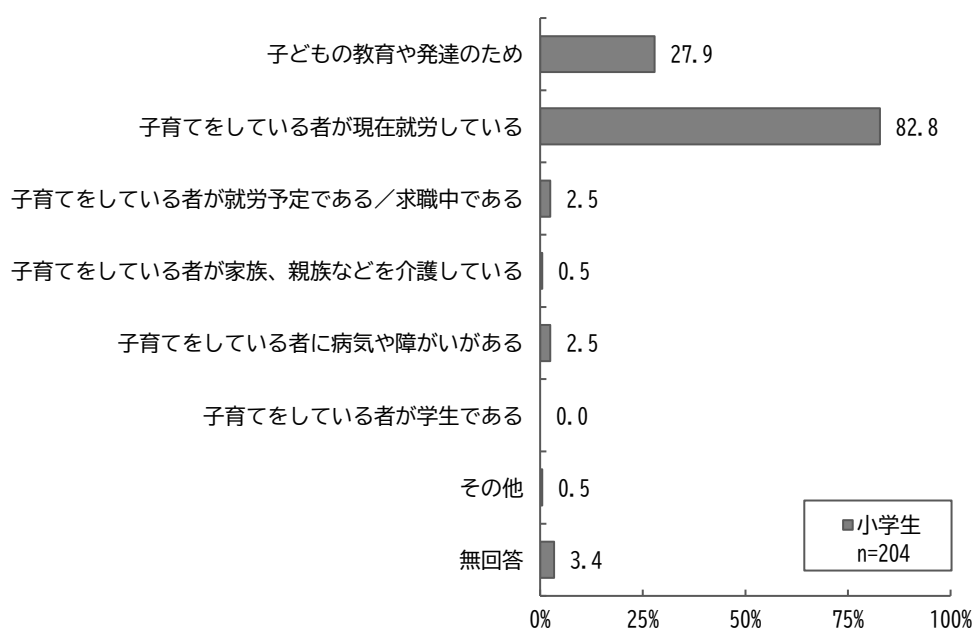


(2) 定期的な子育て支援事業の利用理由と未利用の理由

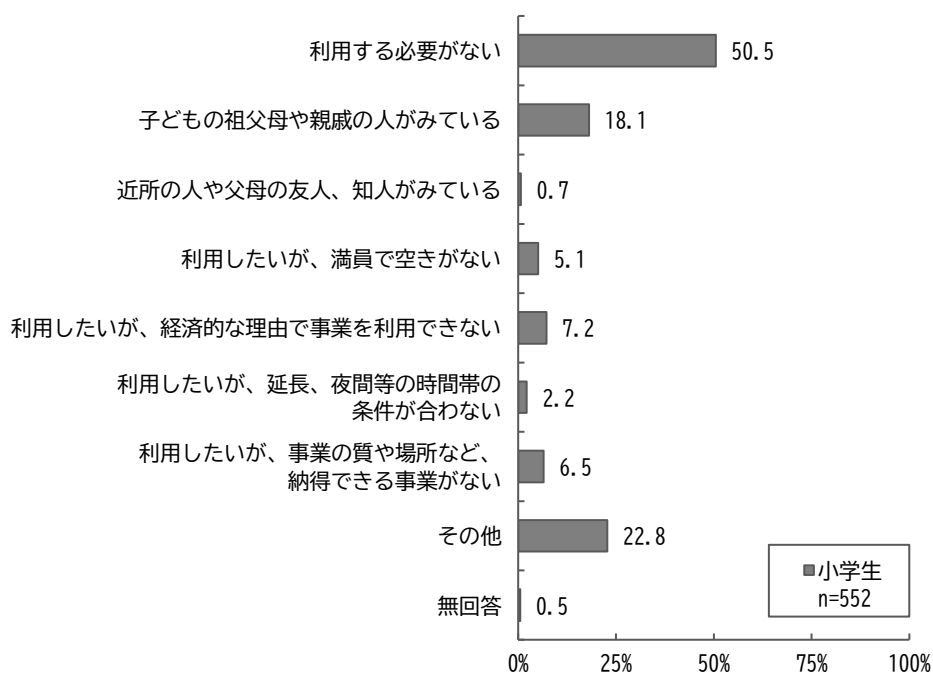
○平日に子育て支援事業を利用している理由をみると、「子育てをしている者が現在就労している」(82.8%)が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」(27.9%)となっています。

○利用していない理由をみると、「利用する必要がある」(50.5%)が最も高く、次いで「子どもの祖父母や親戚の人がみている」(18.1%)となっています。

〔問14-3〕 平日に子育て支援事業を利用している理由



〔問14-4〕 子育て支援事業を利用していない理由



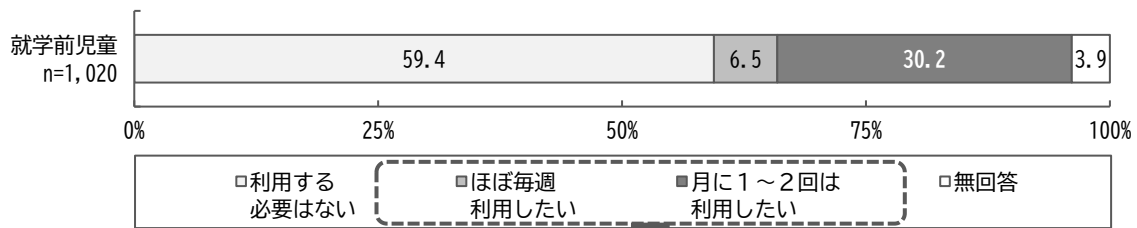
3 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜日と日曜日、祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

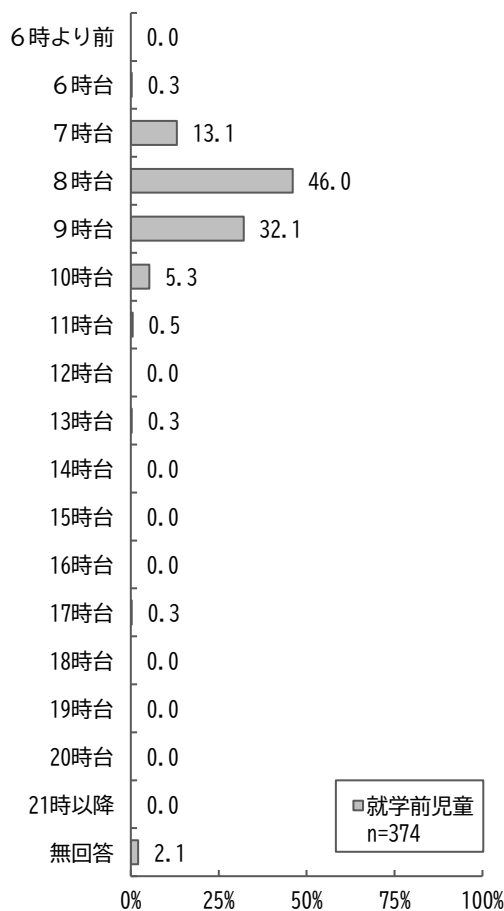
○土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「ほぼ毎週利用したい」(6.5%)、「月に1～2回は利用したい」(30.2%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「8時台」(46.0%)、終了時間で「17時台」(25.4%)が最も高くなっています。

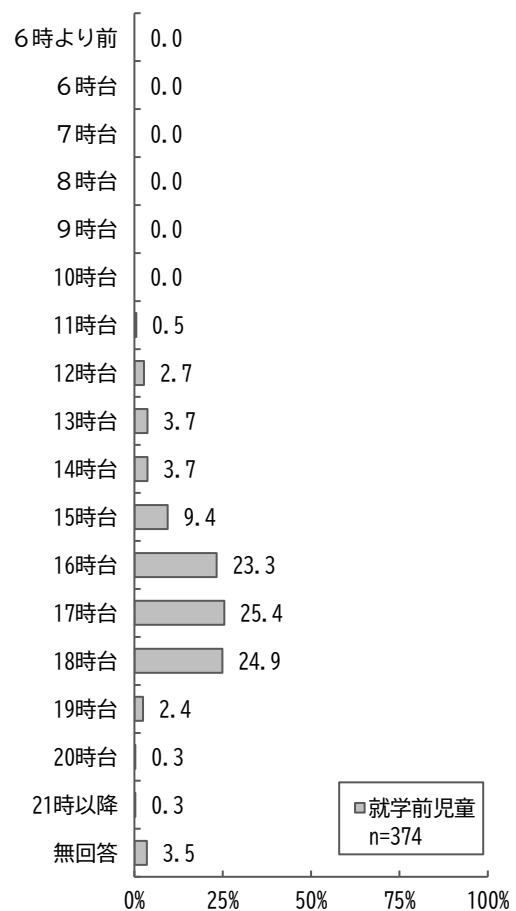
問19(1) 土曜日の利用希望



問19(1) 希望開始時間



問19(1) 希望終了時間

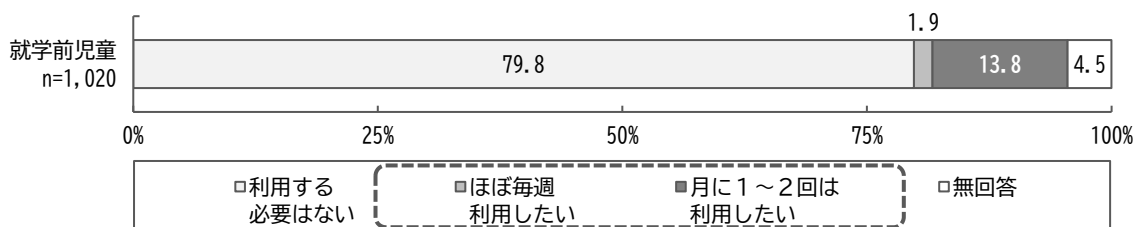




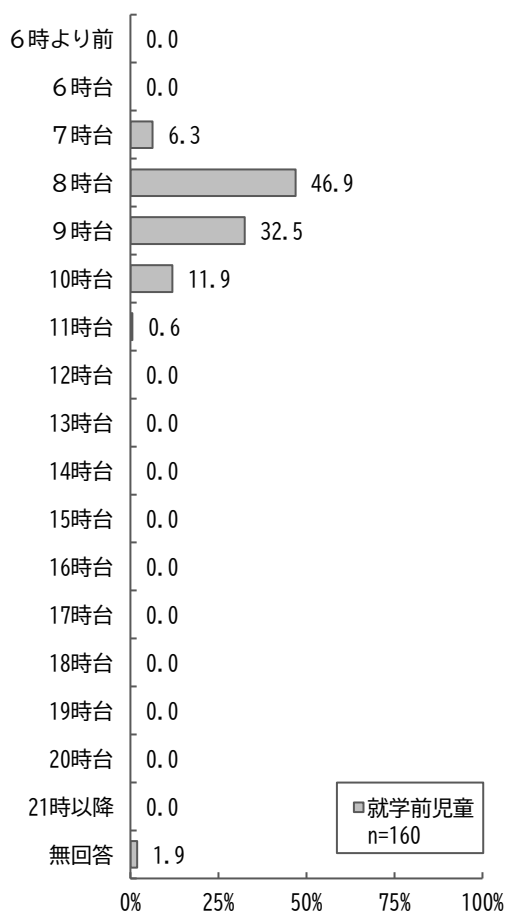
○日曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「ほぼ毎週利用したい」(1.9%)、「月に1～2回は利用したい」(13.8%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「8時台」(46.9%)、終了時間で「18時台」(25.0%)が最も高くなっています。

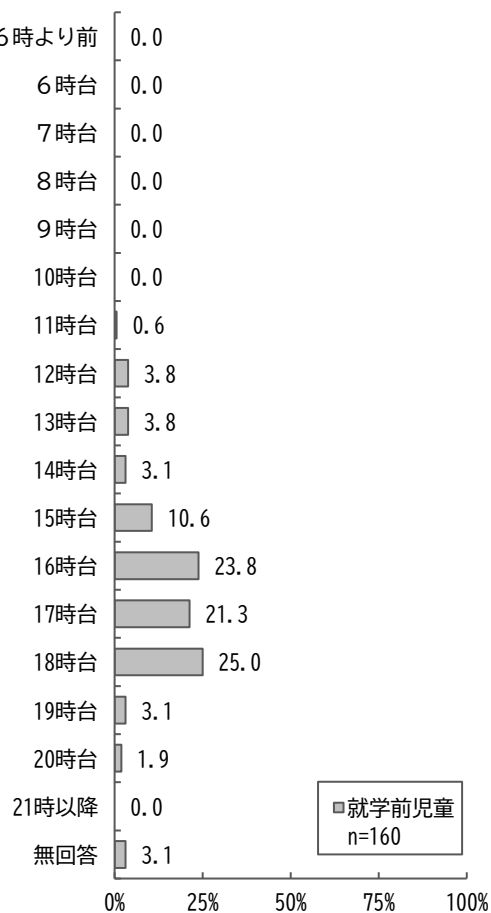
問19(2) 日曜日の利用希望



問19(2) 希望開始時間



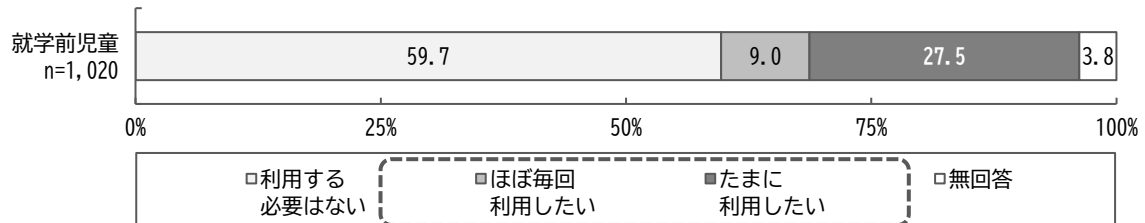
問19(2) 希望終了時間



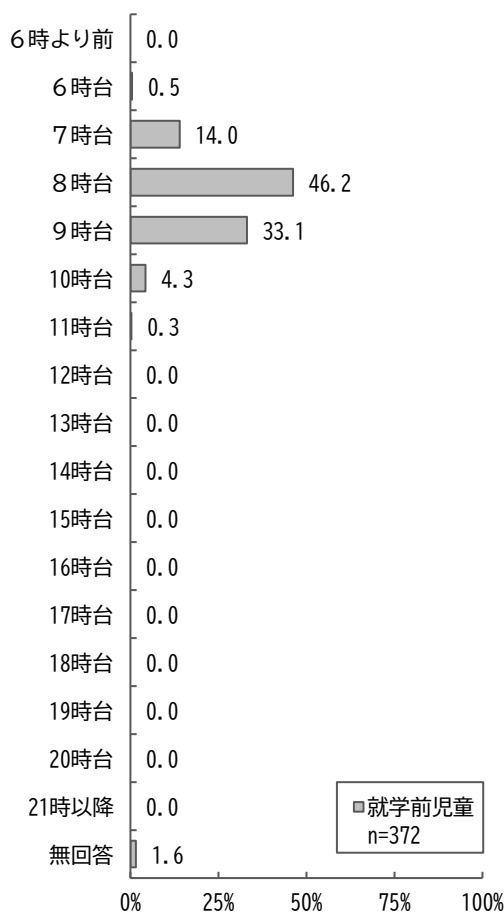
○祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「ほぼ毎回利用したい」(9.0%)、「たまに利用したい」(27.5%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「8時台」(46.2%)、終了時間で「17時台」(27.7%)が最も高くなっています。

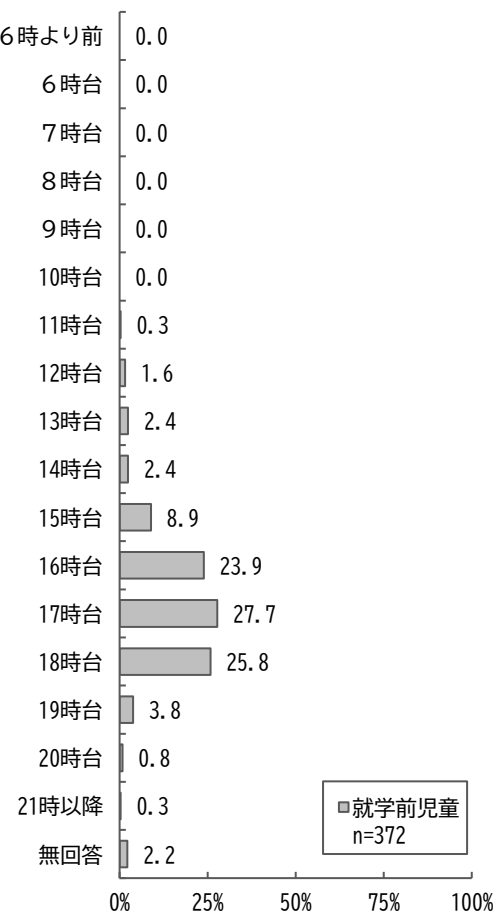
問19(3) 祝日の利用希望



問19(3) 希望開始時間



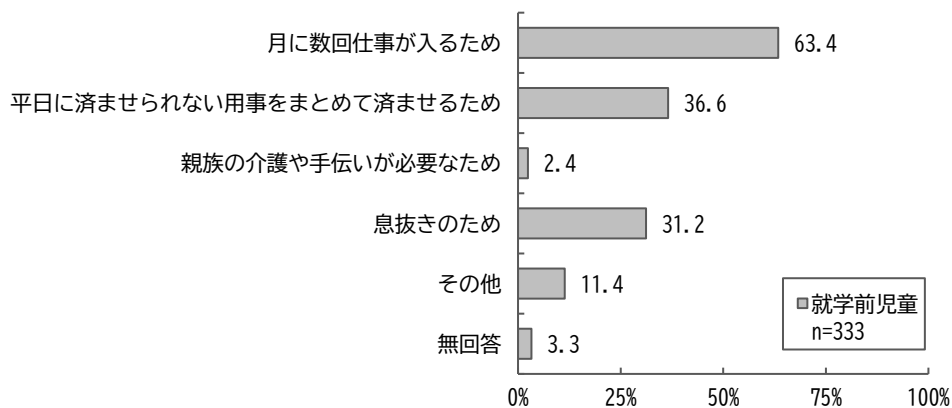
問19(3) 希望終了時間





○土曜日と日曜日において「月に1～2回は利用したい」と回答した方の理由をみると、就学前児童では、「月に数回仕事が入るため」(63.4%)が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(36.6%)、「息抜きのため」(31.2%)となっています。

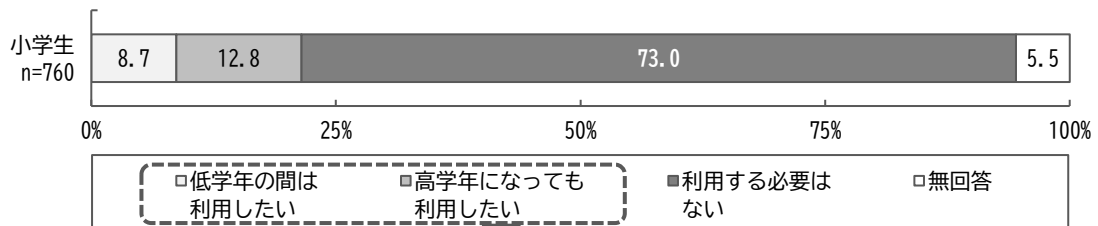
問19-1 毎週ではなく「月に1～2回利用したい」理由



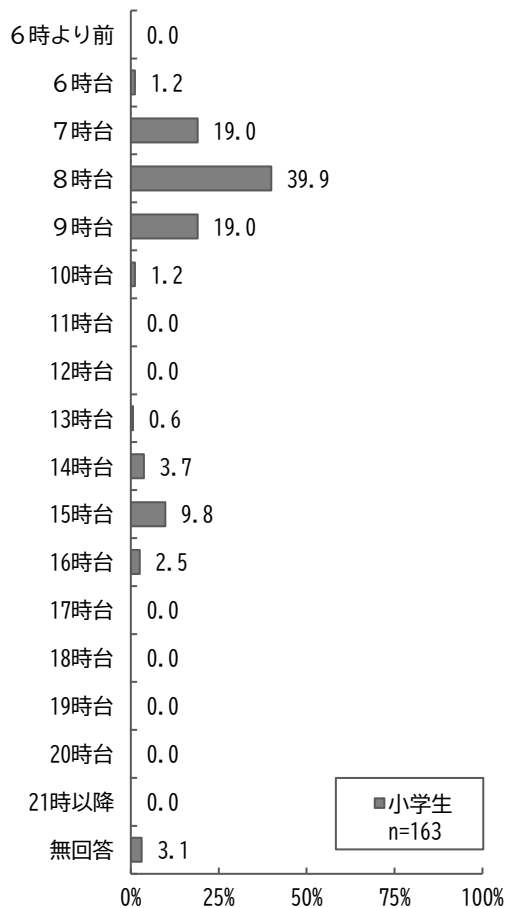
○土曜日の定期的な放課後児童クラブ等の子育て支援事業の利用意向をみると、小学生では、「利用する必要はない」（73.0％）が最も高く、次いで「高学年になっても利用したい」（12.8％）となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、小学生では、開始時間で「8時台」（39.9％）、終了時間で「18時台」（35.0％）が最も高くなっています。

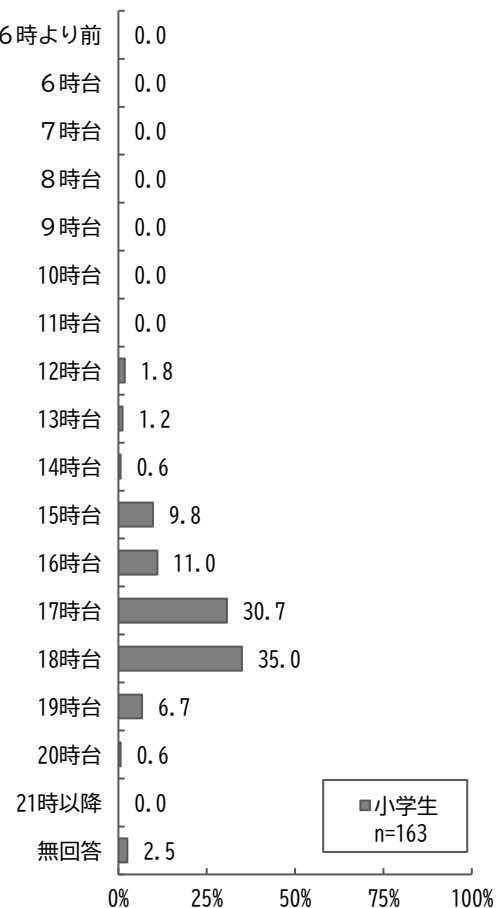
〔問16(1)〕 土曜日の利用希望



〔問16(1)〕 希望開始時間



〔問16(1)〕 希望終了時間

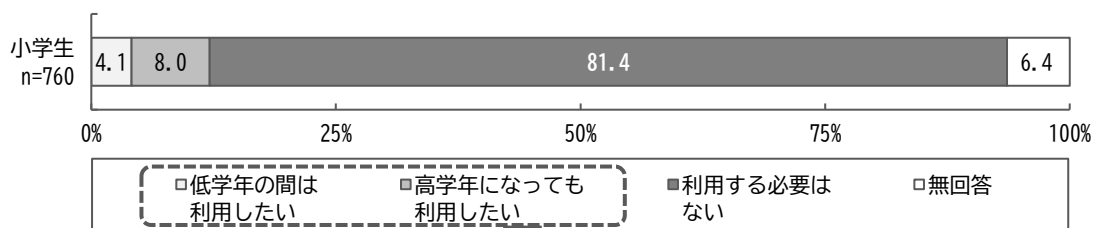




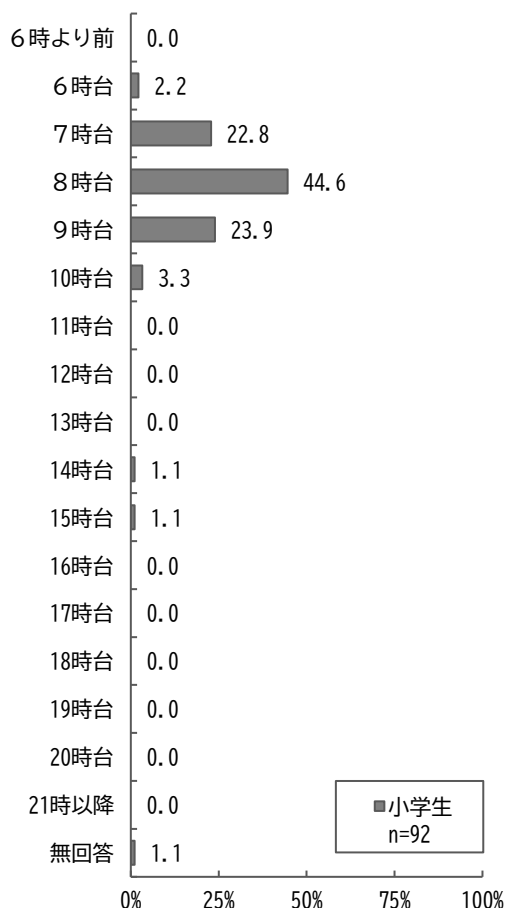
○日曜日、祝日の定期的な放課後児童クラブ等の子育て支援事業の利用意向をみると、小学生では、「利用する必要はない」(81.4%)が最も高く、次いで「高学年になっても利用したい」(8.0%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、小学生では、開始時間で「8時台」(44.6%)、終了時間で「18時台」(37.0%)が最も高くなっています。

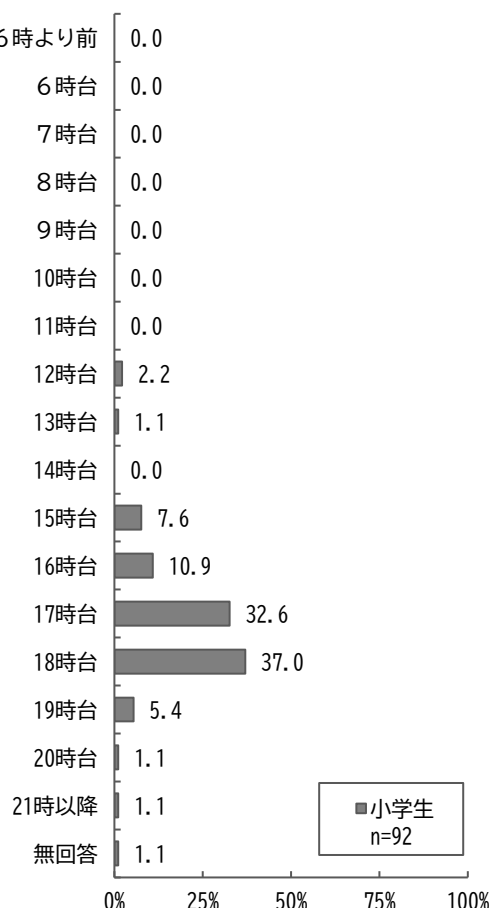
〔問16(2)〕 日曜日、祝日の利用希望



〔問16(2)〕 希望開始時間



〔問16(2)〕 希望終了時間

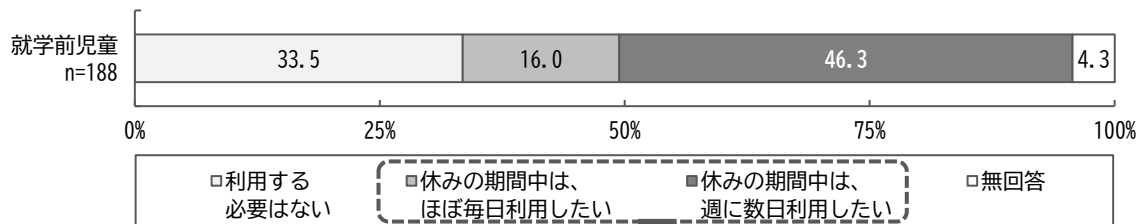


(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

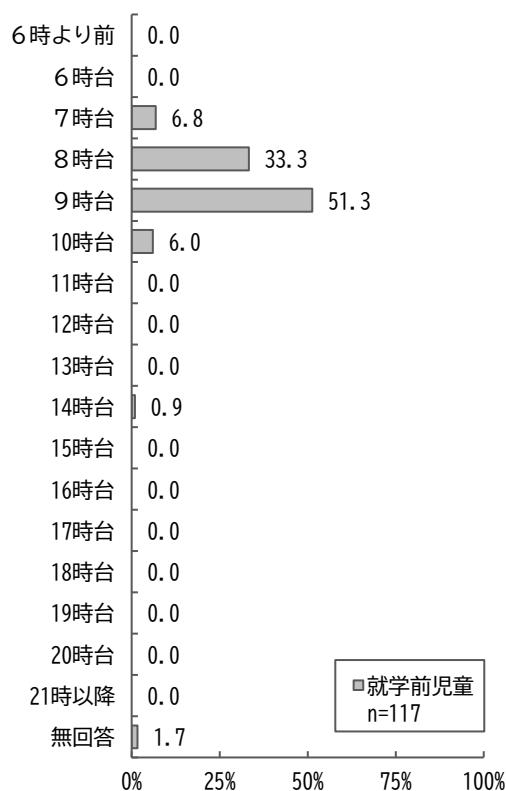
○幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用意向をみると、就学前児童では、「休みの期間中は、ほぼ毎日利用したい」(16.0%)、「休みの期間中は、週に数日利用したい」(46.3%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、就学前児童では、開始時間で「9時台」(51.3%)、終了時間で「15時台」(39.3%)が最も高くなっています。

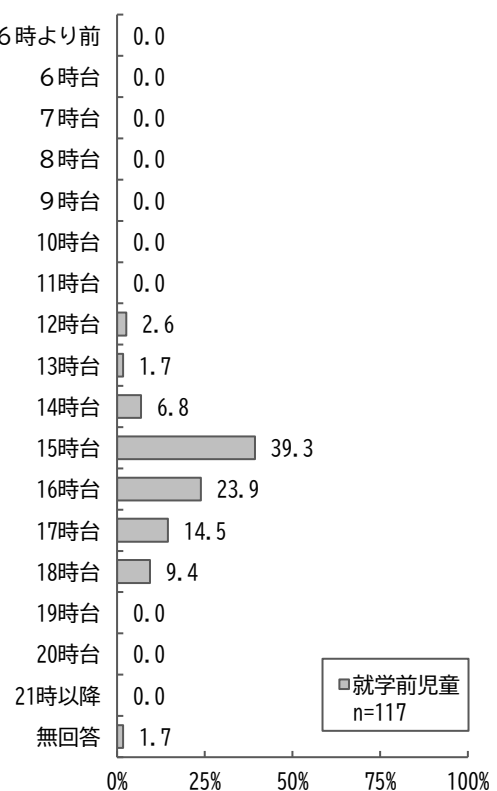
問20 長期休暇中の利用希望(幼稚園利用者)



問20 希望開始時間



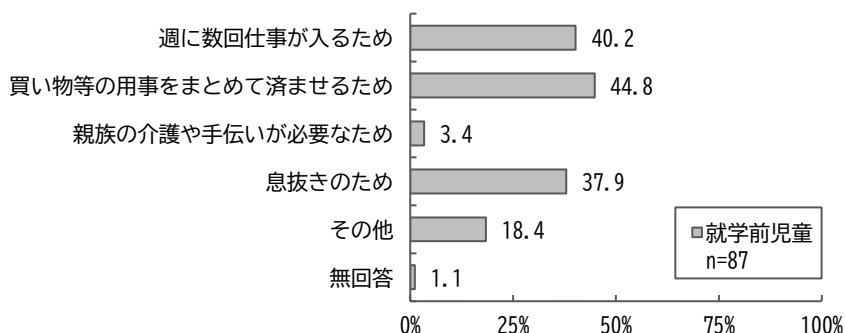
問20 希望終了時間





○長期休暇中において「休みの期間中は、週に数日利用したい」と回答した方の理由をみると、就学前児童では、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」（44.8％）が最も高く、次いで「週に数回仕事が入るため」（40.2％）、「息抜きのため」（37.9％）となっています。

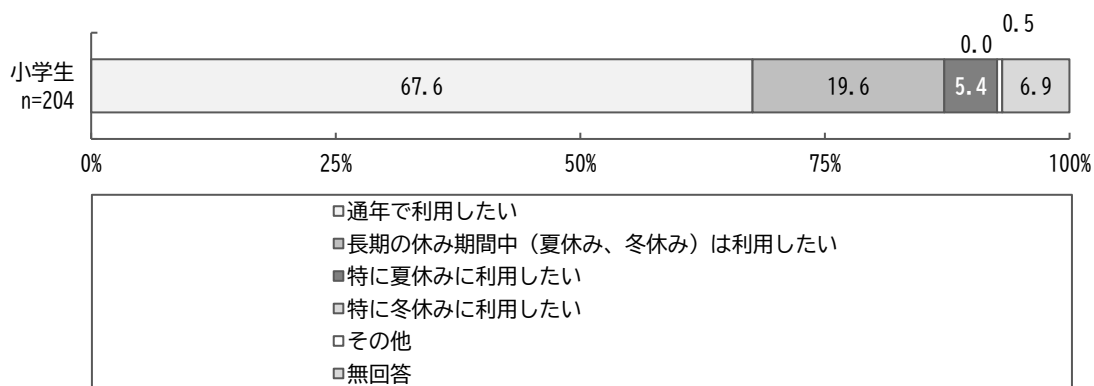
問20-1 「休みの期間中、週に数日利用したい」理由



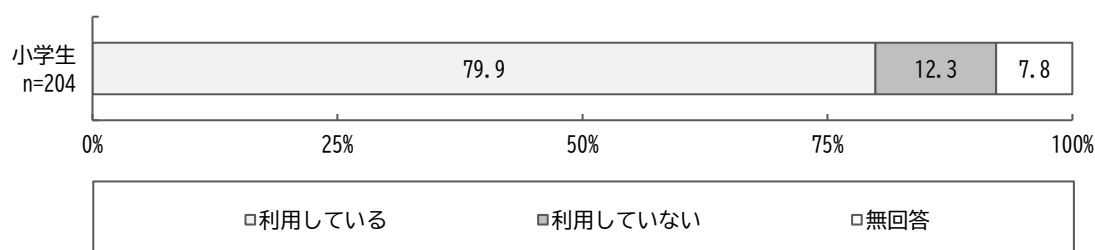
○子育て支援事業の利用を希望する期間をみると、小学生では、「通年で利用したい」（67.6％）が最も高く、次いで「長期の休み期間中（夏休み、冬休み）は利用したい」（19.6％）、「特に夏休みに利用したい」（5.4％）となっています。

○放課後児童クラブ等の子育て支援事業を利用している方の利用希望期間をみると、小学生では、「通年で利用したい」が約8割となっています。

〔問17〕 子育て支援事業の利用希望期間



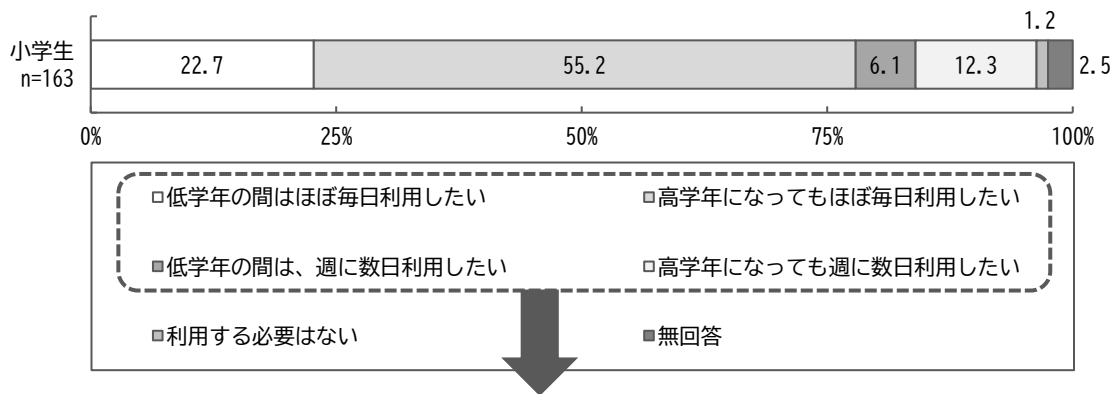
〔問18〕 夏休み、冬休みなど長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用状況



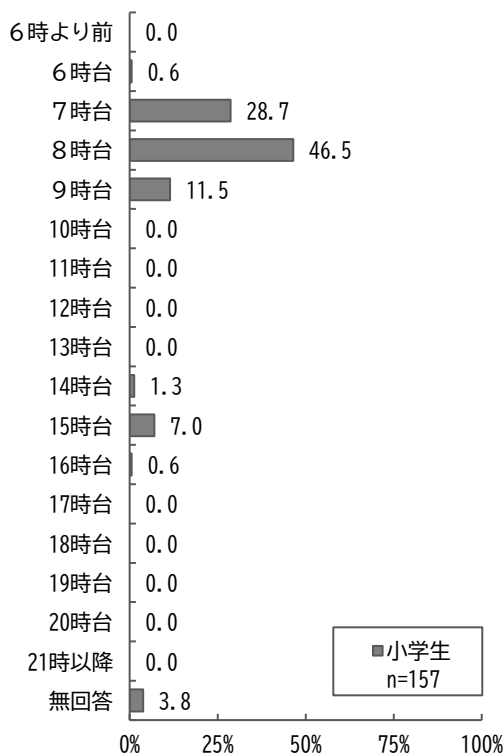
○長期休暇中の放課後児童クラブの利用意向をみると、小学生では、「高学年になってもほぼ毎日利用したい」(55.2%) が最も高く、次いで「低学年の間はほぼ毎日利用したい」(22.7%) となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、小学生では、開始時間で「8時台」(46.5%)、終了時間で「18時台」(42.7%) が最も高くなっています。

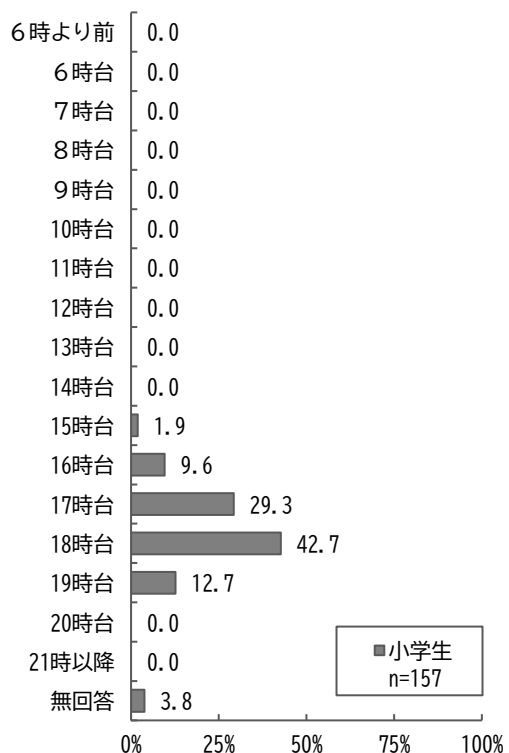
〔問18-1〕 長期休暇中の利用希望(放課後児童クラブ利用者)



〔問18-1〕 希望開始時間



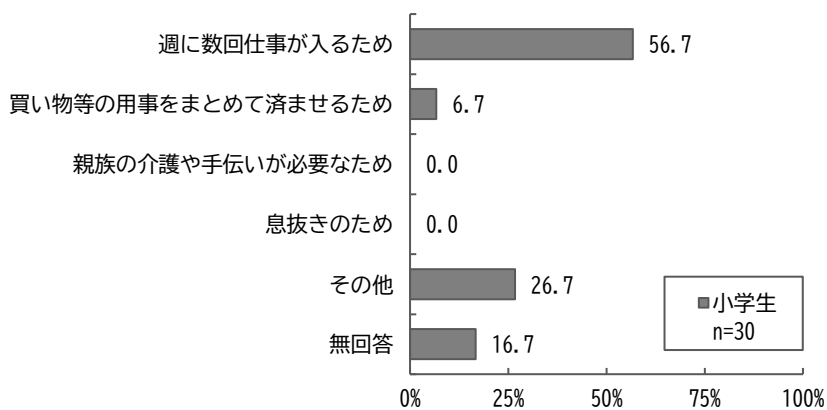
〔問18-1〕 希望終了時間





○長期休暇中において「低学年の間は、週に数日利用したい」「高学年になっても週に数日利用したい」と回答した方の理由をみると、小学生では、「週に数回仕事が入るため」（56.7%）となっています。

〔問18-2〕 毎日ではなく、たまに利用したい理由

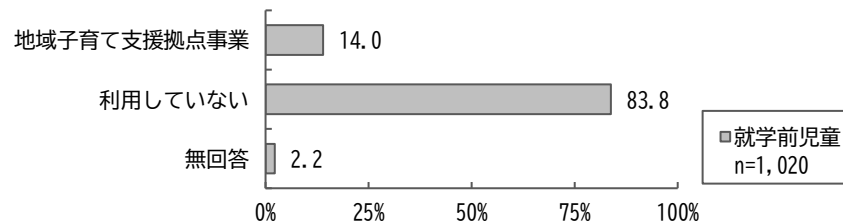


4 地域の子育て支援事業の利用状況

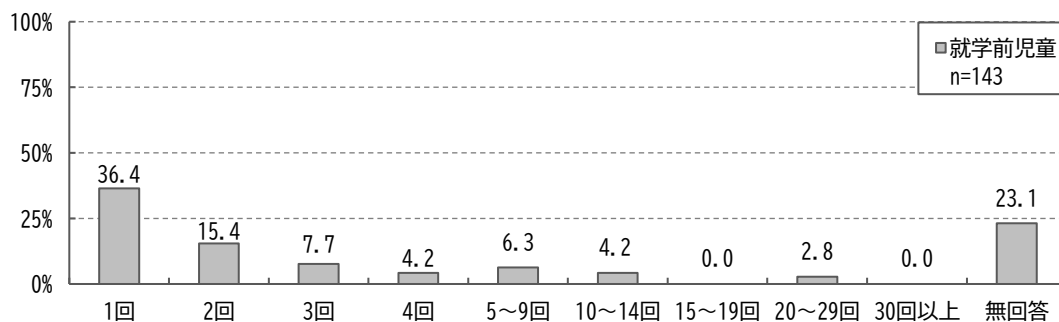
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

- 「地域子育て支援拠点事業」の利用割合は14.0%となっています。
- 「地域子育て支援拠点事業」利用者の1か月当たりの利用回数をみると、「1回」(36.4%)が最も高く、次いで「2回」(15.4%)となっています。

問16 地域子育て支援拠点事業の利用状況

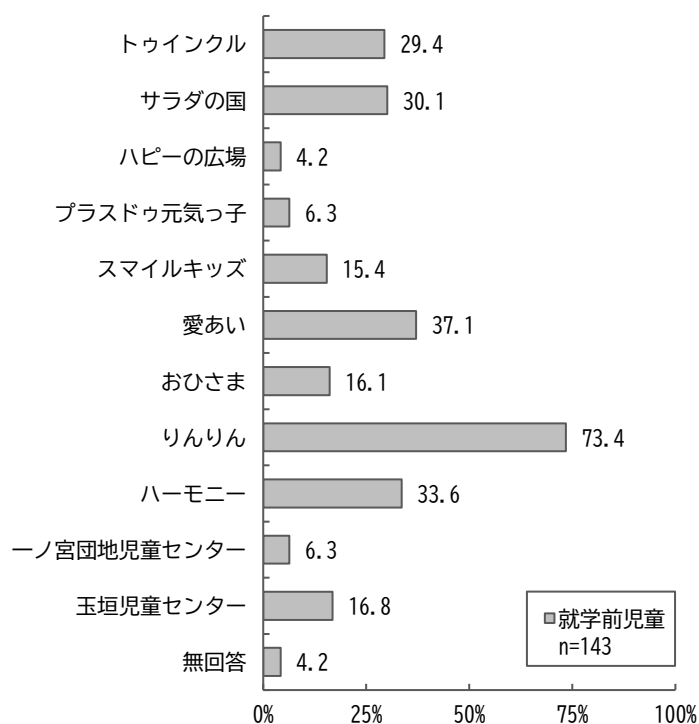


問16.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数(1か月当たり)



- 利用したことがある施設をみると、「りんりん」(73.4%)が最も高くなっています。

問16-1 利用したことがある施設



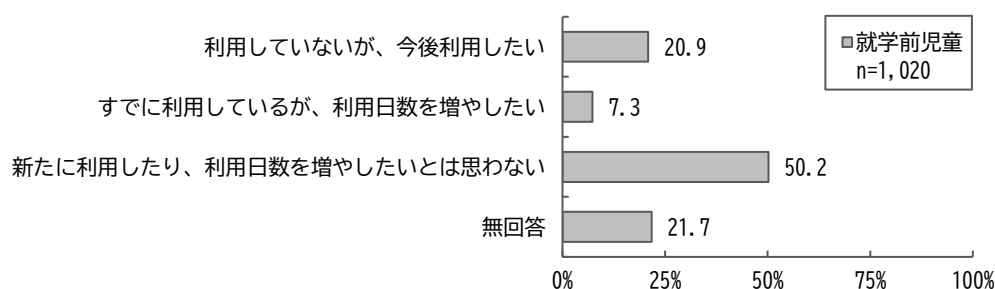
(2) 今後の利用意向

○地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向をみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が5割となっています。

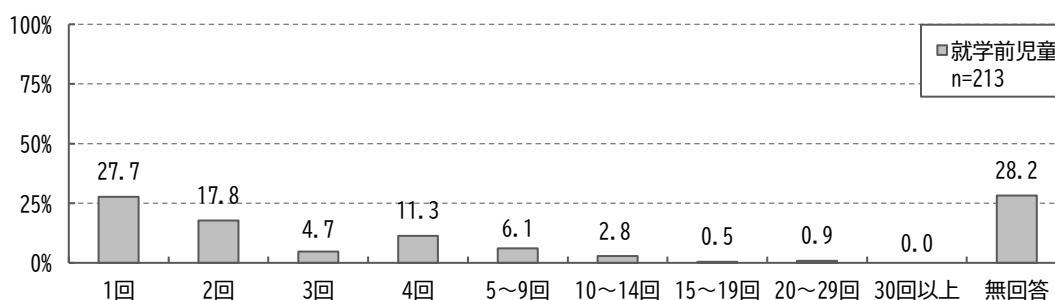
○未利用者の今後の1か月利用希望回数をみると、「1回」(27.7%)が最も高く、次いで「2回」(17.8%)、「4回」(11.3%)となっています。

○既利用者が今後増やしたい1か月当たりの利用回数をみると、「3回」(18.9%)が最も高く、次いで「2回」(14.9%)、「1回」(10.8%)となっています。

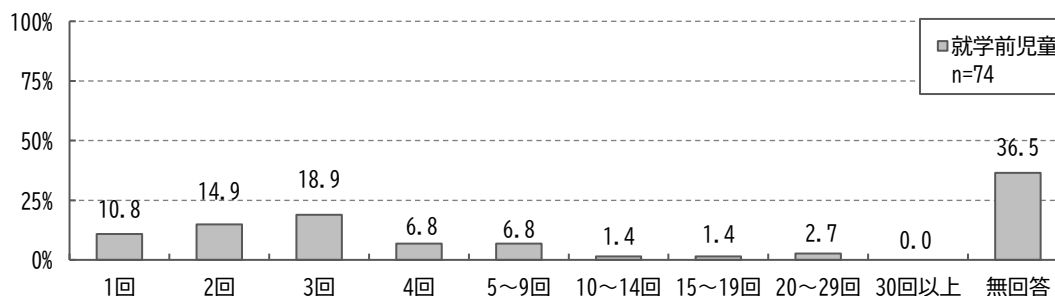
問17 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向



問17.1 未利用者の今後の利用希望回数(1か月当たり)



問17.2 既利用者の今後増やしたい利用回数(1か月当たり)



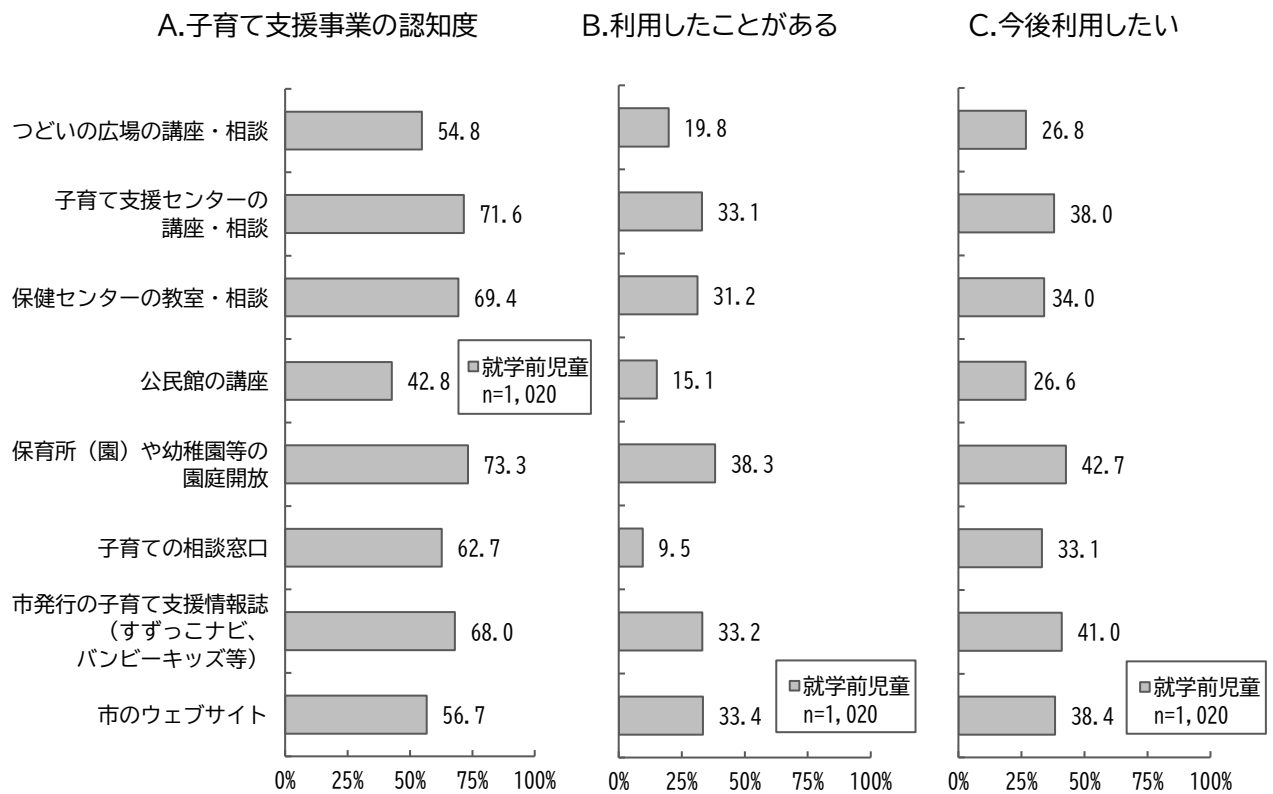
(3) 子育て支援事業の認知度、利用状況と今後の利用意向について

○子育て支援事業の認知度をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」（73.3%）が最も高く、次いで「子育て支援センターの教室・講座・相談」（71.6%）となっています。

○子育て支援事業の利用状況をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」（38.3%）が最も高く、次いで「市のウェブサイト」（33.4%）となっています。

○子育て支援事業の利用意向をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」（42.7%）が最も高く、次いで「市発行の子育て支援情報誌」（41.0%）となっています。

問18 子育て支援事業の認知度、利用状況、今後の利用意向



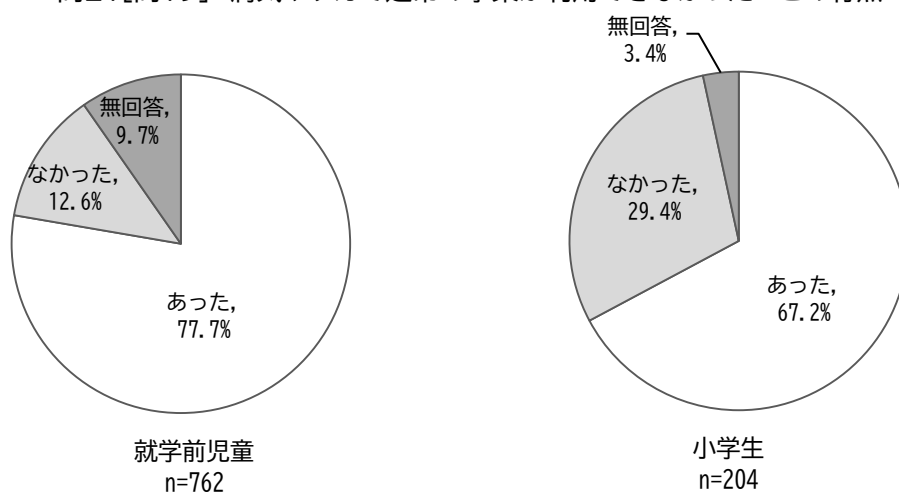
5 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

(1) 病気やケガで通常の事業が利用できない時の対処について

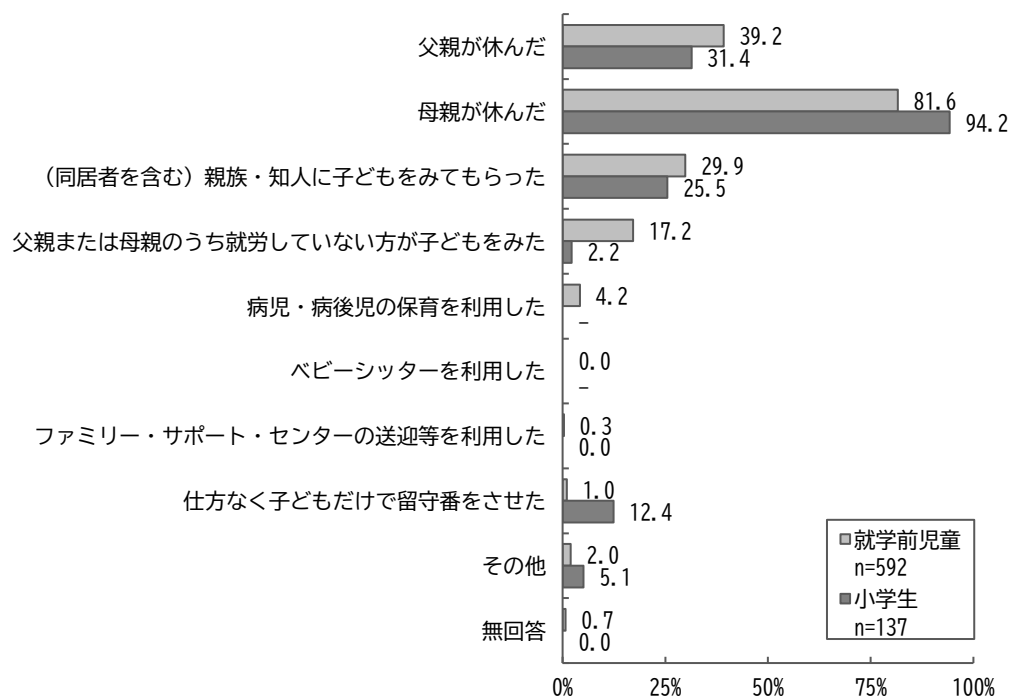
○病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが、「あった」と回答した方をみると、就学前児童では77.7%、小学生では67.2%となっています。

○その際の対処方法をみると、就学前児童、小学生いずれも「母親が休んだ」(就学前児童81.6%、小学生94.2%)が最も高く、次いで「父親が休んだ」(就学前児童39.2%、小学生31.4%)となっています。

問21[問19] 病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無



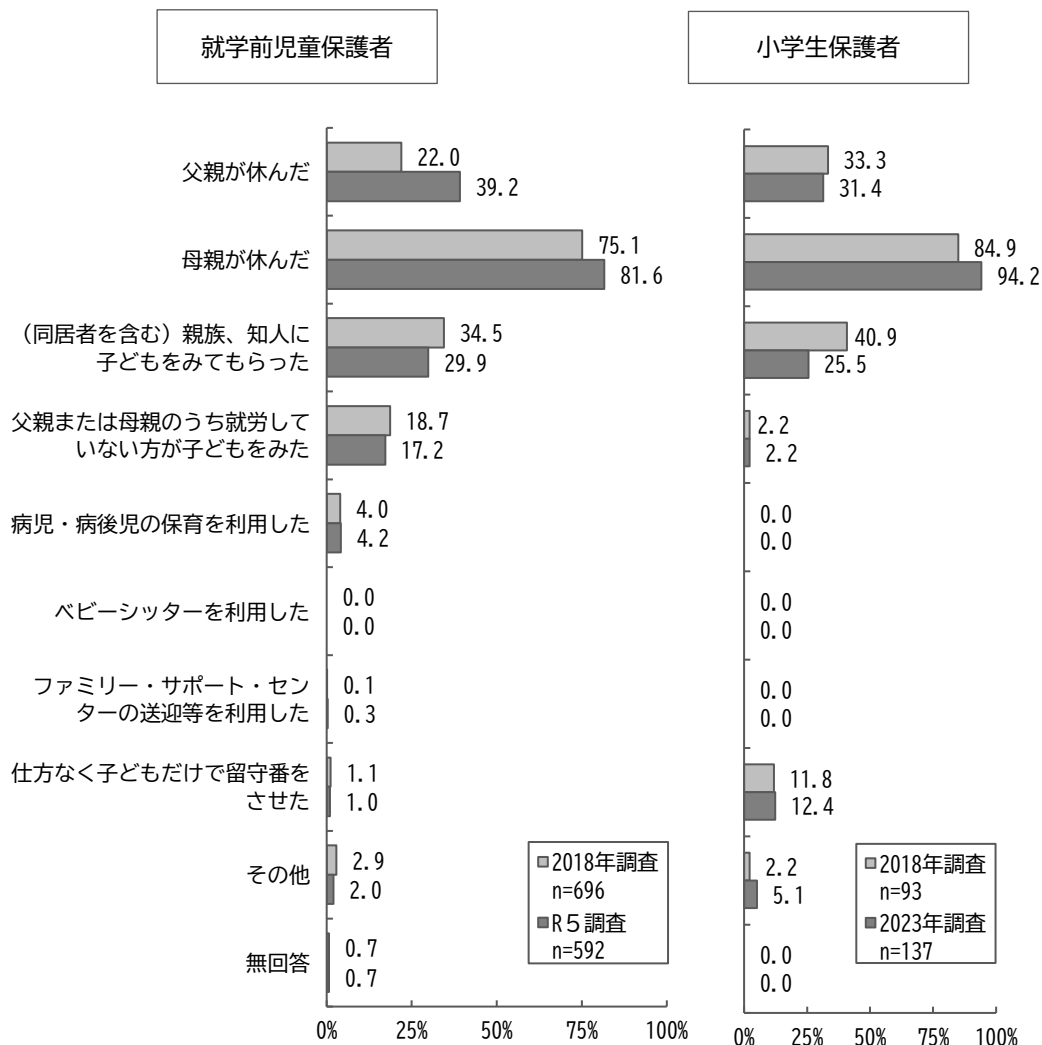
問21-1[問19-1] この1年間の対処方法



※「病児・病後児の保育を利用した」「ベビーシッターを利用した」は就学前児童のみの選択肢です。

○病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法について前回調査（2018年調査）と比較すると、就学前児童では、「父親が休んだ」が、17.2^{ポイント}、「母親が休んだ」が6.5^{ポイント}高くなっています。小学生では「母親が休んだ」が9.3^{ポイント}高くなっています。

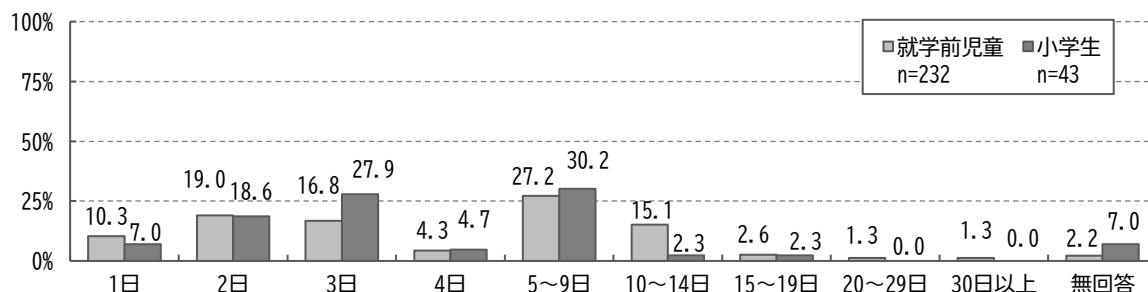
■ 問25-1[問21-1] この1年間の対処方法(経年比較)





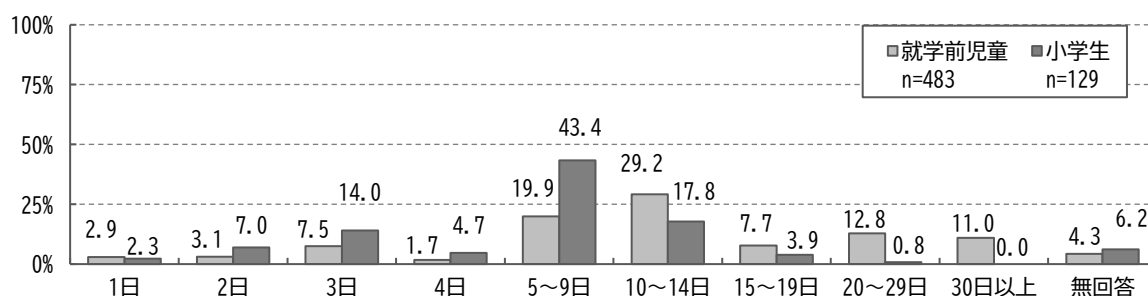
○対処方法別にこの1年間の対処日数をみると、「父親が休んだ日数」は、就学前児童、小学生いずれも「5～9日」(就学前児童27.2%、小学生30.2%)が最も高くなっています。

問21-1.1[問19-1.1] 父親が休んだ日数



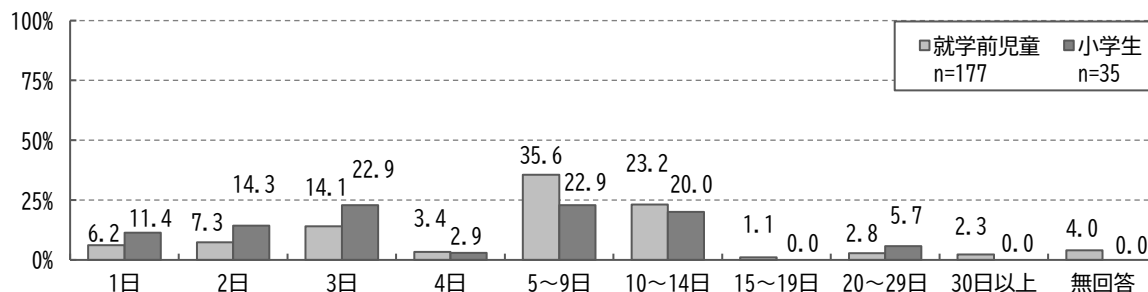
○「母親が休んだ日数」は、就学前児童では「10～14日」(29.2%)、小学生では「5～9日」(43.4%)が最も高くなっています。

問21-1.2[問19-1.2] 母親が休んだ日数



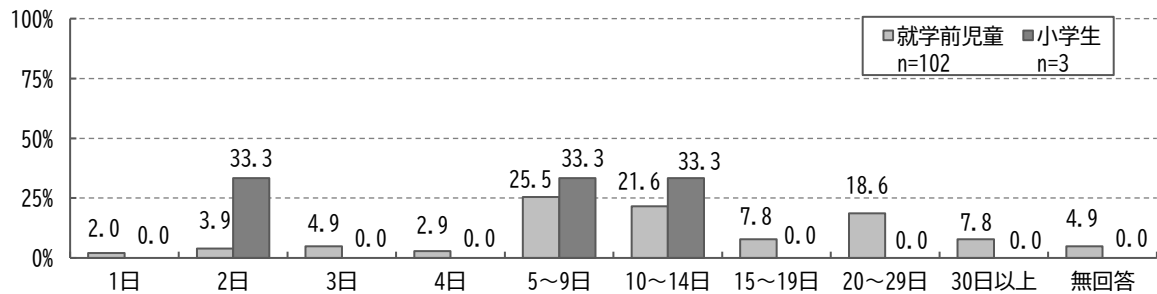
○「親族、知人に子どもをみてもらった日数」は、就学前児童では5～9日(35.6%)、小学生では「3日」「5～9日」(各22.9%)が最も高くなっています。

問21-1.3[問19-1.3] (同居者を含む)親族、知人に子どもをみてもらった日数



○「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数」は、就学前児童では、「5～9日」(25.5%)が最も高く、小学生では、「2日」「5～9日」「10～14日」が各1人となっています。

問21-1.4[問19-1.4] 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数



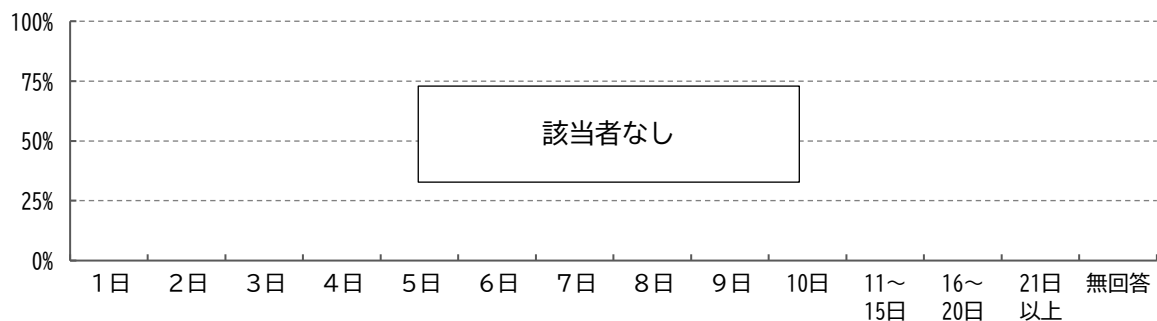
○「病児・病後児の保育を利用した日数」は、就学前児童では、「5～9日」(28.0%)が最も高く、次いで「1日」(20.0%)となっています。

問21-1.5 病児・病後児の保育を利用した日数



○「ベビーシッターを利用した日数」は、回答者がいません。

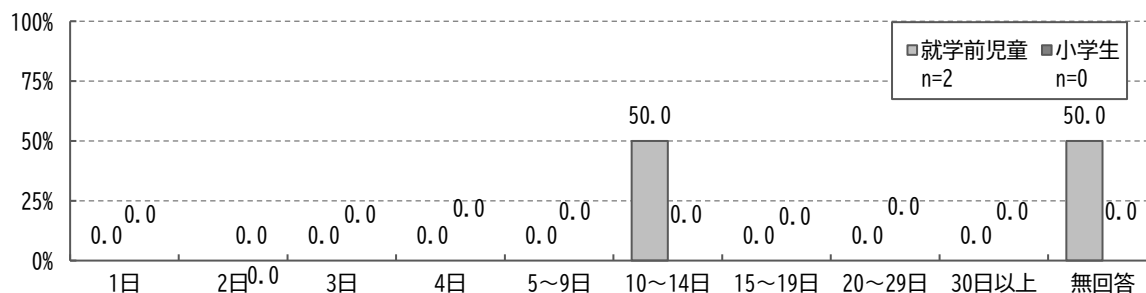
問21-1.6 ベビーシッターを利用した日数





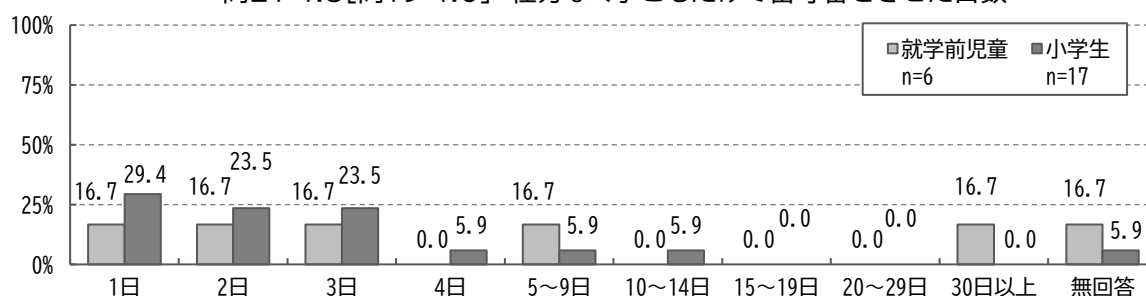
- 「ファミリー・サポート・センターの送迎等を利用した日数」は、就学前児童では、「10～14日」が1人となっています。

問21-1.7[問19-1.5] ファミリー・サポート・センターの送迎等を利用した日数



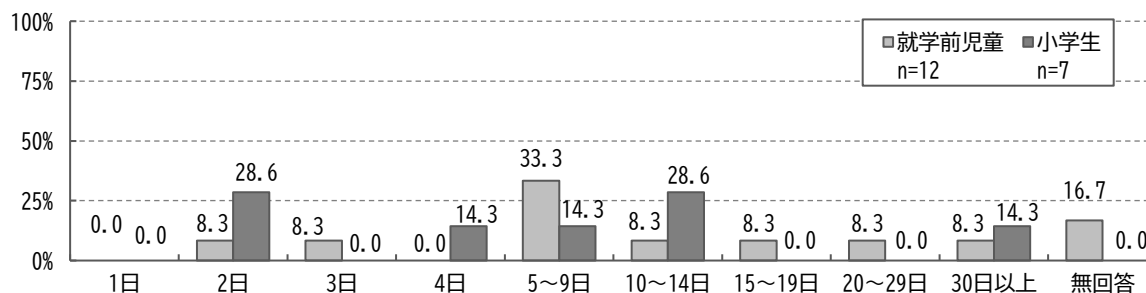
- 「仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数」は、就学前児童では「1日」「2日」「3日」「5～9日」「30日以上」が各1人、小学生では、「1日」(29.4%)が最も高くなっています。

問21-1.8[問19-1.6] 仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数



- 「その他」は、就学前児童では、「5～9日」(33.3%)、小学生では、「2日」「10～14日」(各28.6%)が最も高くなっています。

問21-1.9[問19-1.7] その他

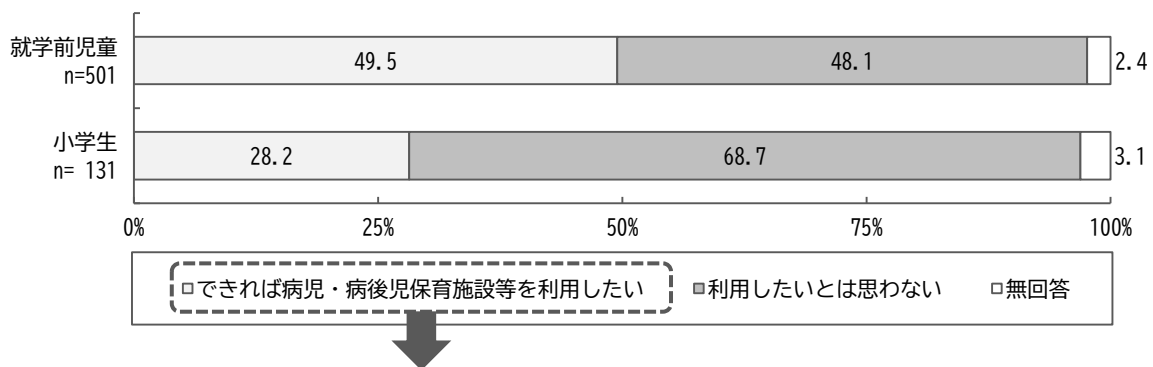


○父親、母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した方は、就学前児童では49.5%、小学生では28.2%となっています。

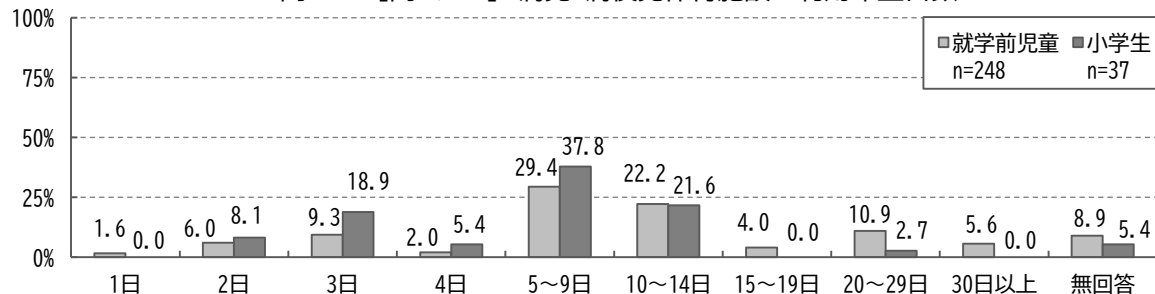
○その際の年間利用希望日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「5～9日」（就学前児童29.4%、小学生37.8%）が最も高くなっています。

○子どもを預ける場合の望ましい事業形態をみると、就学前児童では「幼稚園、保育所（園）等に併設した施設で子どもを保育する事業」（77.8%）、小学生では「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（83.8%）が最も高くなっています。

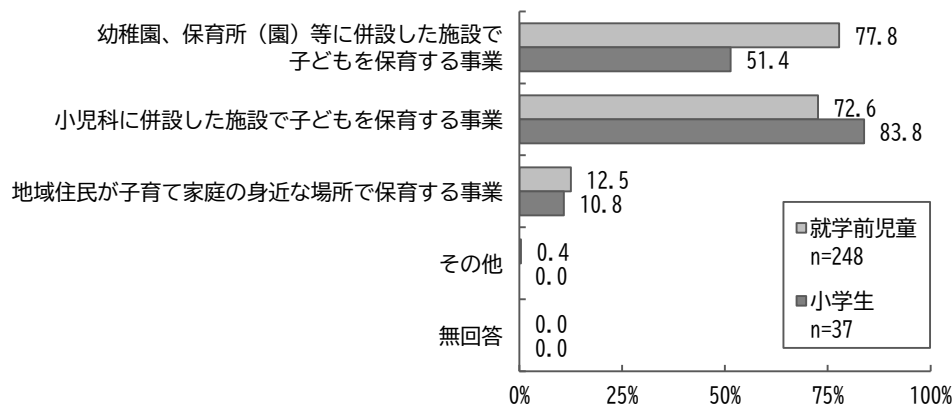
問21-2[問19-2] 父親、母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向



問21-2[問19-2] 病児・病後児保育施設の利用希望日数



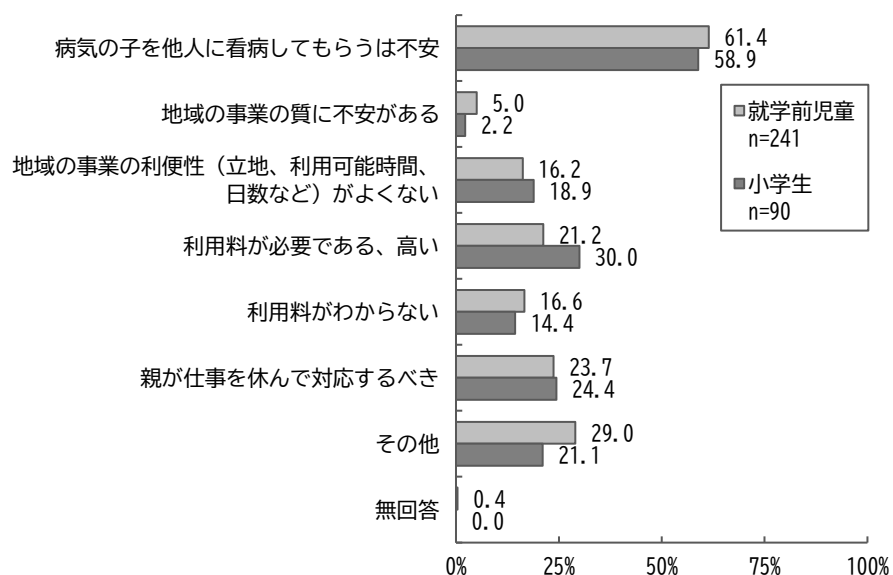
問21-3[問19-3] 子どもを預ける場合の望ましい事業形態





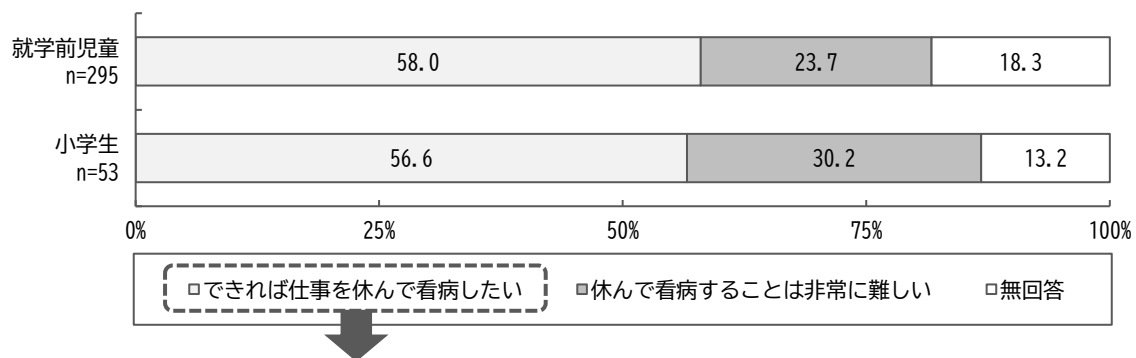
○病児・病後児保育施設等の利用意向がない方の理由をみると、就学前児童、小学生いずれも「病気の子を他人に看病してもらうのは不安」(就学前児童61.4%、小学生58.9%)が最も高くなっています。

問21-4[問19-4] 病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由

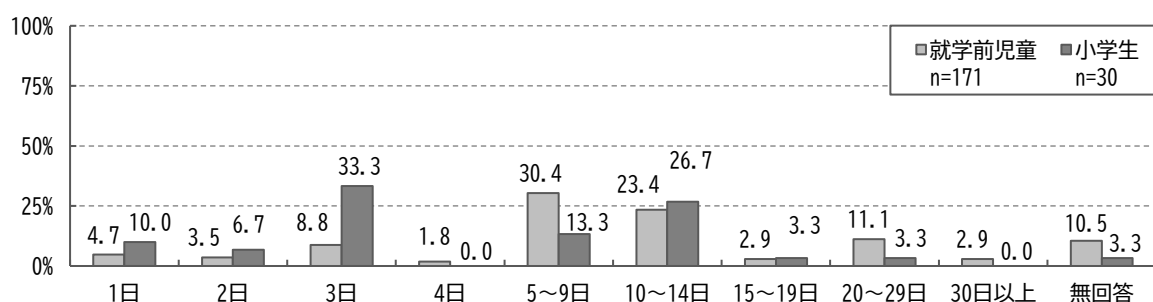


- 父母が休む以外の対処方法を選んだ方のうち、「できれば仕事を休んで看病したい」と回答した方をみると、就学前児童では58.0%、小学生では56.6%となっています。
- 「できれば仕事を休んで看病したい」と回答した方の年間希望日数は、就学前児童では「5～9日」(30.4%)、小学生では「3日」(33.3%)が最も高くなっています。
- 「休んで看病することは非常に難しい」と回答した方の理由をみると、就学前児童、では「子どもの看病を理由に休みが取れない」(28.6%)、小学生では「子どもの看病を理由に休みがとれない」「自営業なので休めない」「休假日数が足りないので休めない」(各18.8%)が最も高くなっています。就学前児童、小学生いずれも「その他」が5割を超えていることから、選択項目以外にもさまざまな理由があることがうかがえます。

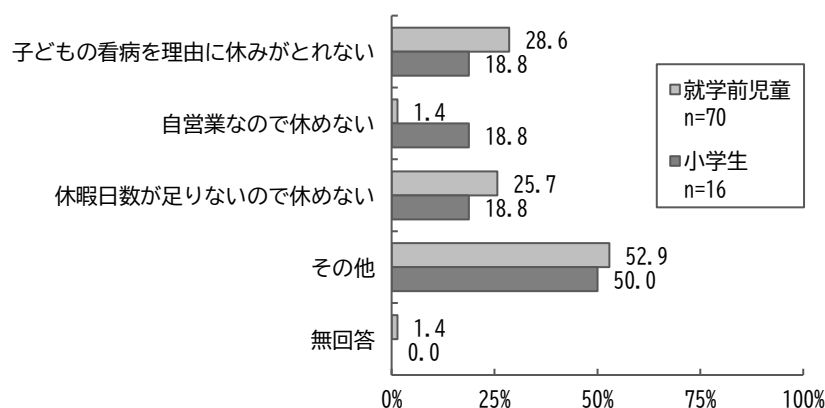
問21-5[問19-5]「父母が仕事を休んで看病したい」意向



問21-5.1[問19-5.1]「できれば仕事を休んで看病したい」希望日数(年間)



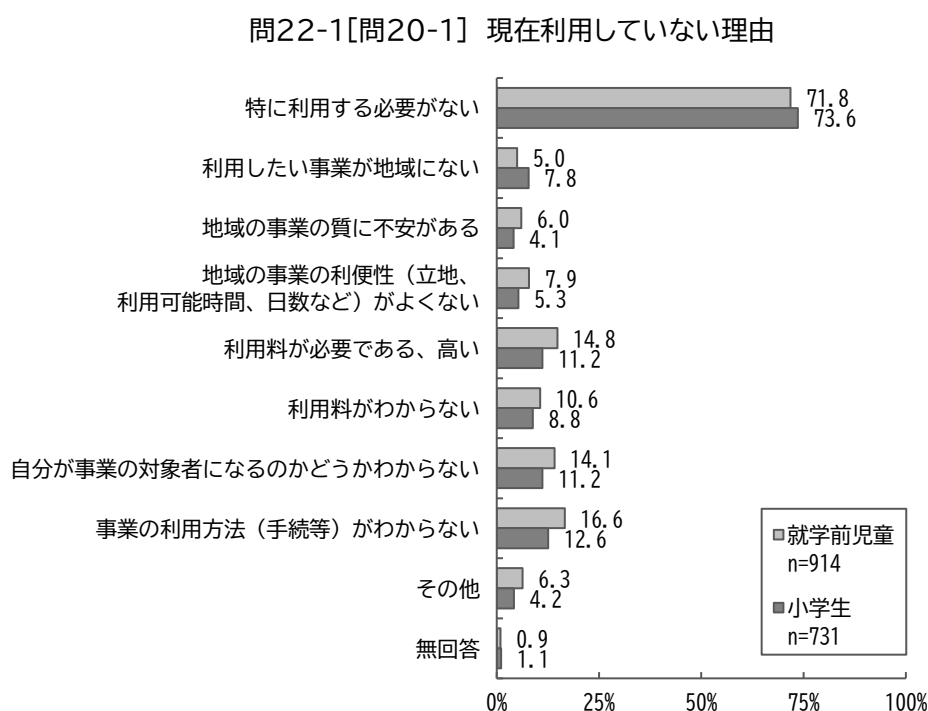
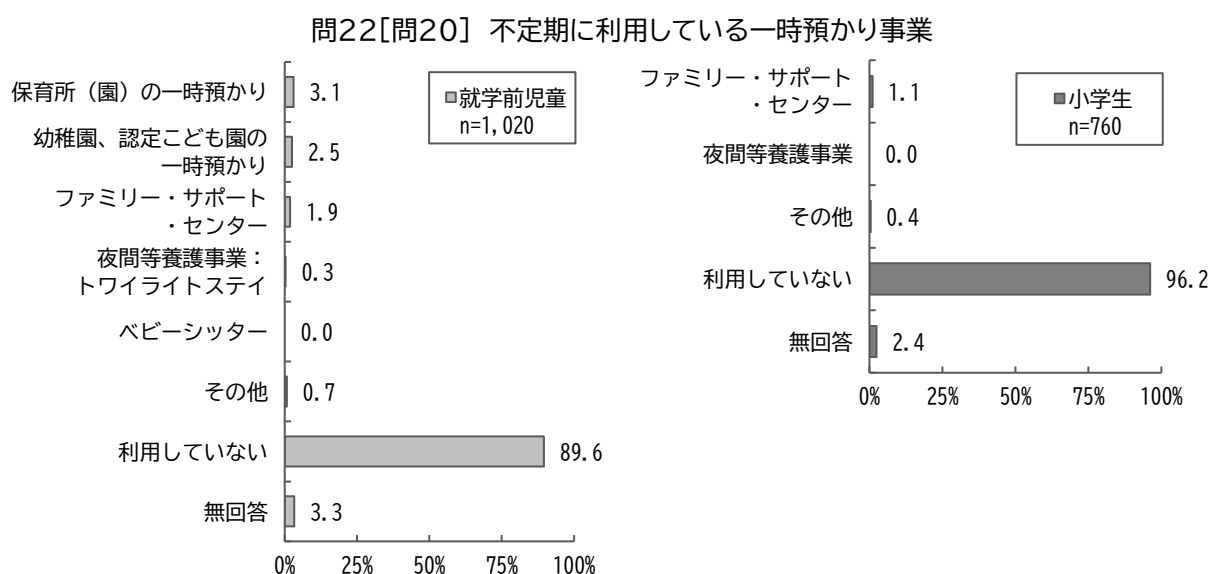
問21-6[問19-6]「休んで看病することは非常に難しい」理由



6 不定期の一時保育の利用について

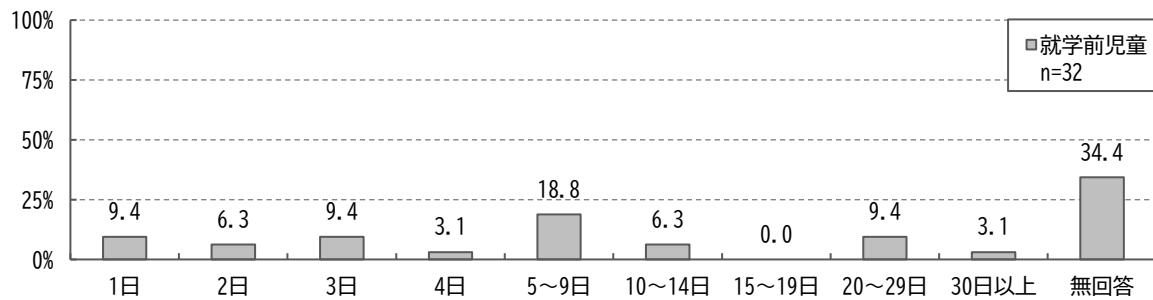
(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況

- 不定期に利用している教育・保育事業の状況をみると、「利用していない」が9割前後となっています。利用している事業は就学前児童で「保育所(園)の一時預かり」(3.1%)、小学生で「ファミリー・サポート・センター」(1.1%)となっています。
- 「利用していない」理由をみると、就学前児童、小学生いずれも「特に利用する必要がない」が7割以上となっています。

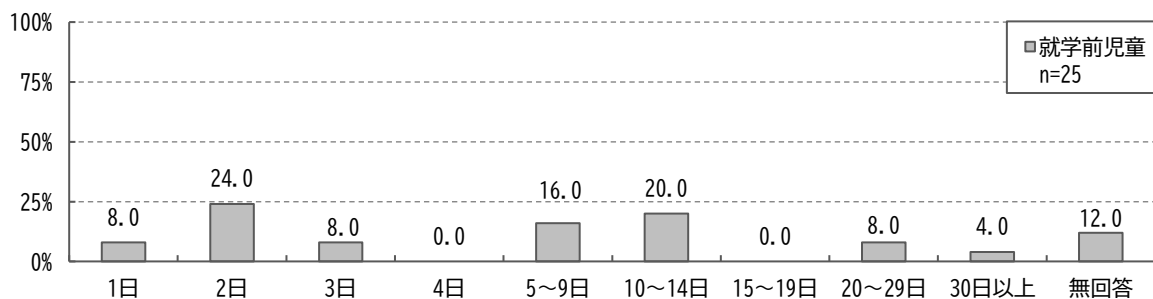


○事業別の年間利用日数は以下のとおりです。

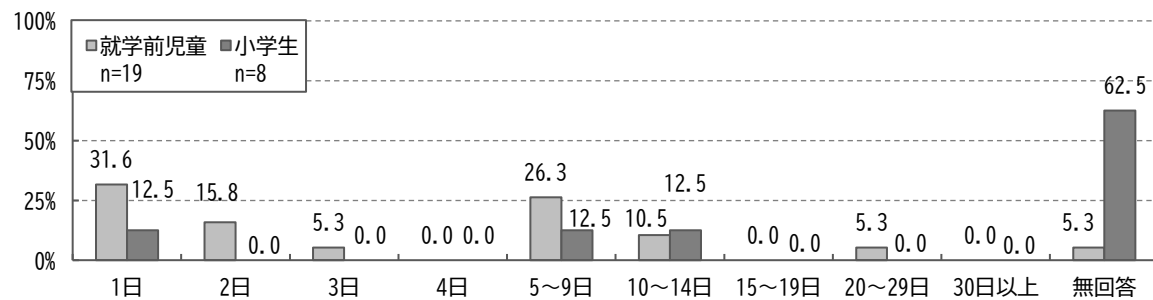
問22.1 「保育所(園)の一時預かり」年間利用日数



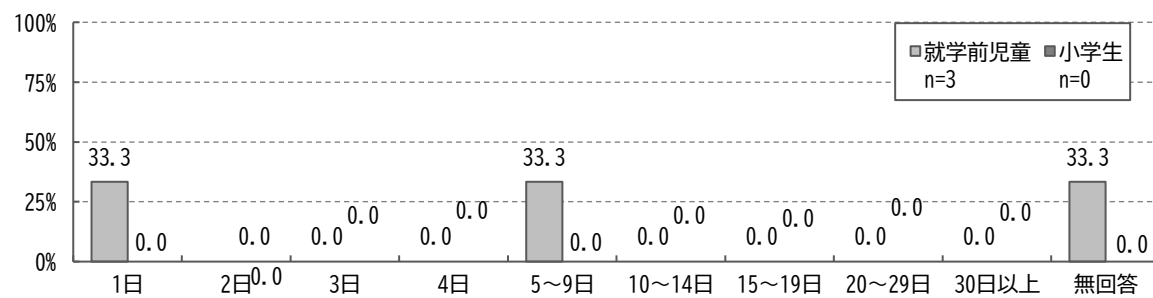
問22.2 「幼稚園、認定こども園の一時預かり」年間利用日数



問22.3[問20.1] 「ファミリー・サポート・センター」年間利用日数

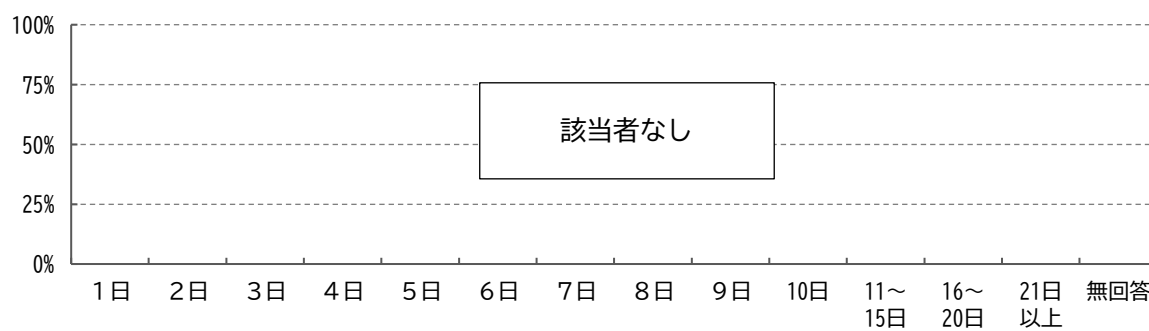


問22.4[問20.2] 「夜間等養護事業:トワイライトステイ」年間利用日数

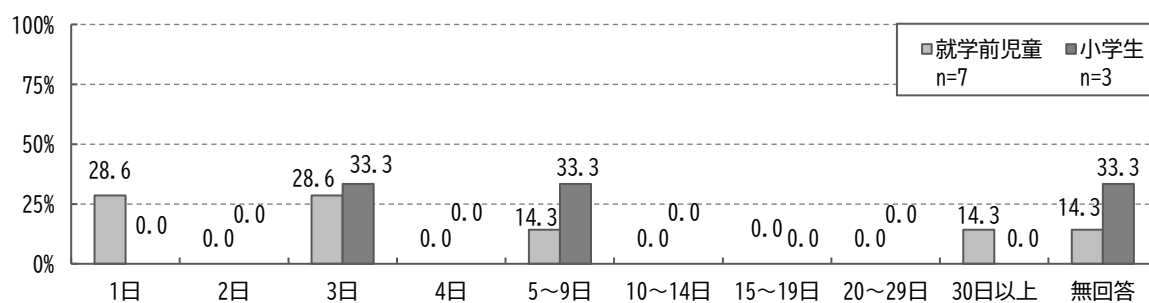




問22.5 「ベビーシッター」年間利用日数

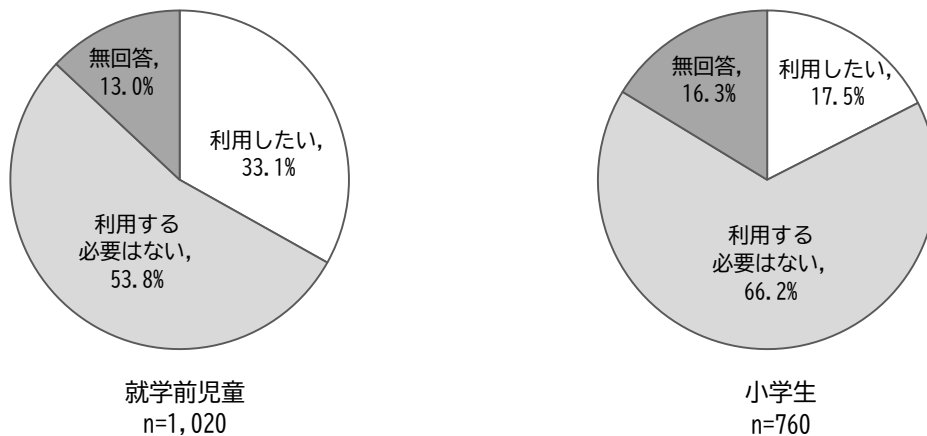


問22.6[問20.3] 「その他」年間利用日数

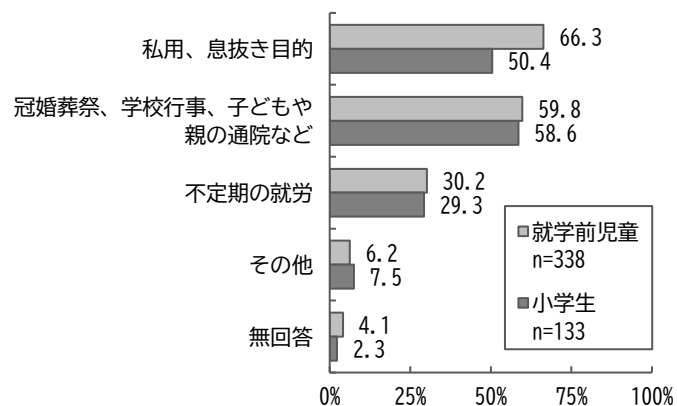


- 一時保育事業の利用希望をみると、「利用したい」と回答した方は、就学前児童では33.1%、小学生では17.5%となっています。
- 一時保育事業の利用目的をみると、就学前児童では、「私用、息抜き目的」(66.3%)が最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」(59.8%)となっています。小学生では、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」(58.6%)が最も高く、次いで「私用、息抜き目的」(50.4%)となっています。

問23[問21] 一時保育事業の利用希望とその目的



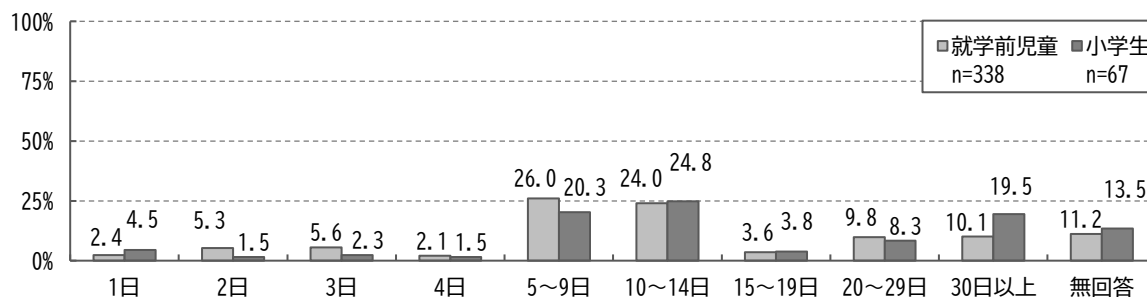
問23[問21] 一時保育事業の利用目的





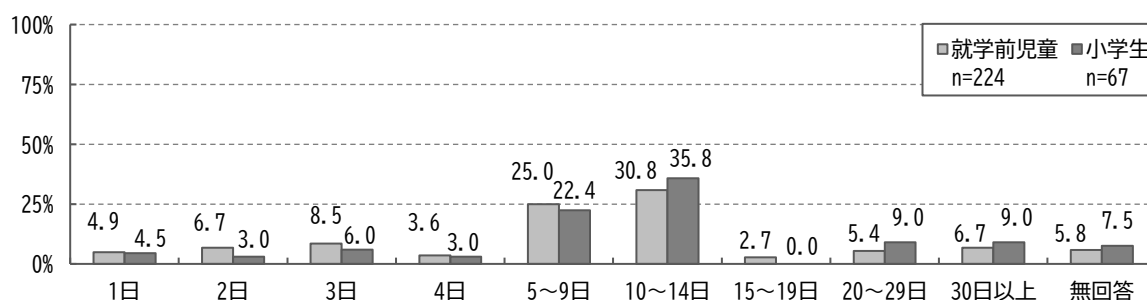
○利用希望年間合計日数をみると、就学前児童では「5～9日」(26.0%)、小学生では「10～14日」(24.8%) が最も高くなっています。

問23.1[問21.1] 一時保育事業の利用希望年間合計日数



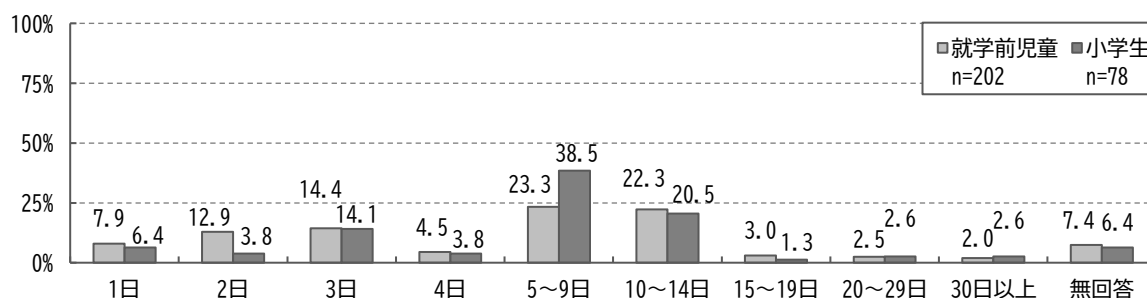
○目的ごとの年間利用希望日数をみると、「私用、息抜き目的」は、就学前児童、小学生いずれも「10～14日」(就学前児童30.8%、小学生35.8%) が最も高くなっています。

問23.7[問21.7] 私用、息抜き目的



○「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」は、就学前児童、小学生いずれも「5～9日」(就学前児童23.3%、小学生38.5%) が最も高くなっています。

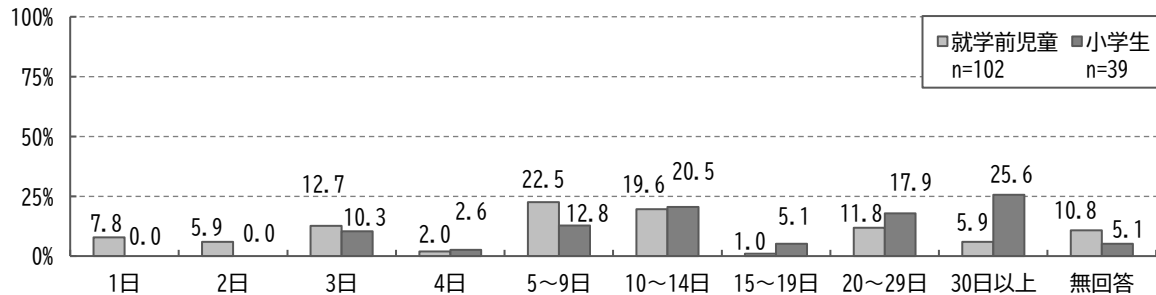
問23.1[問21.1] 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など



第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

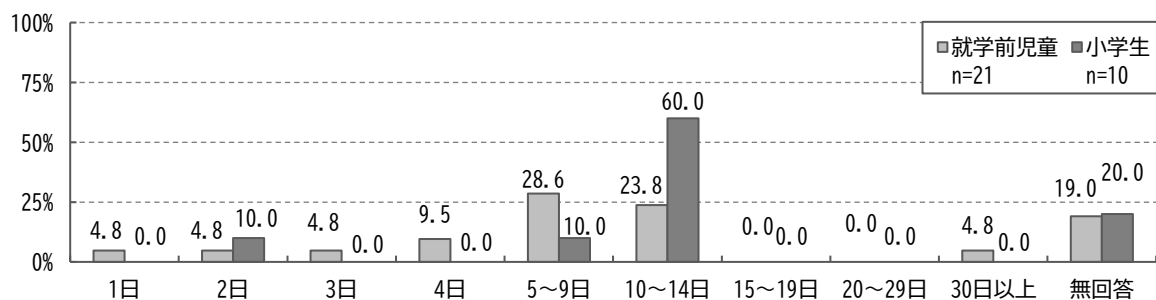
○「不特定の就労」は、就学前児童では「5～9日」(22.5%)、小学生では「30日以上」(25.6%) が最も高くなっています。

問23.ウ[問21.ウ] 不特定の就労



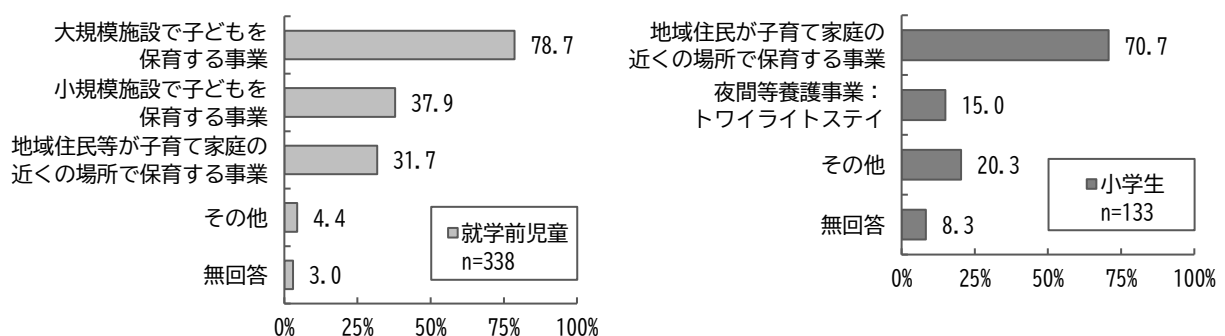
○「その他」は、就学前児童では「5～9日」(28.6%)、小学生では「10～14日」(60.0%) が最も高くなっています。

問23.イ[問21.イ] その他



○一時保育として子どもを預ける場合の望ましい事業形態をみると、就学前児童では「大規模施設で子どもを保育する事業」(78.7%)、小学生では「地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業」(70.7%) が最も高くなっています。

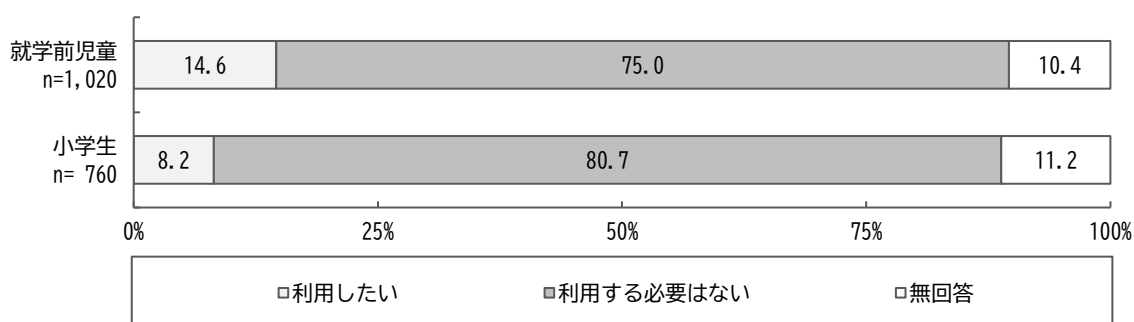
問23-1[問21-1] 子どもを預ける場合の望ましい事業形態



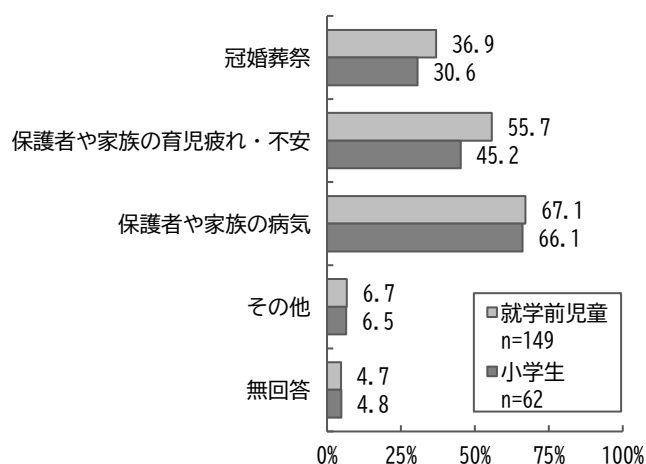
(2) 宿泊を伴う一時保育の利用状況

- 保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望をみると、「利用したい」と回答した方は就学前児童では14.6%、小学生では8.2%となっています。
- 泊りがけで家族以外に預ける事業を利用したい理由について、就学前児童、小学生いずれも「保護者や家族の病気」(就学前児童67.1%、小学生66.1%)が最も高くなっています。
- 利用希望年間合計日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「1泊」(就学前児童30.9%、小学生29.0%)が最も高くなっています。

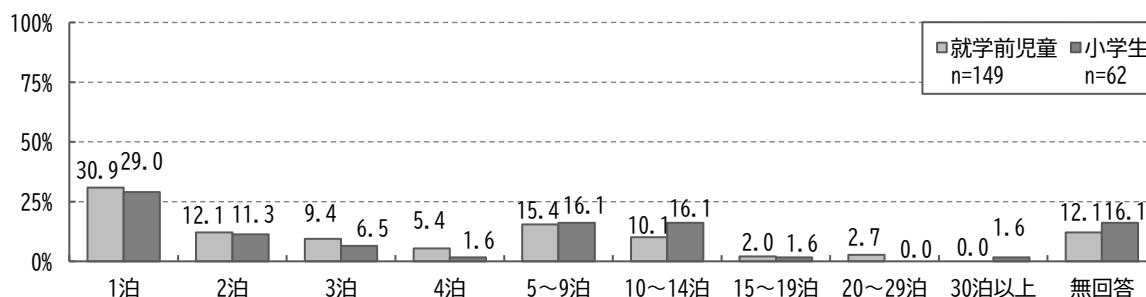
問24[問22] 保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望



問24.1[問22.1] 利用したい理由



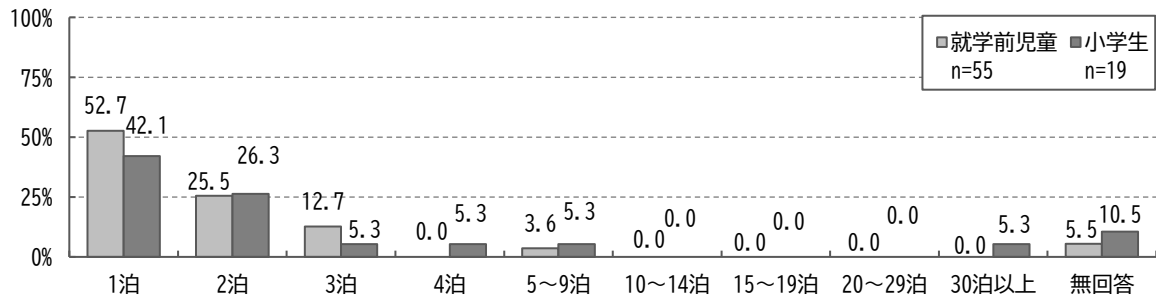
問24.1[問22.1] 利用希望年間合計日数



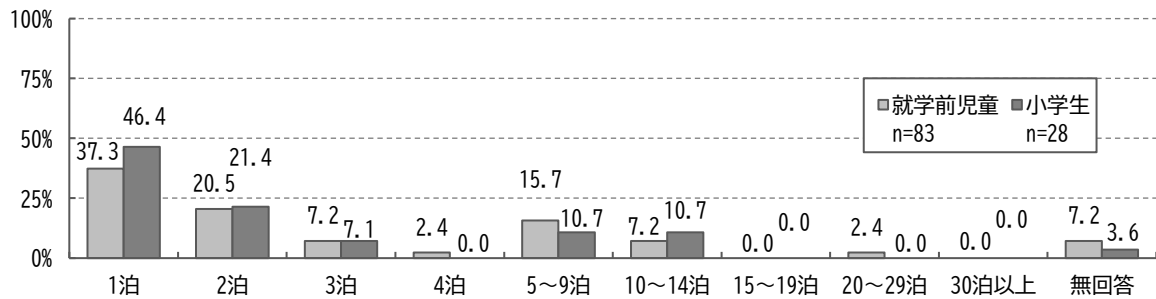
第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望



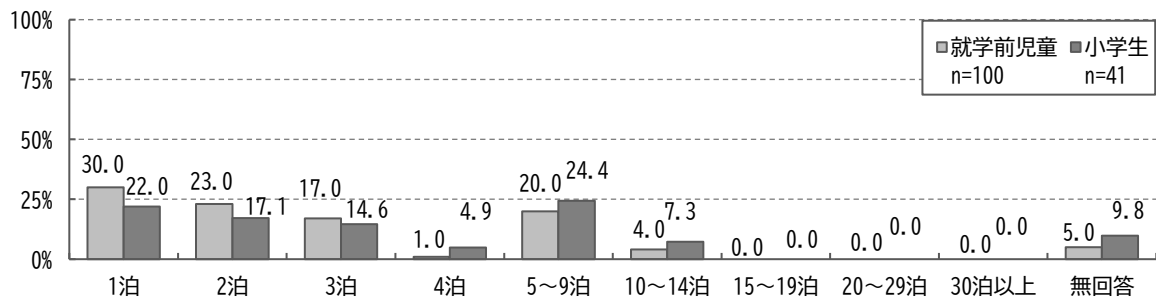
問24.7[問22.7] 冠婚葬祭



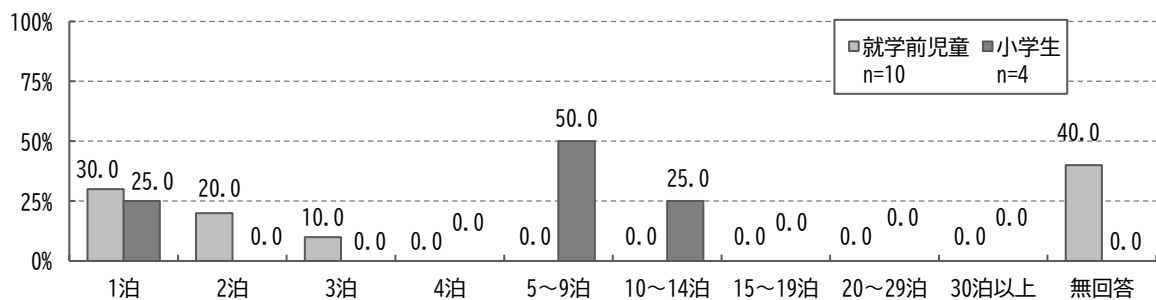
問24.1[問22.1] 保護者や家族の育児疲れ・不安



問24.5[問22.5] 保護者や家族の病気



問24.I[問22.I] その他



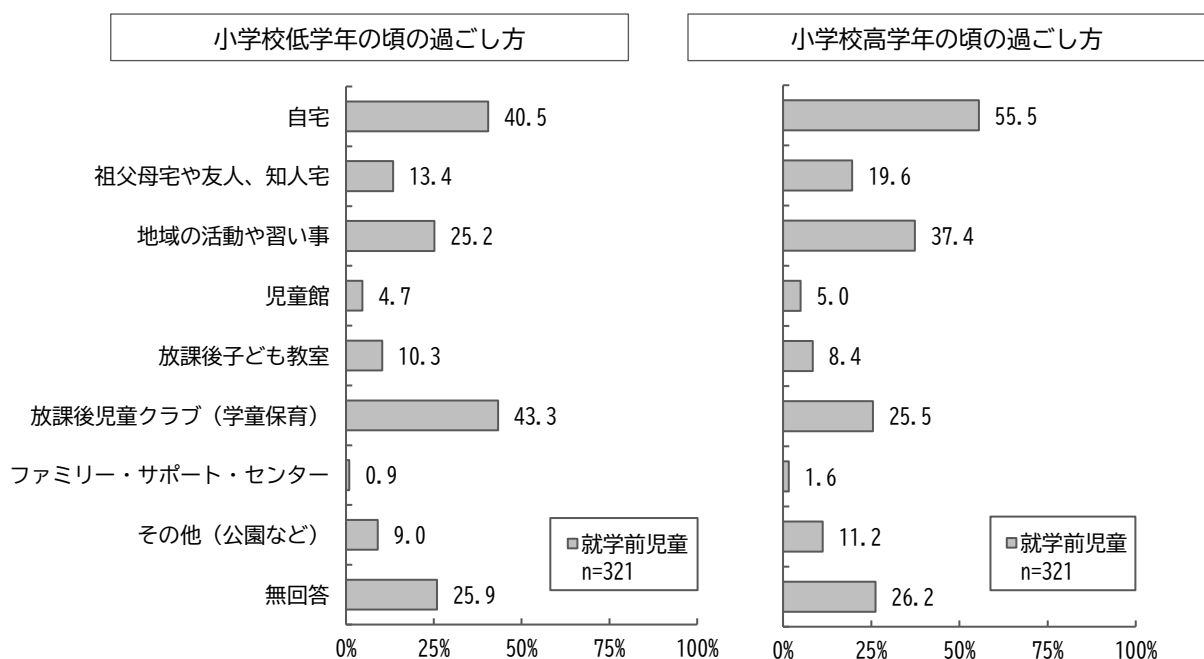


7 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の過ごし方について

○放課後の過ごし方の希望をみると、低学年のうちは「放課後児童クラブ（学童保育）」（43.3%）が最も高く、次いで「自宅」（40.5%）となっています。高学年になると、「自宅」（55.5%）が最も高く、次いで「地域の活動や習い事」（37.4%）となっています。

問25・問26 放課後の過ごし方の希望

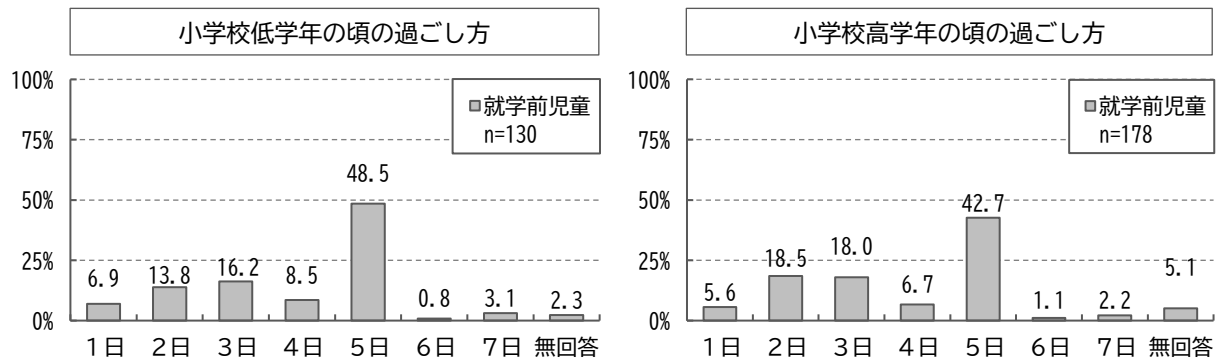


※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生です。



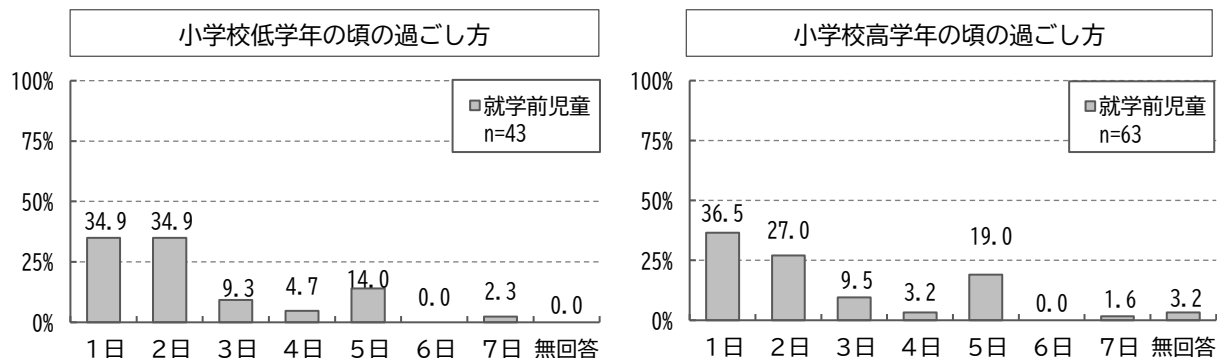
○保護者が放課後を過ごさせたい場所別に1週当たりの希望日数をみると、「自宅」は、低学年時期、高学年時期いずれも「5日」（低学年時期48.5%、高学年時期42.7%）が最も高くなっています。

問25.1・問26.1 「自宅」希望日数(1週当たり)



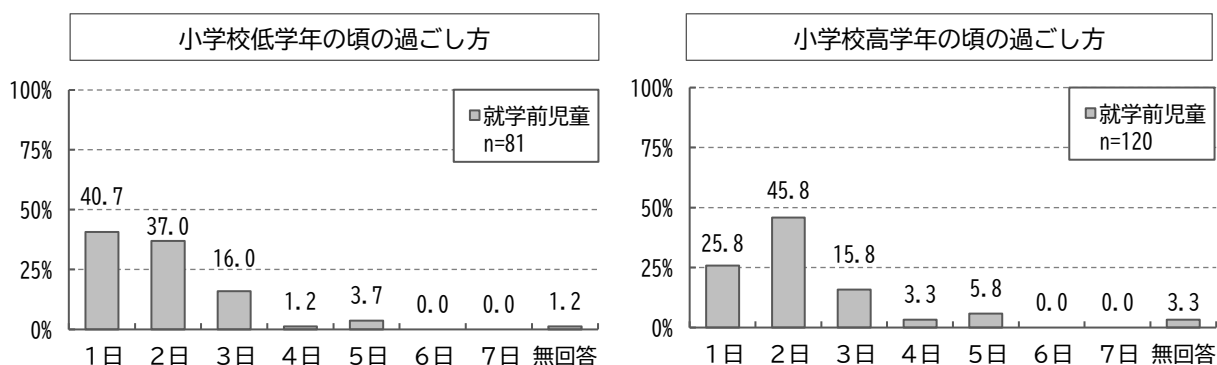
○「祖父母宅や友人、知人宅」は、低学年時期では「1日」「2日」（各34.9%）、高学年時期では「1日」（36.5%）が最も高くなっています。

問25.2・問26.2 「祖父母宅や友人、知人宅」希望日数(1週当たり)



○「地域の活動や習い事」は、低学年時期では「1日」（40.7%）、高学年時期では「2日」（45.8%）が最も高くなっています。

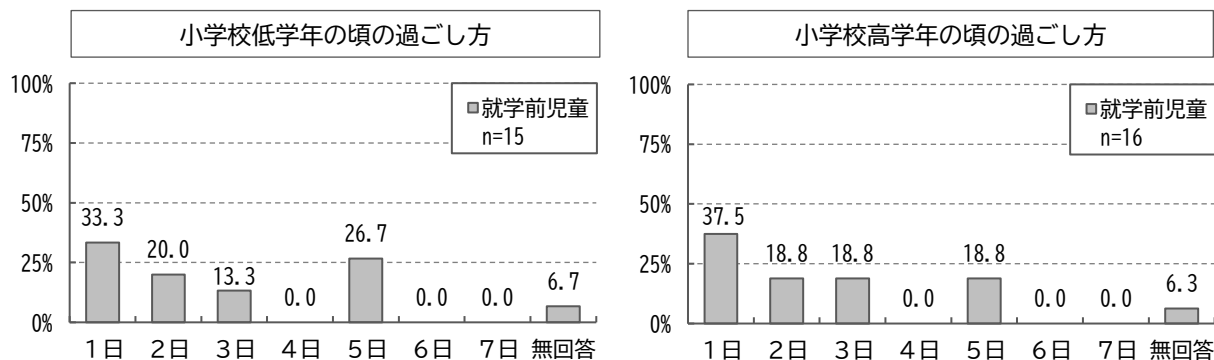
問25.3・問26.3 「地域の活動や習い事」希望日数(1週当たり)





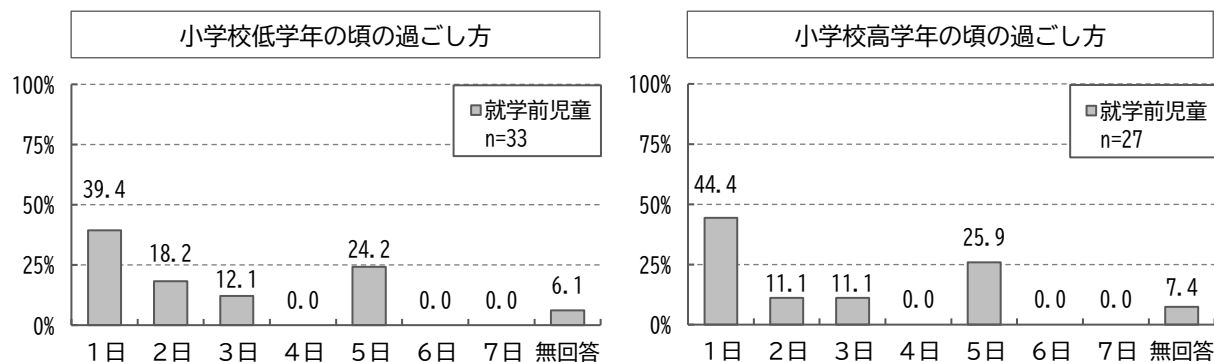
○「児童館」は、低学年時期、高学年時期いずれも「1日」（低学年時期33.3%、高学年時期37.5%）が最も高くなっています。

問25.4・問26.4 「児童館」希望日数(1週当たり)



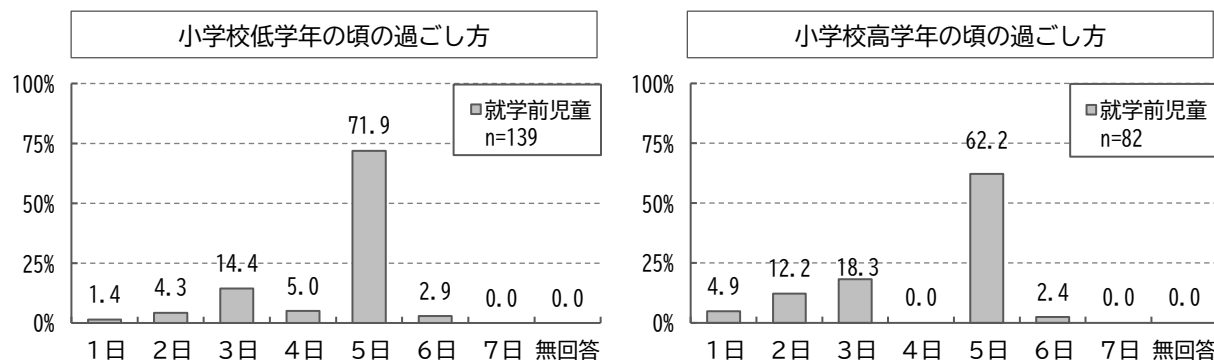
○「放課後子ども教室」は、低学年時期、高学年時期いずれも「1日」（低学年時期39.4%、高学年時期44.4%）が最も高くなっています。

問25.5・問26.5 「放課後子ども教室」希望日数(1週当たり)



○「放課後児童クラブ（学童保育）」は、低学年時期、高学年時期いずれも「5日」（低学年時期71.9%、高学年時期62.2%）が最も高くなっています。

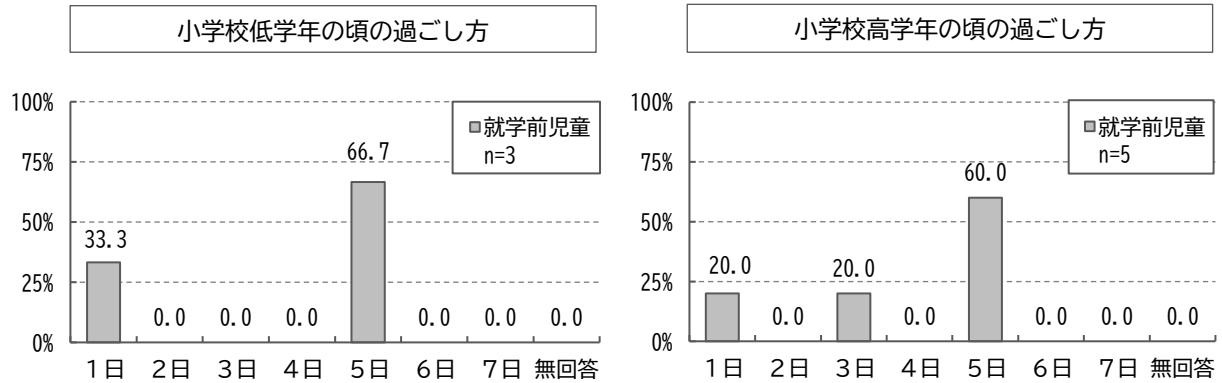
問25.6・問26.6 「放課後児童クラブ(学童保育)」希望日数(1週当たり)





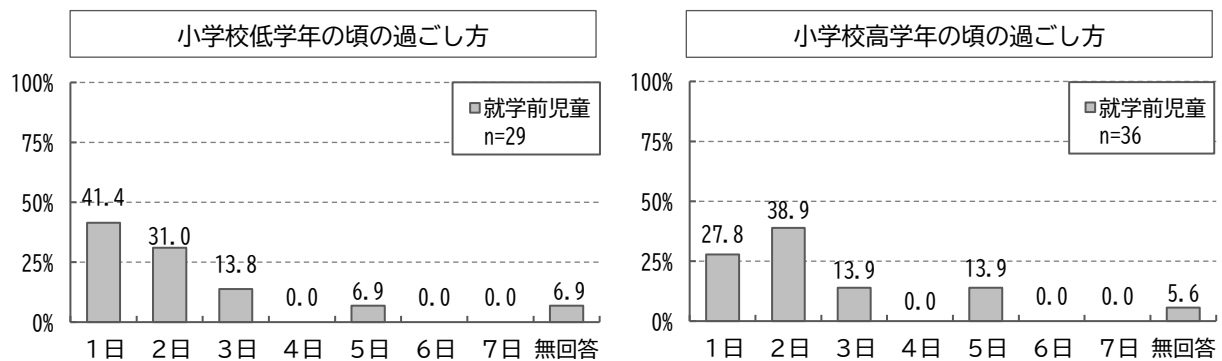
○「ファミリー・サポート・センター」は、低学年時期、高学年時期いずれも「5日」（低学年時期66.7%、高学年時期60.0%）が最も高くなっています。

問25.7・問26.7 「ファミリー・サポート・センター」希望日数(1週当たり)



○「その他（公民館、公園など）」は、低学年時期では「1日」（41.4%）、高学年時期では「2日」（38.9%）が最も高くなっています。

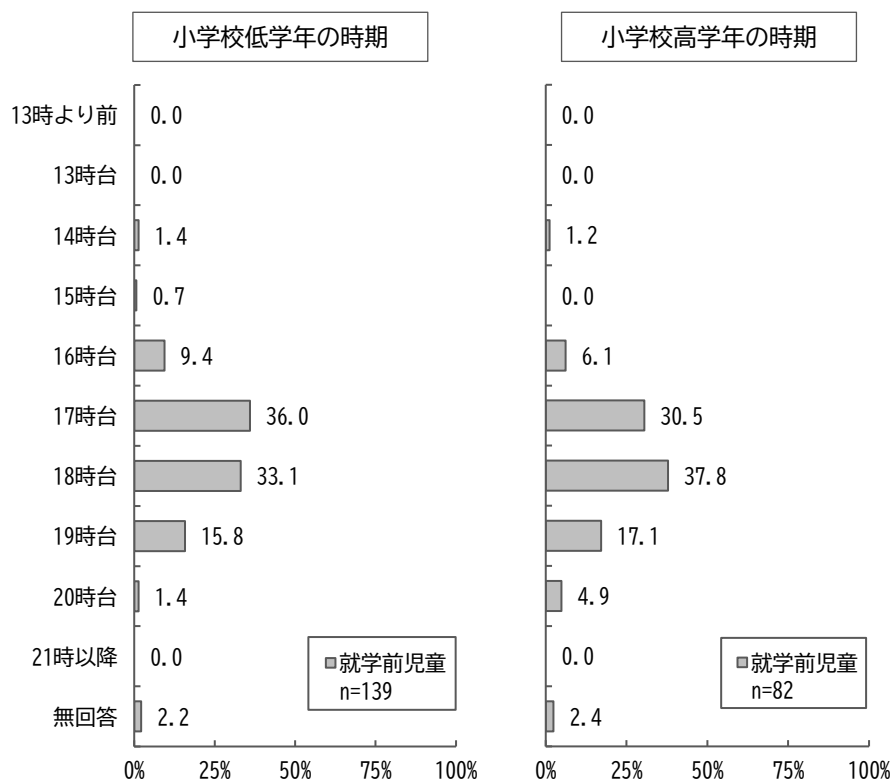
問25.8・問26.8 「その他(公園など)」希望日数(1週当たり)





○放課後児童クラブの下校時からの利用希望時間帯をみると、低学年時期では「17時台」(36.0%)、高学年時期では「18時台」(37.8%)が最も高くなっています。

問25.6・問26.6 「放課後児童クラブ」下校時からの利用希望時間



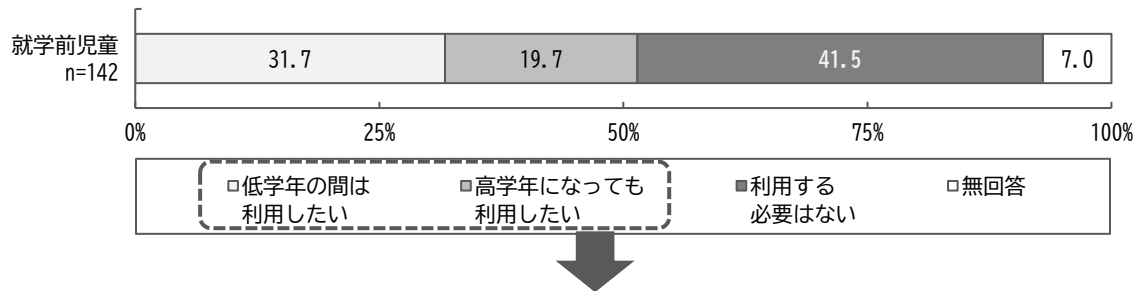
(2) 休日（長期休暇期間中を含む）の放課後児童クラブの利用希望

○放課後児童クラブの土曜日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は51.4%となっています。

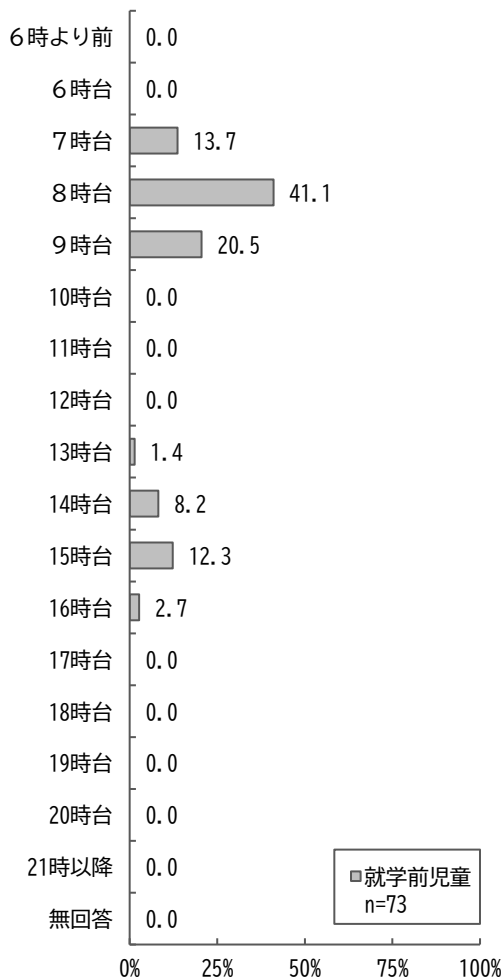
○希望開始時間をみると、「8時台」(41.1%)が最も高く、次いで「9時台」(20.5%)となっています。

○希望終了時間をみると、「18時台」(38.4%)が最も高く、次いで「17時台」(31.5%)となっています。

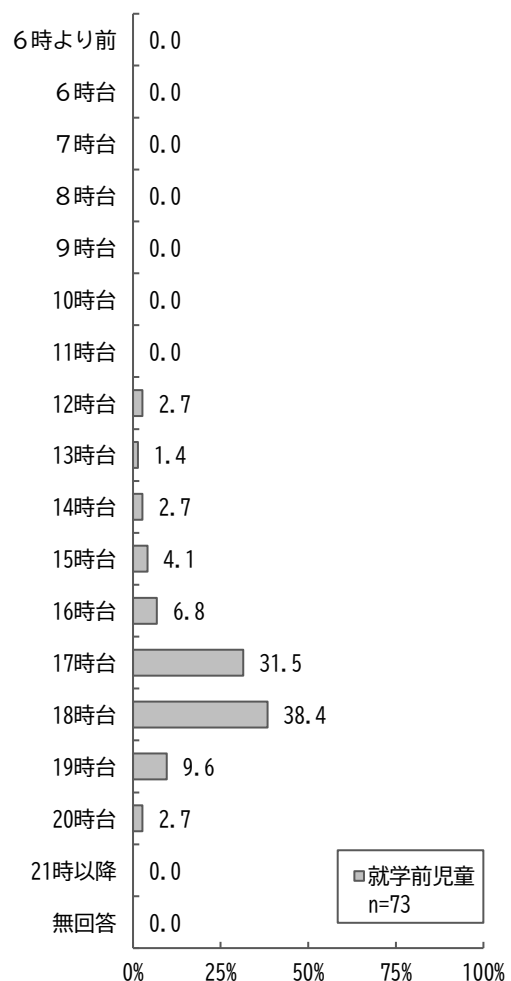
問27(1) 放課後児童クラブの土曜日の利用希望



問27(1) 希望開始時間



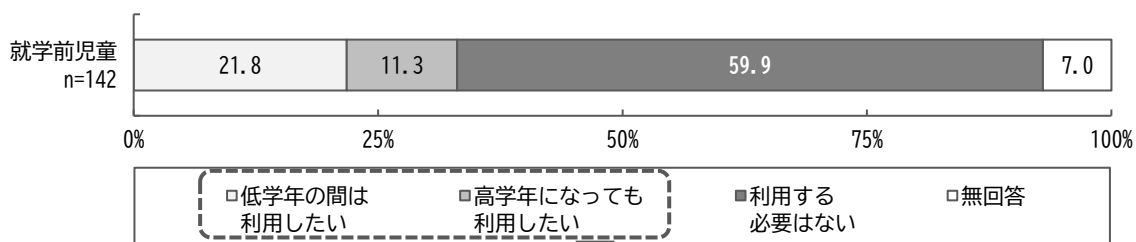
問27(1) 希望終了時間



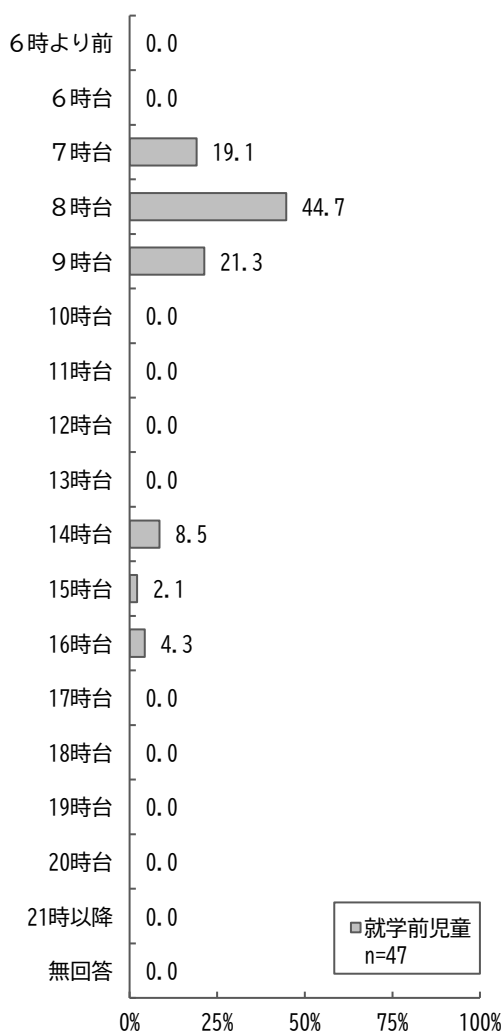


- 放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は合わせて33.1%となっています。
- 希望開始時間をみると、「8時台」(44.7%)が最も高なっています。
- 希望終了時間をみると、「18時台」(38.3%)が最も高くなっています。

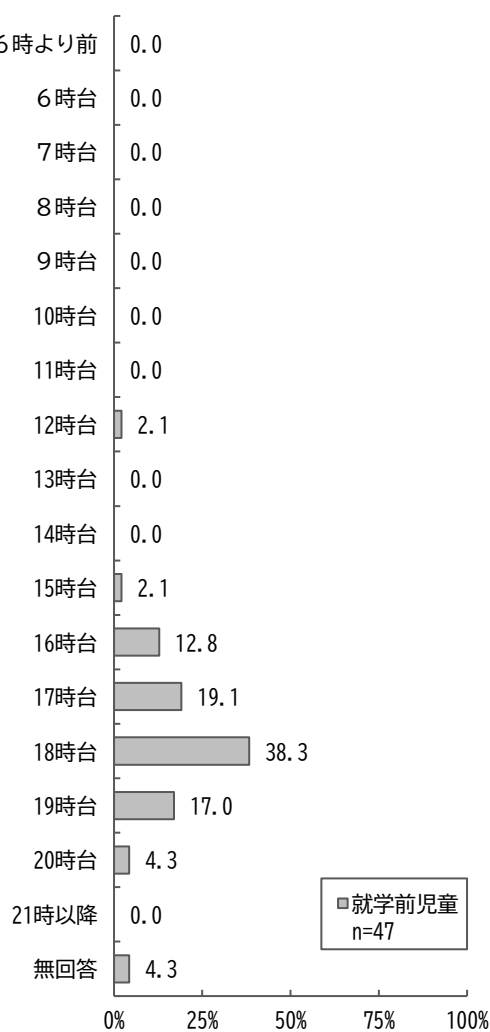
問27(2) 放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望



問27(2) 希望開始時間

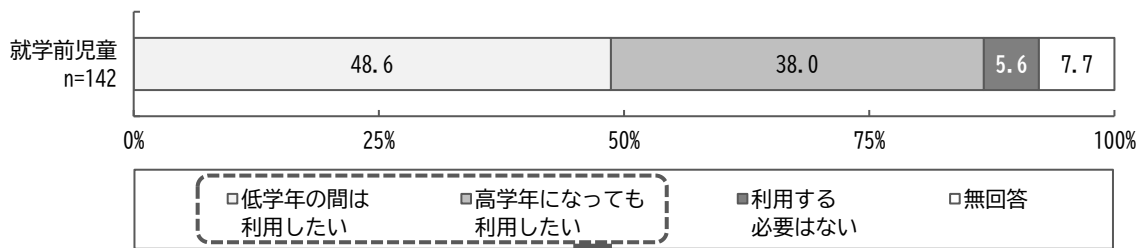


問27(2) 希望終了時間

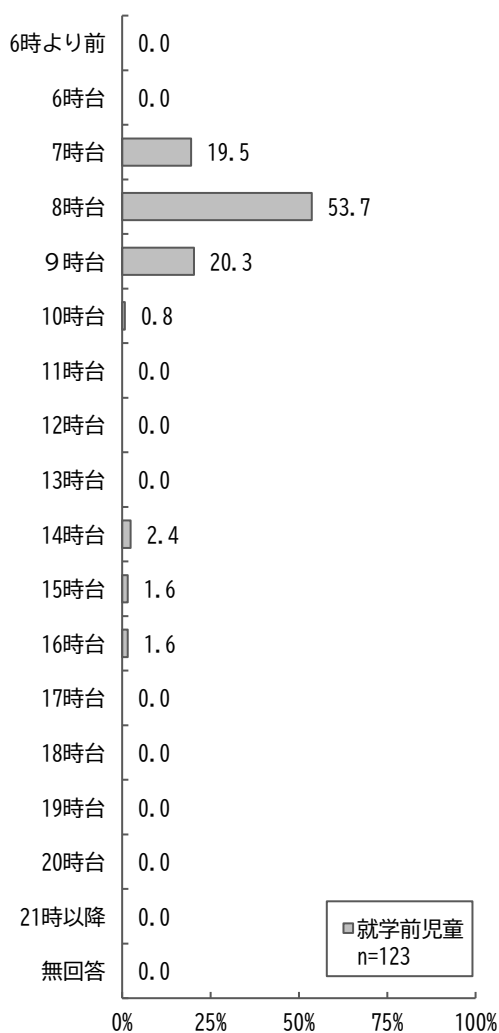


- 放課後児童クラブの長期休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」、「高学年になっても利用したい」と回答した方は合わせて86.6%となっています。
- 希望開始時間をみると、「8時台」(53.7%)が最も高く、次いで「9時台」(20.3%)となっています。
- 希望終了時間をみると、「18時台」(36.6%)が最も高く、次いで「17時台」(34.1%)となっています。

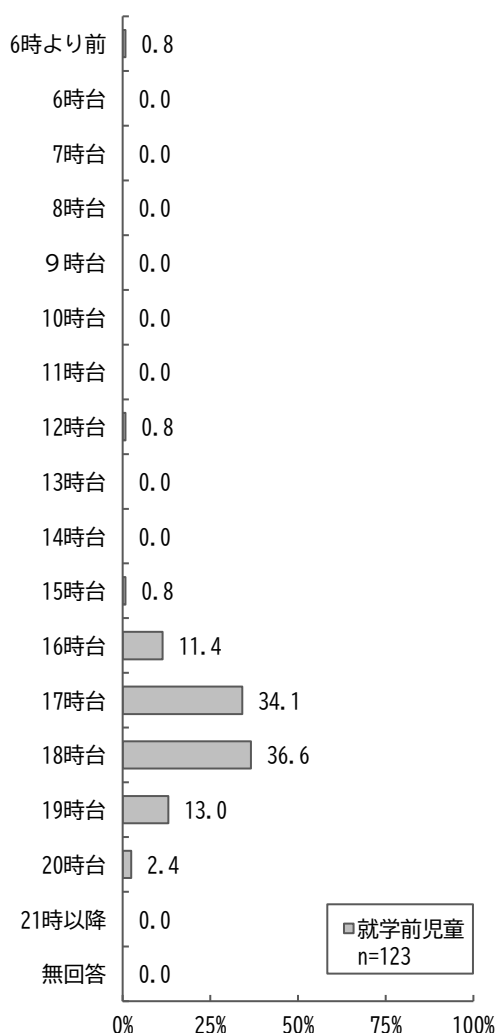
問28 長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望



問28 希望開始時間



問28 希望終了時間





8 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望における分析、課題

結果1 定期的な教育・保育事業を利用していない家庭は23.5%

平日の定期的な教育・保育等を「利用している」家庭は74.7%、「利用していない」家庭は23.5%となっています。

利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）（51.7%）」、「利用する必要がない」（40.0%）が大半を占めています。一方で、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」（10.8%）、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」（2.9%）、「利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない」（1.7%）、「利用したいが、延長保育等の時間帯の条件が合わない」（0.8%）など利用希望があるにもかかわらず、利用場所や経済的な理由等によって利用に至っていない保護者がいる状況です。【問14・14-1・14-5】



前回調査（2018年）と比較すると、定期的な教育・保育等を「利用している」家庭は、71.4%、「利用していない」家庭は27.9%であったことから、今回調査では「利用していない」家庭は、4.4ポイント減少しています。

以上の結果から、利用希望はあるが利用できない状況にある保護者の割合は減ってはいるものの、依然として2割以上が利用できない状況であり、保護者のニーズに即した教育・保育事業が提供できるよう、引き続き提供体制の充実に向け、検討する必要があります。



結果2 平日の定期的な教育・保育事業は、利用希望が利用実態を上回っている

実際に利用中の定期的な幼児教育・保育事業は、「保育所（園）」が60.1%、「幼稚園」が24.7%、「認定こども園」が12.5%、「幼稚園、認定こども園の預かり保育」が2.5%となっています。

一方、保護者が希望する事業は「保育所（園）」が61.7%、「幼稚園」は42.1%、「認定こども園」が25.9%、「幼稚園、認定こども園の預かり保育」が20.0%となっています。

平日の定期的な教育・保育事業に関して、実際の利用と希望の乖離が大きい事業は、「幼稚園、認定こども園の預かり保育」が17.5^{ポイント}、「幼稚園」が17.4^{ポイント}、「認定こども園」が13.4^{ポイント}となり、いずれも希望の割合が高くなっています。【問14-1・15・15-4】

また、鈴鹿市の子育て支援策として期待するものとして、「就労要件などが無く、誰でも利用できる保育サービスの充実」が49.8%となっています。



以上の結果から、平日の定期的な教育・保育事業について、様々な利用者ニーズに合った事業運営が提供できるように、各事業の提供量について検証する必要があります。

また、就労要件などが無く、誰でも利用できる保育サービスの充実を望む保護者が5割程度いることから、こども家庭庁が推進する「こども誰でも通園制度（仮称）」についても、検証していく必要があります。

結果3 病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法は、母親が休んだが8割以上

病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法は、就学前児童・小学生いずれも「母親が休んだ」（就学前81.6%・小学生94.2%）が最も多く、「父親が休んだ」（就学前39.2%・小学生31.4%）、「親族・知人に子どもとみてもらった」（就学前29.9%・小学生25.5%）、「父親または母親のうち就労してない方が子どもをみた」（就学前17.2%・小学生2.2%）となっています。【問21-1、[問19-1]】

父親、母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が就学前児童では約5割、小学生では約3割となっています。【問21-2、[問19-2]】



以上の結果から、病気やケガをした子どもを看るのは母親の役目であるという役割意識の定着がうかがわれます。しかし、2018年調査結果と比較すると、就学前保護者では父親が休んだ割合が高くなっていることから、父親が休暇を取得しやすい職場環境づくりが徐々に始まっていると推察されます。さらに父親の育児参加の促進やワーク・ライフ・バランスの取り組みなど、父親の育児参加を促すための対策を進めていく必要があります。



結果4 子育て支援事業の認知度に対して、利用者や利用希望割合はやや少ない

就学前児童の保護者における子育て支援事業の認知度をみると、「保育所（園）や幼稚園等の園庭開放」が73.3%、「子育て支援センターの教室・講座・相談」が71.6%と高く、それ以外の事業でも4割以上となっています。

子育て支援事業の利用状況をみると、「子育ての相談窓口」が9.5%と最も低く、次いで「公民館の講座」（15.1%）となっています。また、「子育て支援センターの教室・講座・相談」では認知度が71.6%と高いものの、利用割合は33.1%にとどまっています。

また、「子育て相談窓口」では実際の利用（9.5%）を今後の利用希望（33.1%）が23.6^{ポイント}と大きく上回っています。【問18】



以上の結果から、全体的に事業が認知されているものの、実際の利用に結びついていない状況が見受けられます。特に利用率の低い事業については、利用率向上に向け、対策を行う必要があり、情報提供のあり方や広報の見直しをはじめ、利便性等、利用者する方の視点に立った事業のあり方について、さらに検討する必要があります。



**結果5 就学前児童保護者の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望は、
低学年時の43.3%から高学年時25.5%と半減**

小学校就学後の放課後の過ごし方について、就学前児童（5歳以上）の保護者の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望をみると、小学校低学年のうちは43.3%となっていますが、高学年になると25.5%と半減しています。

一方、「自宅」の希望割合は、低学年時期の40.5%から高学年時期は55.5%と15.0^{ポイント}、
「地域の活動や習い事」では、低学年時期の25.2%から高学年時期は37.4%と12.2^{ポイント}高くなり、利用希望に変化がみられます。

「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望時間は、低学年時期、高学年時期ともに下校時から「17時台」（36.0%、30.5%）、「18時台」（33.1%、37.8%）までと回答した割合が高くなっています。

土曜日、日曜日、祝日、長期休暇期間中の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望をみると、土曜日は51.4%、日曜日、祝日では33.1%、長期休暇期間中では86.6%となり、特に長期休暇期間中の利用希望が高い状況です。【問25・26・27（1）（2）・問28】



以上の結果から、特に小学校低学年時の子どもの放課後の過ごし方として大きな役割を担っており、引き続き保護者のニーズを反映した運営を行うため、利用希望の高い土曜日、日曜日、祝日、長期休暇期間中における運営についても、検討を進め、事業内容の充実を図る必要があります。

第4章

育児休業制度の利用状況

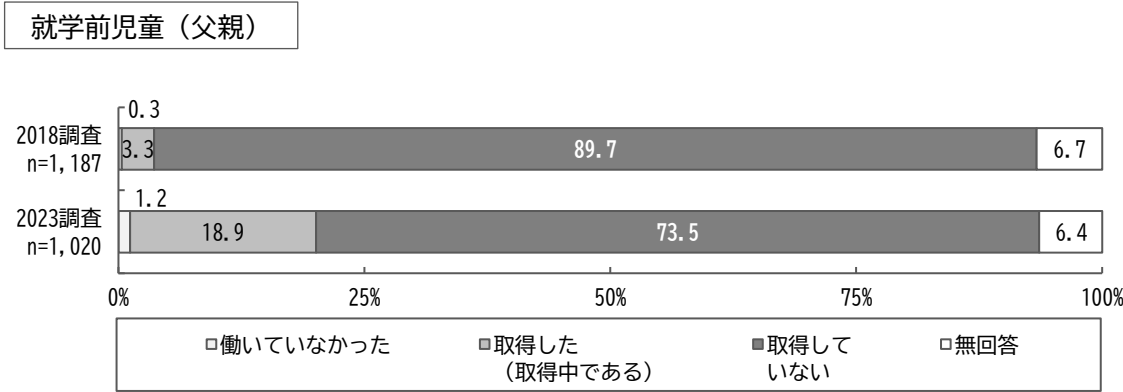
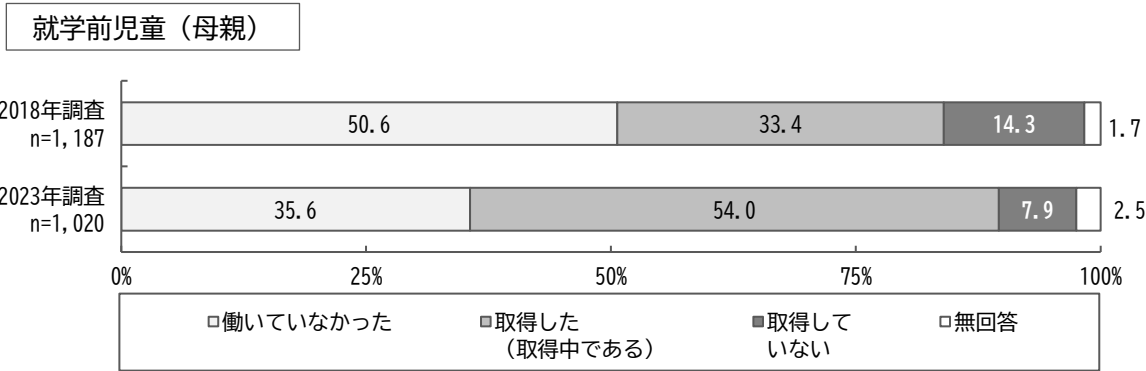
第4章 育児休業制度の利用状況

1 育児と仕事の両立支援制度について

(1) 育児休業制度の利用状況

○育児休業制度の利用状況をみると、就学前児童では、「取得した（取得中である）」母親では54.0%、父親では18.9%となっています。前回調査（2018年調査）と比較すると、「取得した（取得中である）」母親は20.6^{ポイント}、父親は15.6^{ポイント}高くなっています。

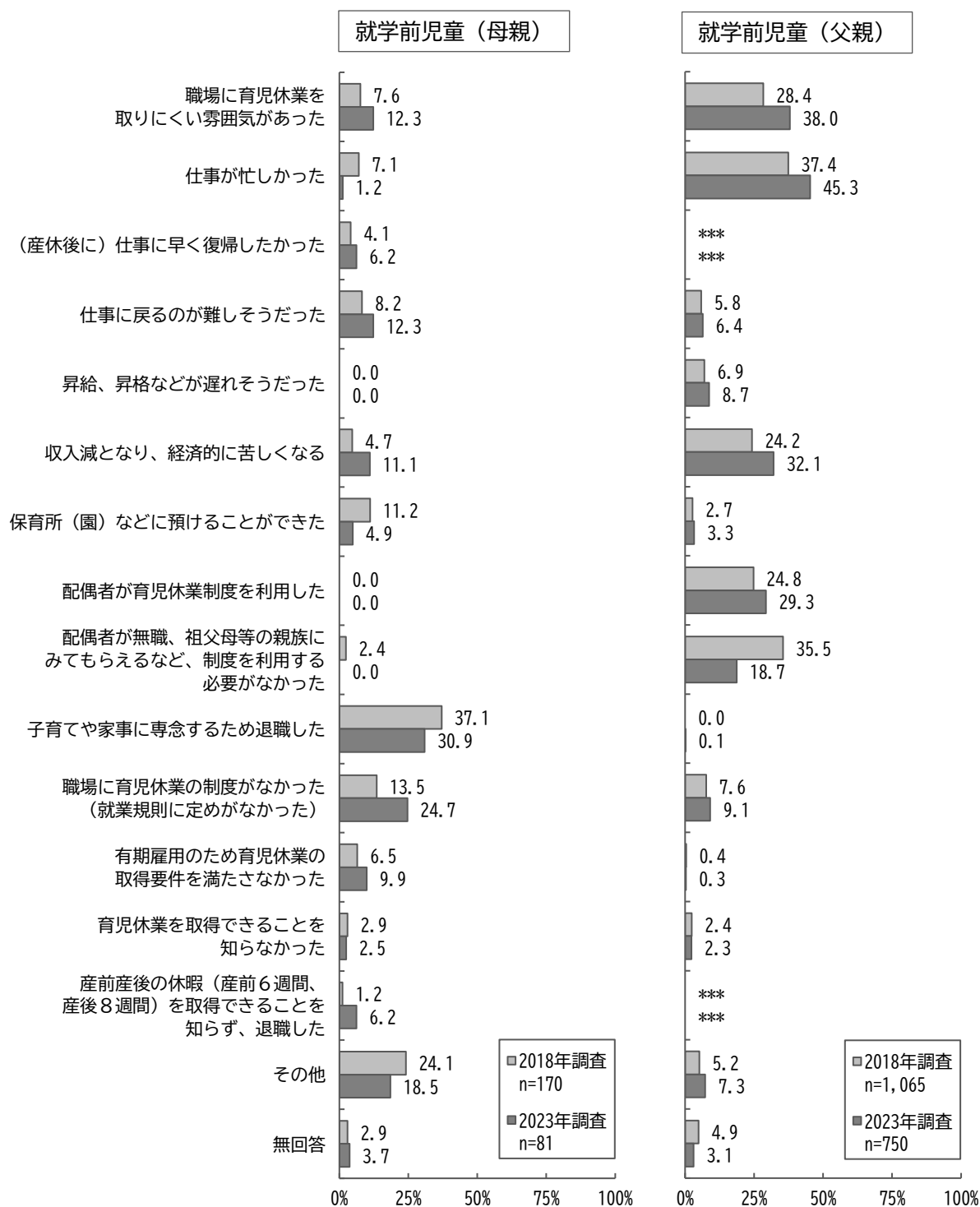
問29 育児休業制度の利用状況(経年比較)





○育児休業を取得していない理由をみると、母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」(30.9%)が最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(24.7%)となっています。父親では、「仕事が忙しかった」(45.3%)が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(38.0%)となっています。

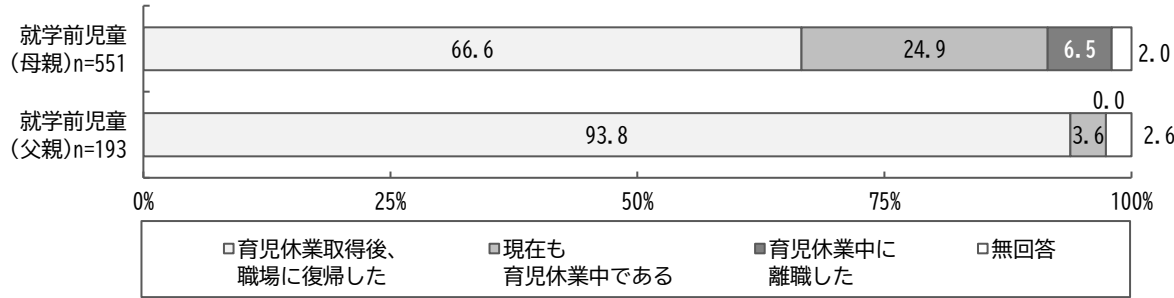
問29-1 育児休業を取得していない理由(経年比較)



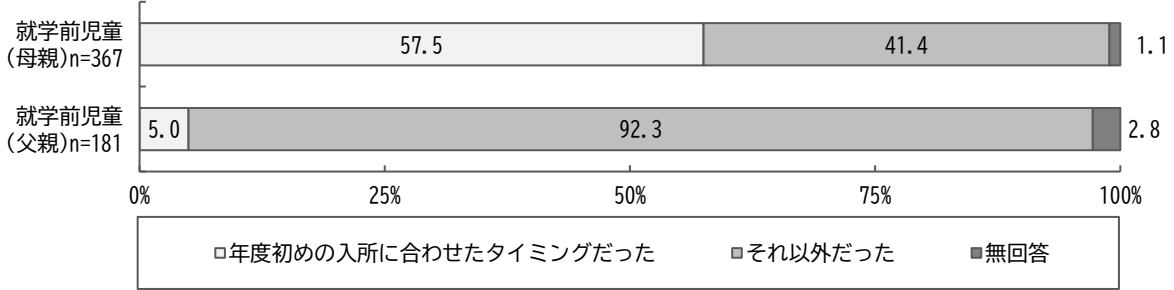
(2) 職場復帰の状況

- 育児休業取得後の対処をみると、母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」(66.6%)が最も高く、次いで「現在も育児休業中である」(24.9%)、「育児休業中に離職した」(6.5%)となっています。父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」(93.8%)、「在も育児休業中である」(3.6%)となっています。
- 育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親では、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(57.5%)、父親では、「それ以外だった」(92.3%)となっています。

問29-2 育児休業取得後の職場への対処



問29-3 育児休業後に職場へ復帰した時期



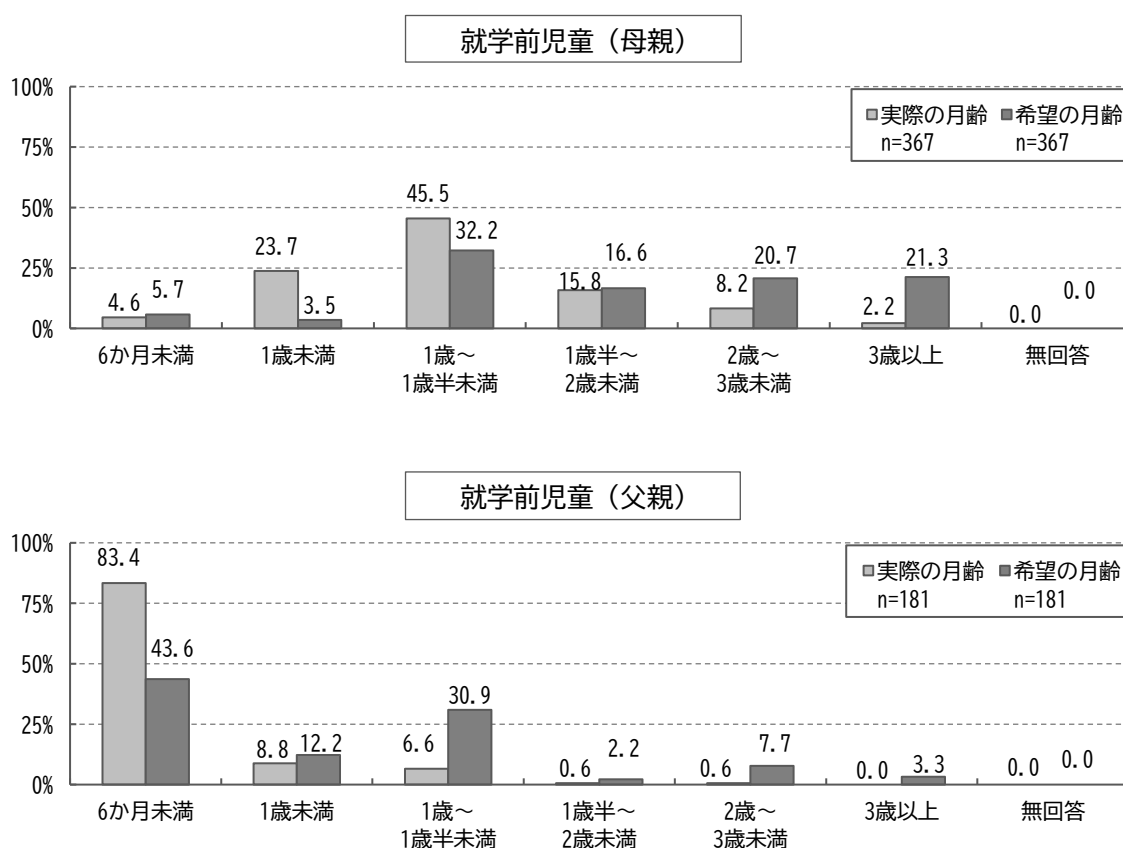


○母親が育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望の月齢をみると、いずれも「1歳～1歳半未満」（実際の月齢45.5%、希望の月齢32.2%）が最も高くなっています。また、希望する期間のうち、「3歳以上」を希望した母親は21.3%となっています。

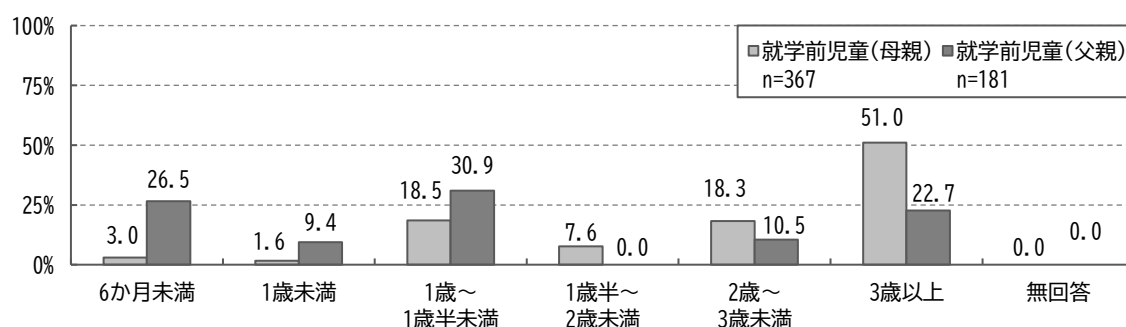
○父親では、実際の月齢、希望の月齢ともに「6か月未満」（実際の月齢83.4%、希望の月齢43.6%）が最も高くなっています。

○3歳までの育児休業制度があった場合に取得を希望する子どもの月齢をみると、母親では「3歳以上」（51.0%）、父親では「1歳～1歳半未満」（30.9%）が最も高くなっています。

問29-4 育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢



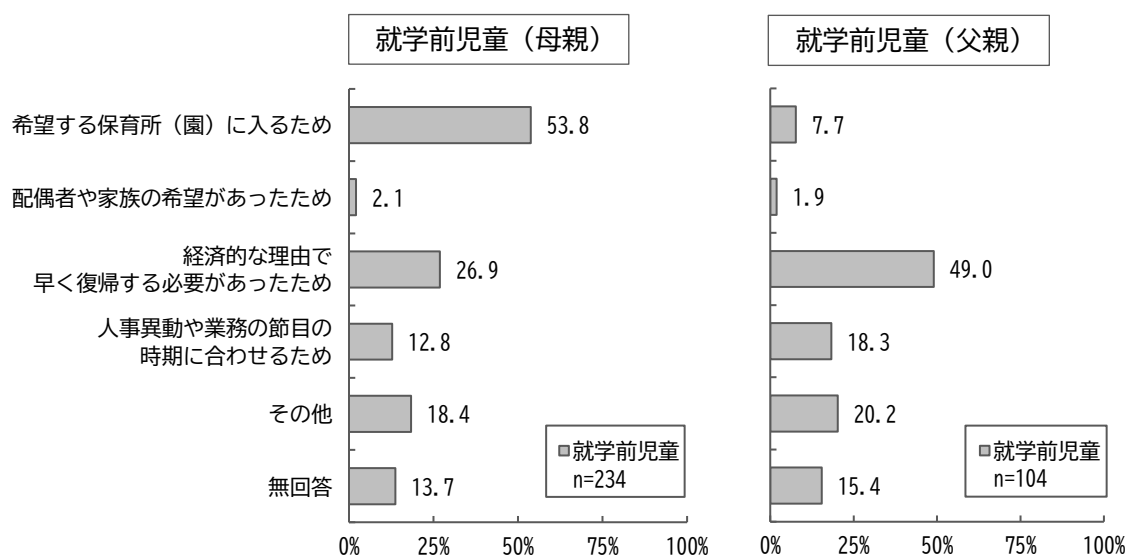
問29-5 3歳までの育児休業があった場合の子どもの希望する月齢



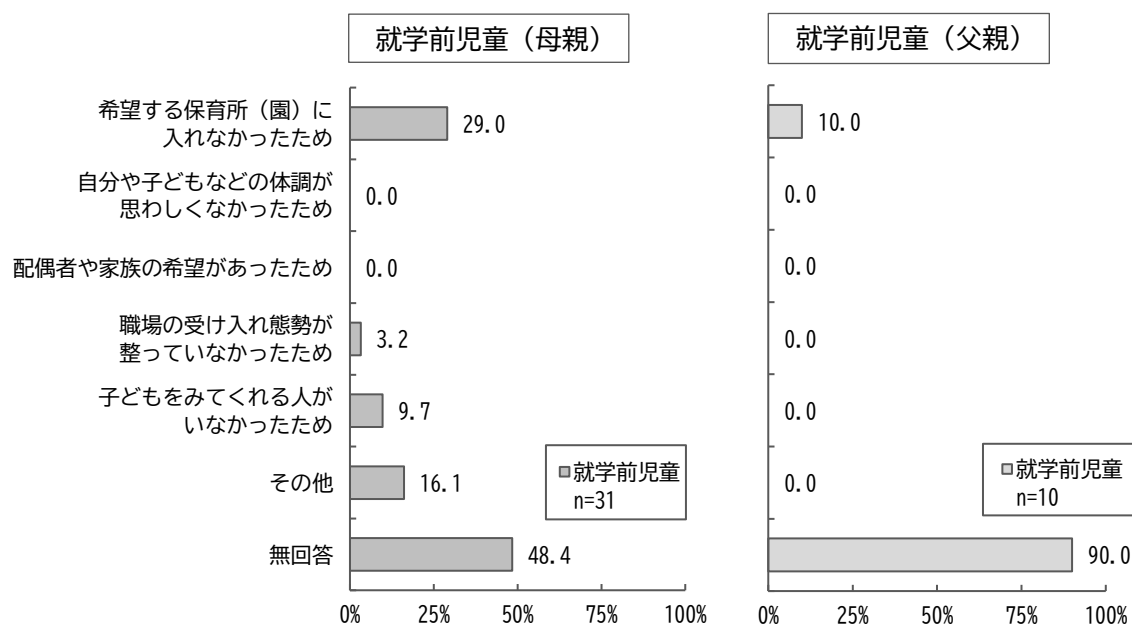
○育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由をみると、母親では、「希望する保育所に入るため」(53.8%)が最も高くなっています。父親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(49.0%)が最も高くなっています。

○「希望の時期」より遅く職場復帰した理由をみると、母親では、「希望する保育所に入れなかったため」(29.0%)が最も高くなっています。

問29-6(1) 育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由



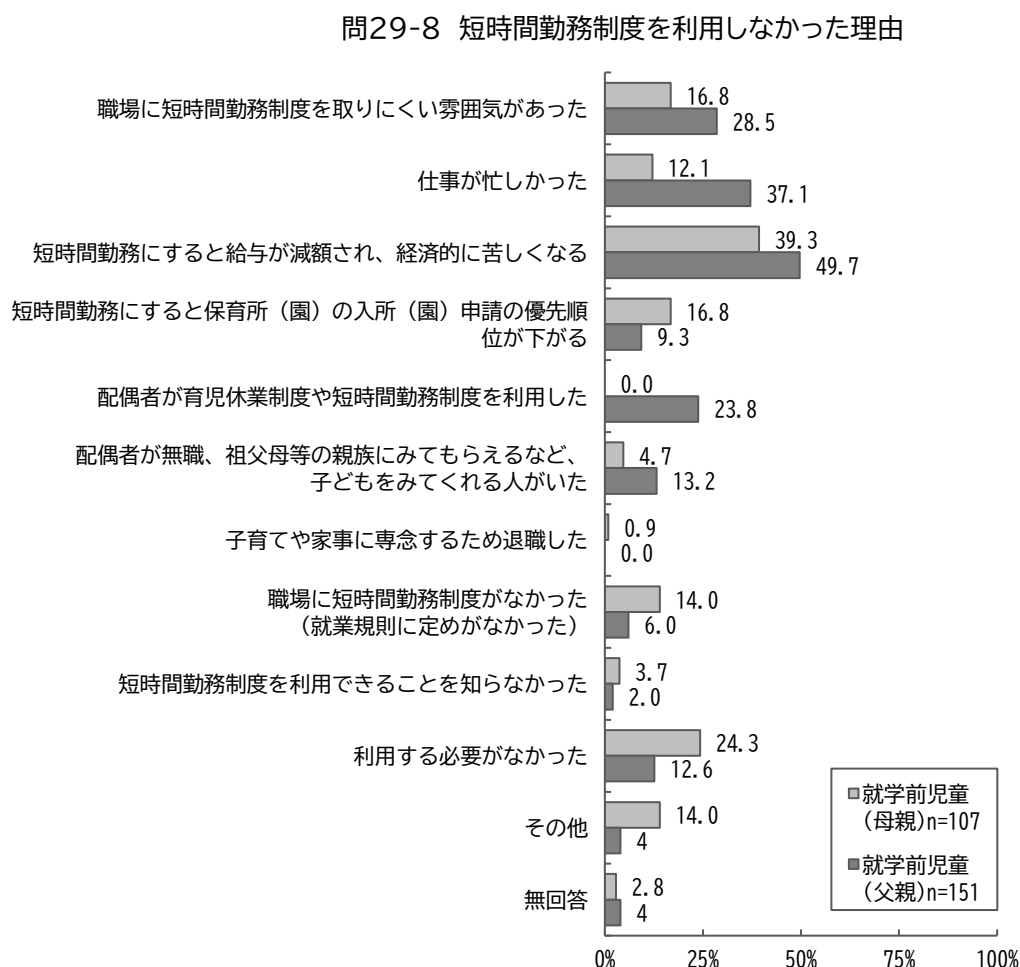
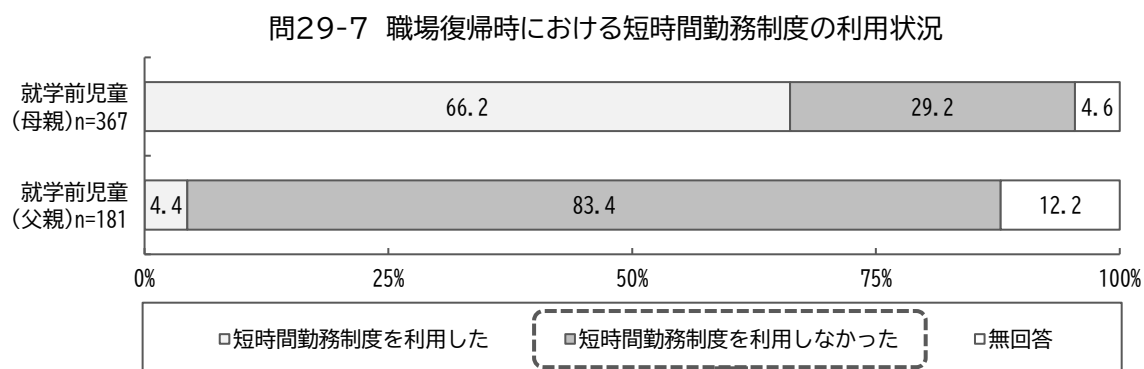
問29-6(2) 育児休業から「希望の時期」より遅く職場復帰した理由



(3) 短時間勤務制度の利用状況

○職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親では、「短時間勤務制度を利用した」(66.2%)となっています。父親では4.4%に留まっています。

○職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由をみると、母親、父親いずれも「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」(母親39.3%、父親49.7%)が最も高く、次いで母親では「利用する必要がなかった」(24.3%)、父親では「仕事が忙しかった」(37.1%)となっています。

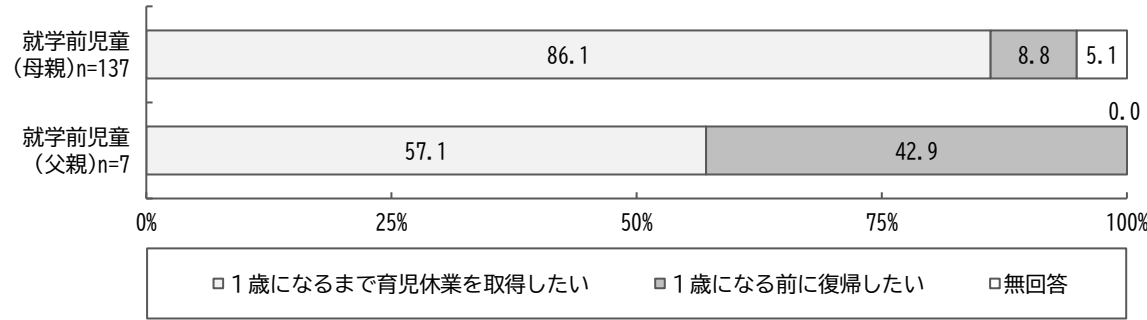




(4) 育児休業取得期間の希望

○1歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望をみると、母親では「1歳になるまで育児休業を取得したい」が8割以上、父親では約6割となっています。

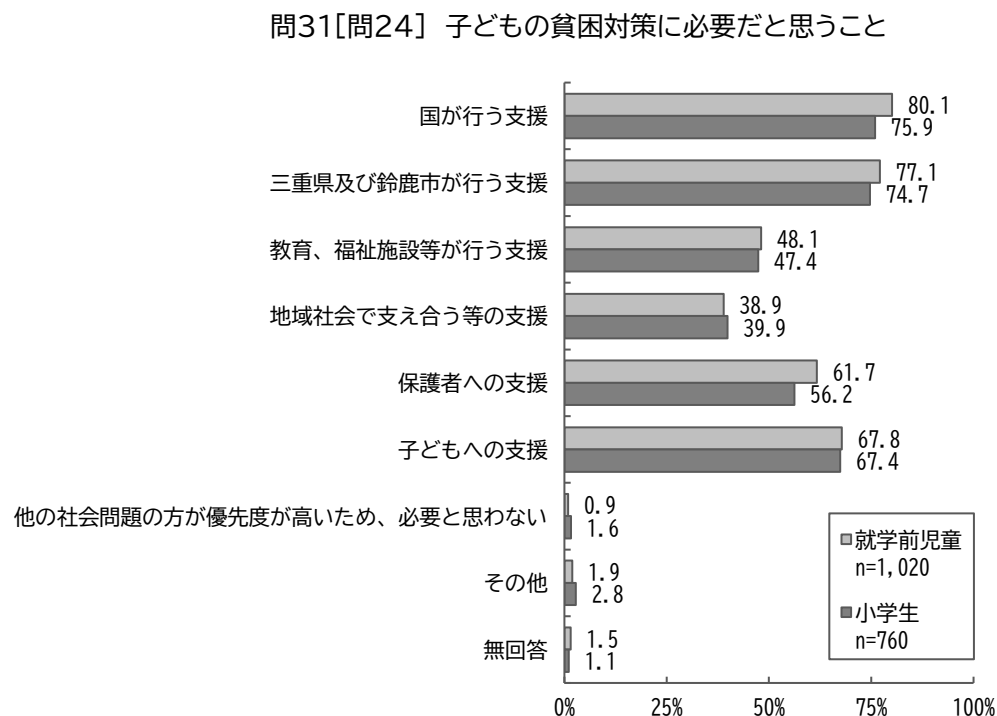
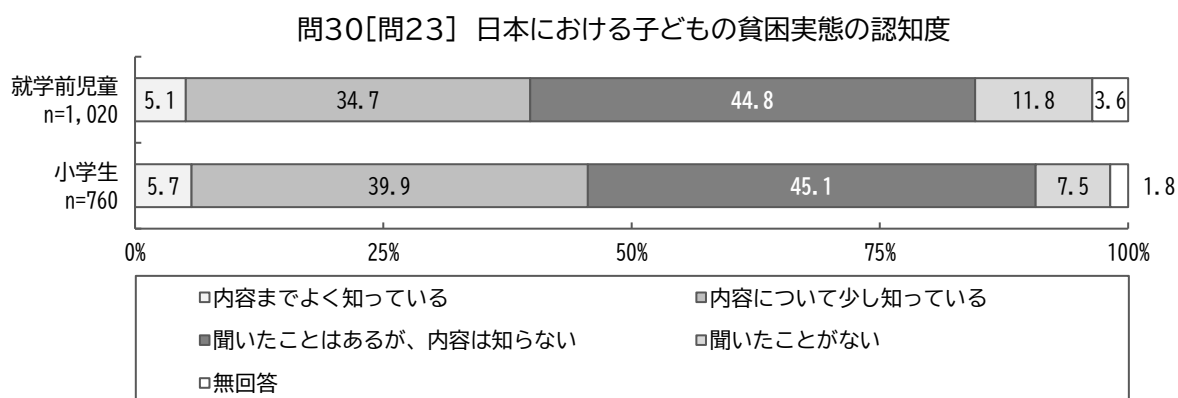
問29-9 1歳になったときに預け先が保障される場合の育児休業取得の希望



2 子どもの貧困対策について

○日本における子どもの貧困実態の認知度についてみると、就学前児童、小学生ともに「聞いたことはあるが、内容は知らない」（就学前児童44.8%、小学生45.1%）が最も高く、次いで「内容について少し知っている」就学前児童34.7%、小学生39.9%）となっています。

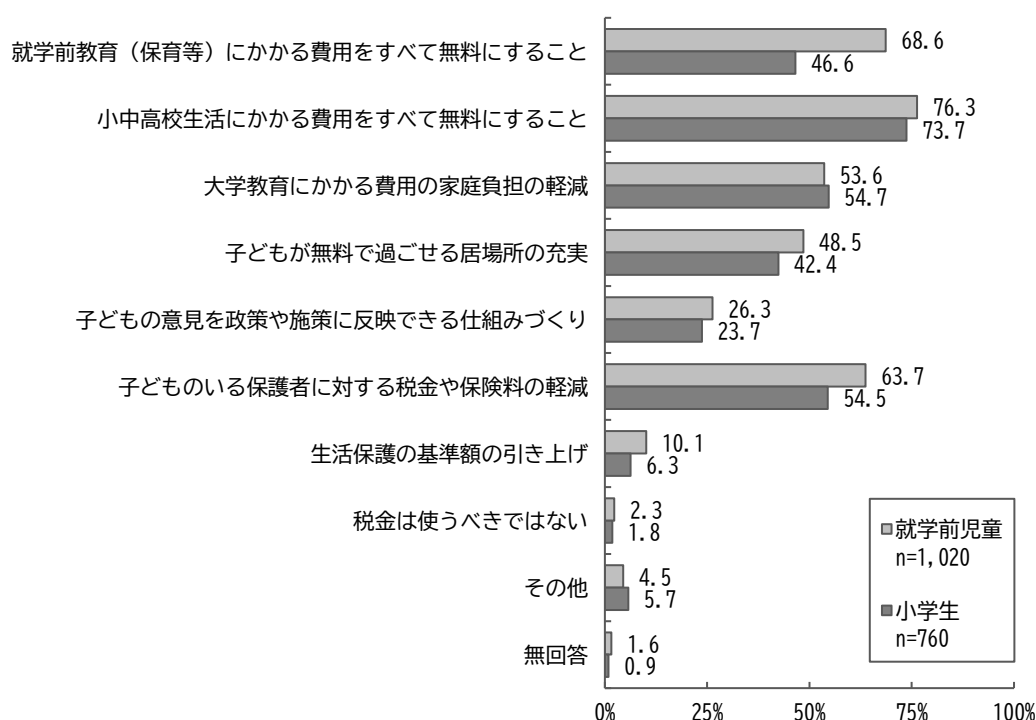
○子どもの貧困対策に必要だと思うことについてみると、就学前児童、小学生ともに「国が行う支援」（就学前児童80.1%、小学生75.9%）が最も高く、次いで、「三重県及び鈴鹿市が行う支援」（就学前児童77.1%、小学生74.7%）となっています。



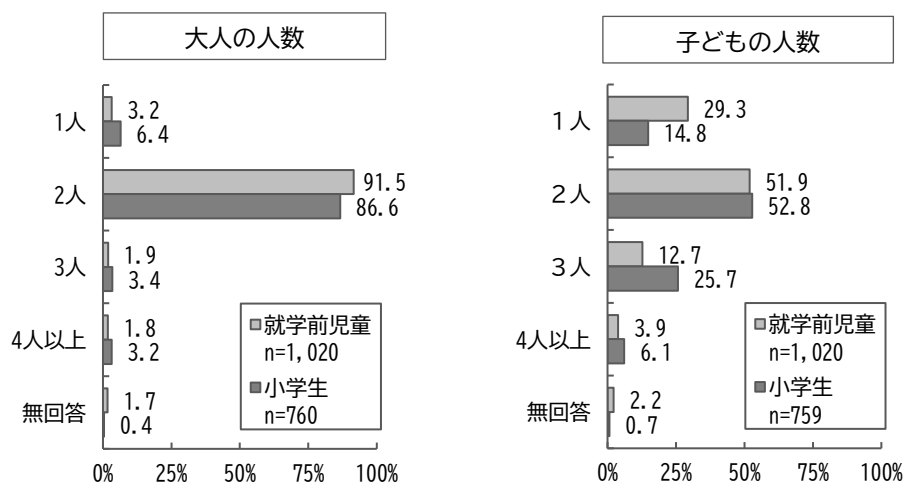
○子どもの貧困対策として、税金を使うべきだと思うことについてみると、就学前児童、小学生ともに「小中高校生活にかかる費用をすべて無料にすること」（就学前児童76.3%、小学生73.7%）が最も高く、次いで、就学前児童では、「就学前教育（保育等）にかかる費用をすべて無料にすること」（68.6%）、小学生では、「大学教育にかかる費用の家庭負担の軽減」（54.7%）となっています。

○現在の生計状況をみると、大人の人数は就学前児童、小学生ともに「2人」（就学前児童91.5%、小学生86.6%）が最も高くなっています。子どもの人数は、就学前児童、小学生ともに「2人」（就学前児童51.9%、小学生52.8%）が最も高くなっています。

問32[問25] 子どもの貧困対策として、税金を使うべきだと思うこと



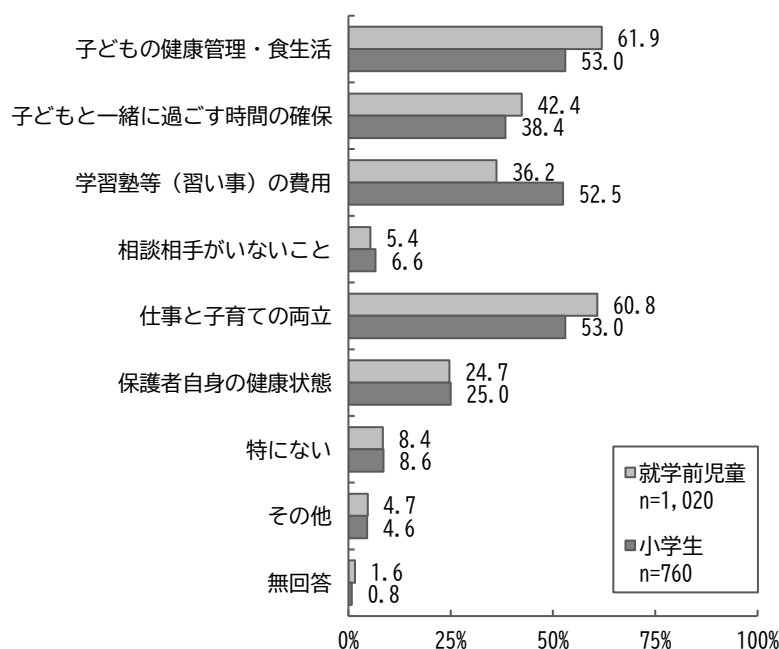
問33[問26] 現在の生計状況



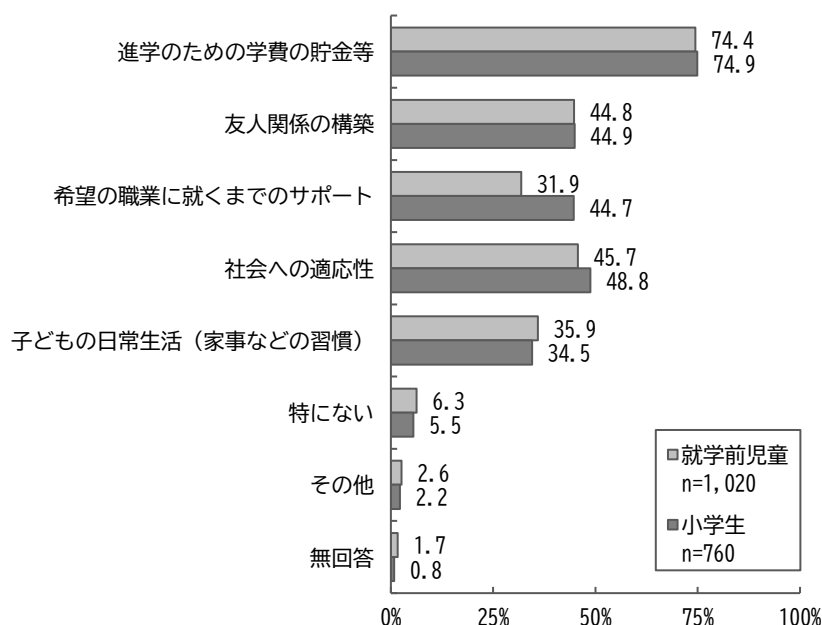
○子育ての中で特に大変なことをみると、就学前児童では「子どもの健康管理・食生活」（61.9%）、次いで「仕事と子育ての両立」（60.8%）が最も高くなっています。小学生では「子どもの健康管理・食生活」「仕事と子育ての両立」（各53.0%）が最も高く、次いで「学習塾等（習い事）の費用」（52.5%）となっています。

○お子さんの将来で不安なことをみると、就学前児童、小学生ともに「進学のための学費の貯金等」（就学前児童74.4%、小学生74.9%）が最も高く、次いで「社会への適応性」（就学前児童45.7%、小学生48.8%）となっています。

問34[問27] 子育ての中で特に大変なこと

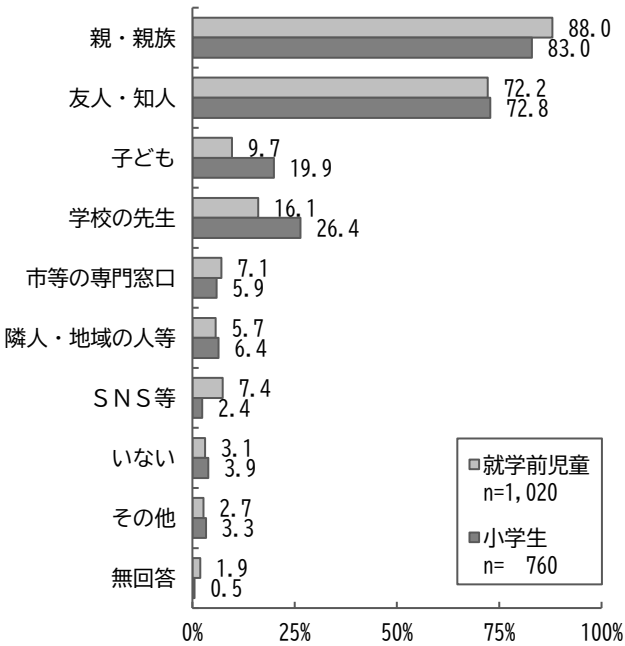


問35[問28] お子さんの将来で不安なこと

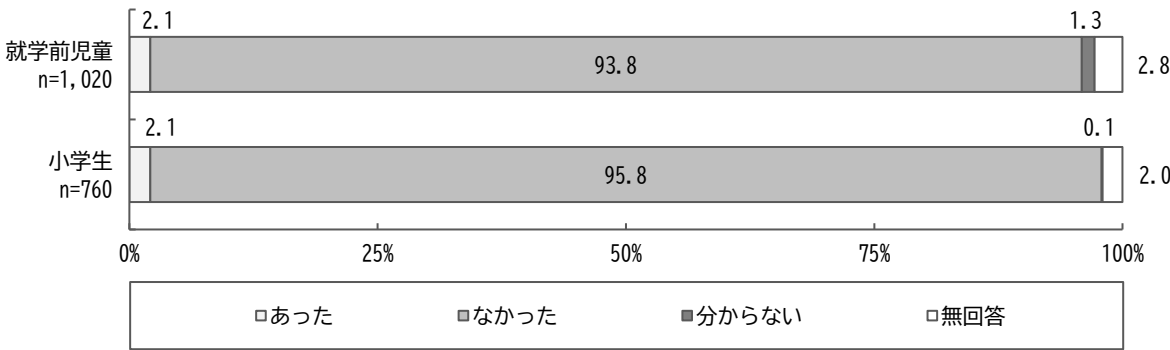


- 困った時に相談する相手についてみると、就学前児童、小学生ともに「親・親族」（就学前児童88.0%、小学生83.0%）が最も高く、次いで、「友人・知人」（就学前児童72.2%、小学生72.8%）となっています。
- 経済的理由の料金滞納で電気・ガス・水道を止められたことの有無についてみると、就学前児童、小学生ともに「なかった」（就学前児童93.8%、小学生95.8%）が最も高くなっています。一方、「あった」は就学前児童、小学生いずれも2.1%となっています。

問36[問29] 困った時に相談する相手



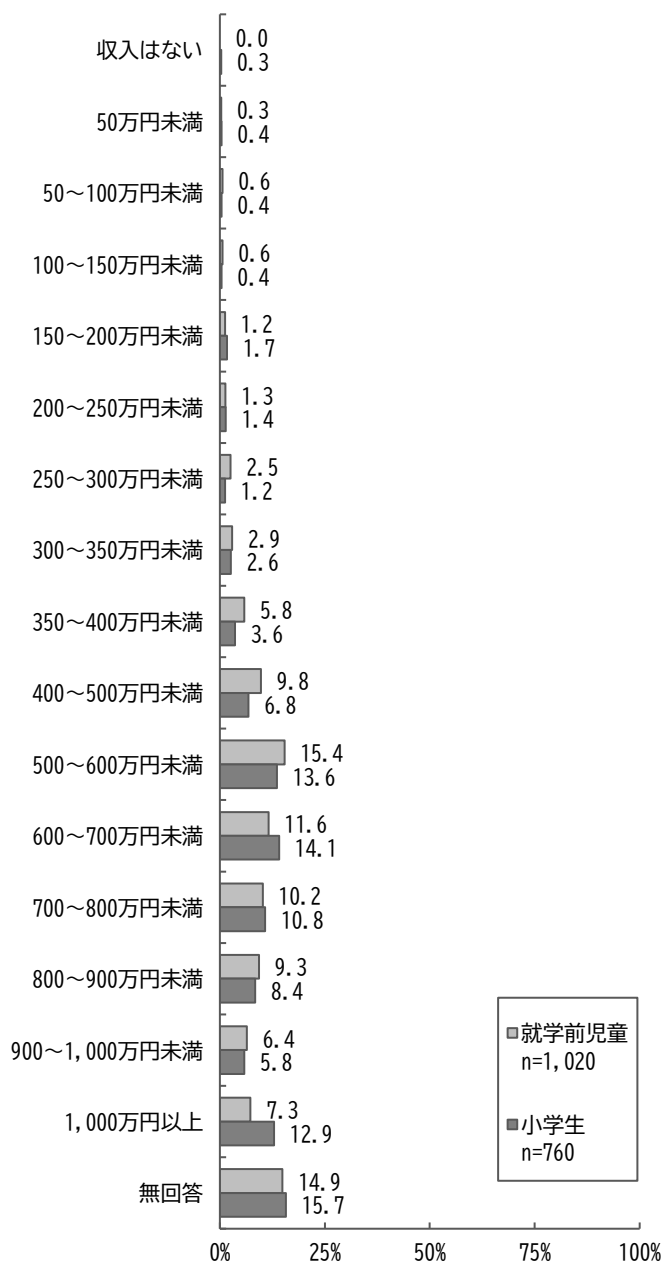
問37[問30] 経済的理由の料金滞納で電気・ガス・水道を止められたことの有無





○世帯の収入※をみると、就学前児童では「500～600万円未満」（15.4％）が最も高く、次いで「600～700万円未満」（11.6％）となっています。小学生では「600～700万円未満」（14.1％）が最も高く、次いで、「500～600万円未満」（13.6％）となっています。

問38[問31] 世帯の収入

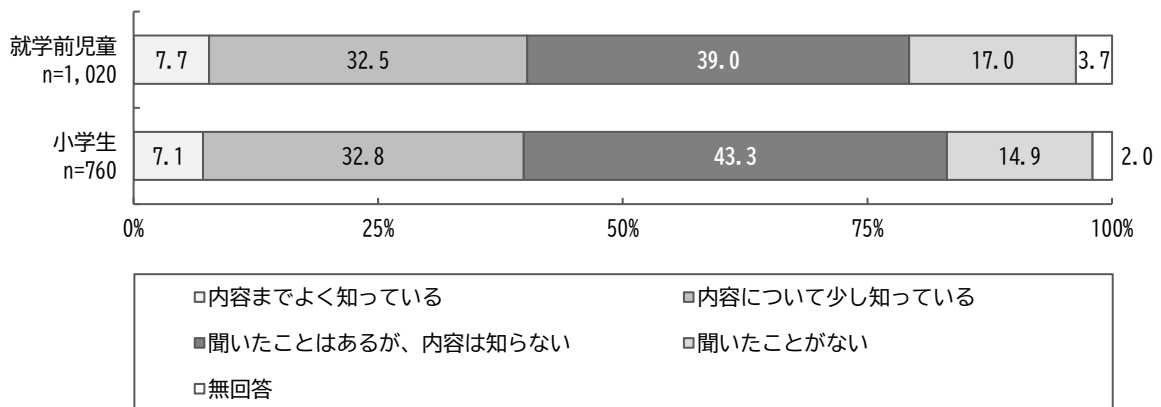


※収入とは、勤め先収入（賞与等含む）、事業収入（営業上の諸経費を除く）、公的年金、社会保障給付金（生活保護、児童手当等）、資産収入（家賃収入、預貯金利子等）、その他収入（仕送り、個人年金、養育費等）が含まれます。

3 子どもの権利や子育てのことについて

- 「子どもの権利」について知っているかをみると、就学前児童、小学生ともに「聞いたことはあるが、内容は知らない」（就学前児童39.0%、小学生43.3%）が最も高く、次いで「内容について少し知っている」（就学前児童32.5%、小学生32.8%）となっています。
- 「子どもにとって特に大切だと思うこと」の度合いについてみると、就学前児童、小学生いずれもすべての問いで「思う」の割合が最も高くなっており、「仲間とグループを作って遊んだり、スポーツが出来ること」を除き、8割を超えています。

問39[問32]「子どもの権利」について知っているか



問40[問33]「子どもにとって特に大切だと思うこと」の度合い

就学前児童 n=1,020

単位: %

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
自分の気持ちを自由に言ったり、話したりできること	0.9	0.2	1.8	7.7	86.4	3.0
ごはんや寝るところがあって、安心して暮らせること	1.0	0.3	0.9	2.5	92.3	3.0
自分らしく成長できること	0.9	0.2	1.7	7.2	87.0	3.1
病気やけがをしたら病院へ行けること	0.9	0.4	1.6	5.6	88.4	3.1
仲間とグループを作って遊んだり、スポーツが出来ること	0.8	1.2	9.4	17.6	67.9	3.0
仲間外れにされたり、いじめられないこと	1.0	0.7	4.4	9.3	81.5	3.1
周りの人から痛いこと、怖いことをされないこと	1.0	0.8	2.6	6.3	86.2	3.1
将来の夢に向かって、やりたいことができること	0.6	0.6	1.9	8.7	85.0	3.2



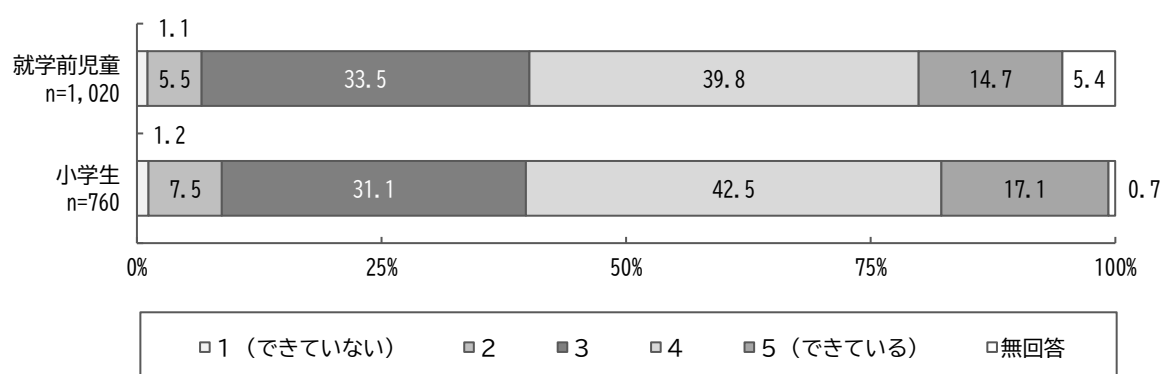
小学生 n=760

単位: %

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
自分の気持ちを自由に言ったり、話したりできること	0.5	0.1	2.2	10.1	86.1	0.9
ごはんや寝るところがあって、安心して暮らせること	0.4	0.0	1.2	2.0	95.5	0.9
自分らしく成長できること	0.4	0.0	2.8	10.1	85.8	0.9
病気やけがをしたら病院へ行けること	0.4	0.0	2.1	4.9	91.7	0.9
仲間とグループを作って遊んだり、スポーツが出来ること	0.9	0.5	11.8	19.7	66.3	0.7
仲間外れにされたり、いじめられないこと	0.9	0.4	5.4	10.1	82.2	0.9
周りの人から痛いこと、怖いことをされないこと	0.7	0.1	3.2	7.6	87.5	0.9
将来の夢に向かって、やりたいことができること	0.4	0.0	3.6	11.7	83.3	11.1

○普段から子どもの話を聞くことができているかをみると、就学前児童、小学生ともに「4」（就学前児童39.8%、小学生42.5%）が最も高くなっています。

問41[問34] 普段から子どもの話を聞くことができているか



○「子どもが相談しやすい相談場所」の度合いについてみると、就学前児童、小学生ともに「学校から遠い離れたところ」「電話やメール、SNSなど、直接会わずに相談できるところ」を除き「思う」が最も高くなっています。

○地域活動や行政運営において、子どもの意見を聞くことは大切だと思うかについてみると、就学前児童、小学生ともに「思う」（就学前児童55.3%、小学生54.2%）が最も高くなっています。

問42[問35]「子どもが相談しやすい相談場所」の度合い

就学前児童 n=1,020

単位:%

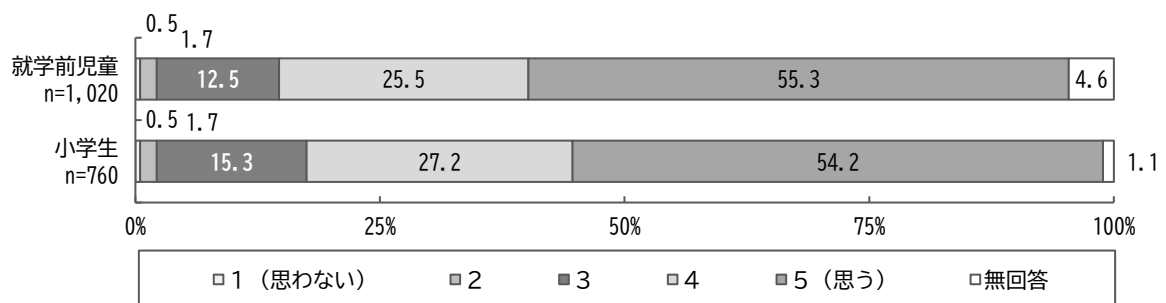
	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
聞いたことを秘密にしてくれるところ	1.2	1.3	10.7	15.3	67.5	4.0
たくさん話を聞いてくれるところ	0.4	0.7	6.7	14.1	74.0	4.1
学校から遠い離れたところ	16.7	12.8	37.6	12.4	16.0	4.5
電話やメール、SNS など、直接会わずに相談できるところ	7.6	9.3	30.9	20.5	27.0	4.7
直接会って相談できるところ	1.2	3.6	26.0	26.3	38.1	4.8
いつでも相談できるところ	0.5	0.6	6.6	13.0	75.0	4.3

小学生 n=760

単位:%

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
聞いたことを秘密にしてくれるところ	0.5	0.8	10.5	17.9	68.9	1.3
たくさん話を聞いてくれるところ	0.1	0.4	6.4	17.6	74.1	1.3
学校から遠い離れたところ	21.2	15.7	40.4	9.7	11.3	1.7
電話やメール、SNS など、直接会わずに相談できるところ	10.1	11.6	33.6	21.1	21.8	1.8
直接会って相談できるところ	0.9	2.2	28.8	28.2	37.9	2.0
いつでも相談できるところ	0.3	0.4	6.1	15.5	75.8	2.0

問43[問36] 地域活動や行政運営において、子どもの意見を聞くことは大切だと思いますか





○「子どもの権利が守られているかの確認に必要だと思うこと」の度合いについてみると、就学前児童では「定期的な子どもへの「子どもの権利」についてのアンケート等の実施」を除き「3」が最も高くなっています。小学生ではすべての問いで「3」が最も高くなっています。

問44[問37]「子どもの権利が守られているかの確認に必要だと思うこと」の度合い

就学前児童 n=1,020

単位:%

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
定期的な子どもへの「子どもの権利」についてのアンケート等の実施	5.1	7.3	28.2	20.2	33.3	5.9
「子どもの権利」について子ども同士が話し合う場の開催	3.3	5.8	31.7	21.9	31.4	6.0
「子どもの権利」について様々な分野の人が集まって話し合う場・会議体の開催	4.6	6.8	35.0	20.5	26.8	6.4
「子どもの権利」を踏まえた施策・取組のチェックリストの作成と評価の実施	3.4	5.4	34.8	22.6	27.1	6.7

小学生 n=760

単位:%

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
定期的な子どもへの「子どもの権利」についてのアンケート等の実施	5.4	8.6	33.8	23.0	27.6	1.6
「子どもの権利」について子ども同士が話し合う場の開催	3.2	6.6	35.4	24.1	29.5	1.3
「子どもの権利」について様々な分野の人が集まって話し合う場・会議体の開催	4.3	8.8	43.2	21.7	20.4	1.6
「子どもの権利」を踏まえた施策・取組のチェックリストの作成と評価の実施	5.0	8.6	40.5	22.4	22.0	1.6



○「子育てしやすい環境で必要なもの」の度合いについてみると、就学前児童、小学生いずれも「子育てサークルなどのグループの自主的な活動がしやすい仕組み」を除き「思う」が最も高くなっています。特に「保育園や幼稚園、学校などの通園・通学先が身近にあること」は就学前児童、小学生ともに約8割となっています。

問45[問38]「子育てしやすい環境で必要なもの」の度合い

就学前児童 n=1,020

単位:%

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
保育園や幼稚園、学校などの通園・通学先が身近にあること	0.1	0.2	2.2	9.4	84.4	3.7
子育て中の親子が集まったり、遊べたりする場所	1.4	4.3	20.0	22.6	47.8	3.8
子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組み	2.4	4.7	26.3	22.8	39.4	4.4
子育てサークルなどのグループの自主的な活動がしやすい仕組み	4.5	7.4	36.0	18.3	29.4	4.4
子育て中の人への地域の理解	0.9	1.1	11.1	20.5	62.1	4.4
地域の大人達が連携して、子どもの活動を育成・支援する場	0.9	2.3	18.6	26.6	47.0	4.7
子育ての悩みや困りごとを身近で相談できること	0.5	1.2	13.8	25.2	55.0	4.3
子育ての情報の入手のしやすさ	0.7	1.1	10.3	20.5	63.2	4.2

小学生 n=760

単位:%

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
保育園や幼稚園、学校などの通園・通学先が身近にあること	0.1	0.4	5.3	13.7	79.9	0.7
子育て中の親子が集まったり、遊べたりする場所	1.8	2.5	24.7	25.0	45.3	0.7
子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組み	1.8	3.4	28.8	27.6	37.4	0.9
子育てサークルなどのグループの自主的な活動がしやすい仕組み	3.9	6.2	37.5	23.9	27.6	0.8
子育て中の人への地域の理解	0.4	0.7	13.3	24.7	60.3	0.7
地域の大人達が連携して、子どもの活動を育成・支援する場	1.1	2.2	20.9	29.6	45.3	0.9
子育ての悩みや困りごとを身近で相談できること	0.4	1.2	16.3	26.6	54.7	0.8
子育ての情報の入手のしやすさ	0.4	0.9	12.0	23.8	62.0	0.9



○「子どもや子育てにやさしいまちづくりで鈴鹿市が取り組むべきこと」の度合いについてみると、就学前児童では、すべての問いで「思う」が最も高くなっています。小学生では「子どもの社会参画の促進」を除き「思う」が最も高くなっています。また、就学前児童、小学生いずれも「家庭や学校などで権利の侵害を受けている子どものための救済措置の強化」「家庭の貧困やヤングケアラーなど、困難な状況に置かれた子どもに対する支援」「声をあげることが出来ない子どもの意見を聞くための取組み」で6割を超えています。

問46[問39]「子どもや子育てにやさしいまちづくりで鈴鹿市が取り組むべきこと」の度合い

就学前児童 n=1,020

単位:%

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
地域住民等による見守り支援の充実	1.2	2.4	16.1	26.6	49.6	4.2
保護者や子どものための相談・支援体制の充実	1.0	1.1	15.2	28.2	50.0	4.5
子どもの社会参画の促進	1.3	2.0	28.3	28.3	35.0	5.1
里親制度など養育する大人のいない子どもに対する支援	0.9	2.3	19.4	25.2	47.1	5.2
家庭や学校などで権利の侵害を受けている子どものための救済措置の強化	0.7	0.8	11.9	21.5	60.5	4.7
家庭の貧困やヤングケアラーなど、困難な状況に置かれた子どもに対する支援	0.7	0.5	12.7	19.1	62.3	4.7
声をあげることが出来ない子どもの意見を聞くための取組み	0.7	0.3	9.2	19.9	65.2	4.7
同じ立場や悩みを持つ人同士をつなげるための取組み	1.2	1.6	17.9	27.1	47.5	4.7

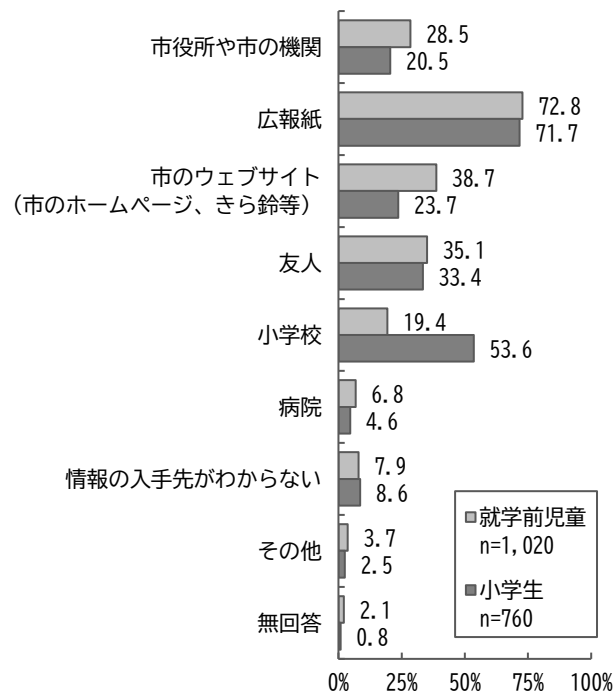
小学生 n=760

単位:%

	思わない ← → 思う					
	1	2	3	4	5	無回答
地域住民等による見守り支援の充実	0.9	2.6	20.8	28.6	45.9	1.2
保護者や子どものための相談・支援体制の充実	0.8	2.2	16.8	30.8	48.4	0.9
子どもの社会参画の促進	0.4	3.6	30.5	33.7	30.7	1.2
里親制度など養育する大人のいない子どもに対する支援	0.3	2.1	19.3	28.3	48.4	1.6
家庭や学校などで権利の侵害を受けている子どものための救済措置の強化	0.0	1.3	11.8	21.4	63.9	1.4
家庭の貧困やヤングケアラーなど、困難な状況に置かれた子どもに対する支援	0.0	0.9	11.7	18.6	67.5	1.3
声をあげることが出来ない子どもの意見を聞くための取組み	0.0	0.5	9.6	17.6	70.9	1.3
同じ立場や悩みを持つ人同士をつなげるための取組み	0.4	2.2	20.4	25.8	50.0	1.2

〇市の子育てに関する情報の入手方法をみると、就学前児童、小学生ともに「広報紙」（就学前児童72.8%、小学生71.7%）が最も高く、次いで就学前児童では「市のウェブサイト」（38.7%）、小学生では「小学校」（53.6%）となっています。

問47[問40] 市の子育てに関する情報の入手方法

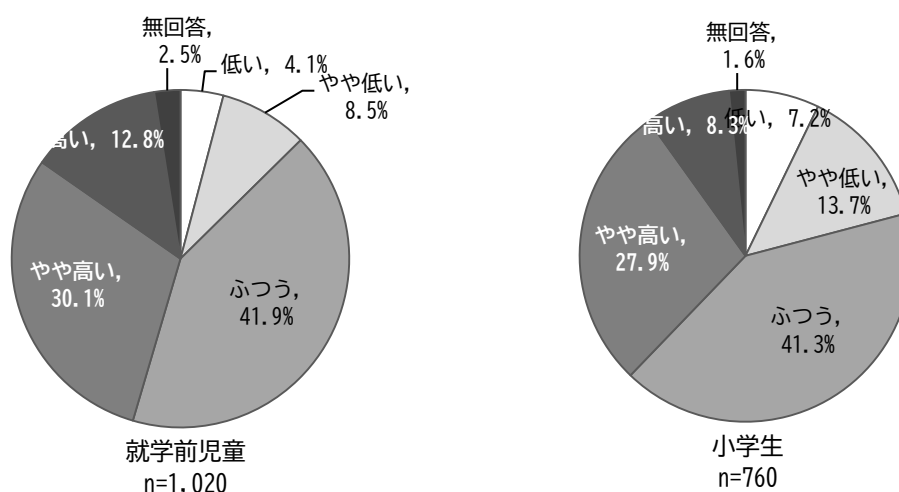




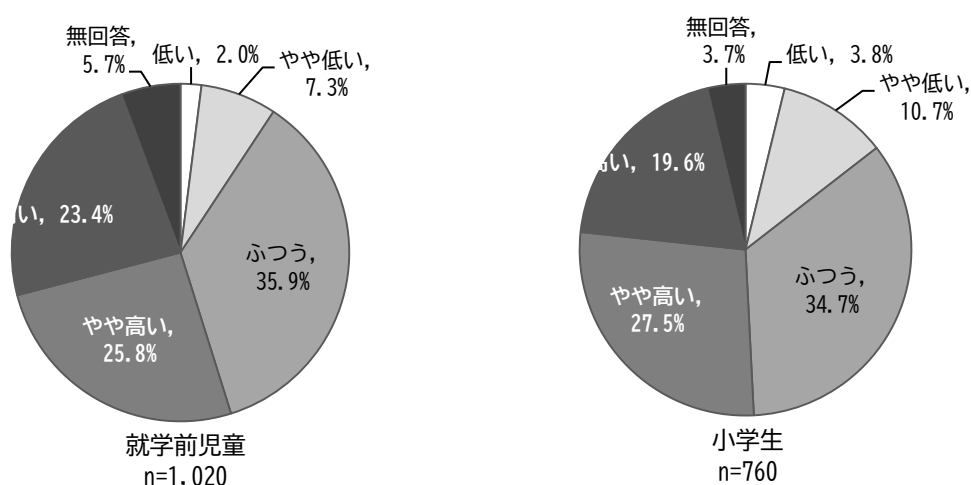
○鈴鹿市において、「子育てが楽しいと感じる度合い」が高いと感じる保護者（「高い」＋「やや高い」）をみると、就学前児童（42.9%）、小学生（36.2%）となっています。一方、低いと感じる保護者（「低い」＋「やや低い」）をみると、就学前児童（12.6%）、小学生（20.9%）となっています。また、就学前児童、小学生の保護者いずれも、高いと感じる方が低いと感じる方をそれぞれ30.3^{ポイント}、15.3^{ポイント}上回り、子育てが楽しいと感じている保護者のほうが多いことがうかがえます。

○鈴鹿市において、「仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い」が高いと感じる保護者（「高い」＋「やや高い」）をみると、就学前児童（49.2%）、小学生（47.1%）となっています。一方、低いと感じる保護者（「低い」＋「やや低い」）をみると、就学前児童（9.3%）、小学生（14.5%）となっています。また、就学前児童、小学生の保護者いずれも、高いと感じる方が低いと感じる方をそれぞれ39.9^{ポイント}、32.6^{ポイント}上回り、仕事と子育ての両立が大変であることがうかがえます。

問48(1) [問41(1)] 鈴鹿市における「子育てが楽しいと感じる度合い」

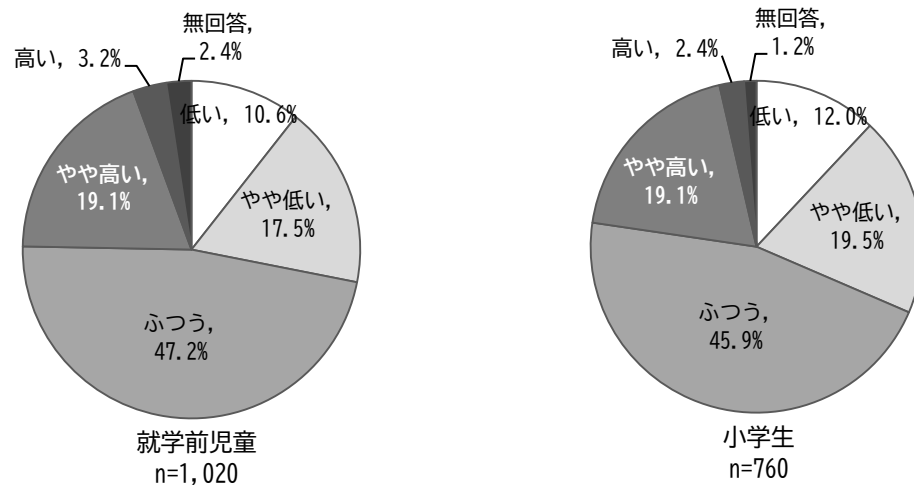


問48(2) [問41(2)] 鈴鹿市における「仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い」



○鈴鹿市において、「子育ての環境や支援に対する満足度」が高いと感じる保護者（「高い」＋「やや高い」）をみると、就学前児童（22.3%）、小学生（21.5%）となっています。一方、低いと感じる保護者（「低い」＋「やや低い」）をみると、就学前児童（28.1%）、小学生（31.5%）となっています。また、就学前児童、小学生の保護者いずれも、低いと感じる方が高いと感じる方をそれぞれ5.8^{ポイント}、10.0^{ポイント}上回り、満足度が低くなっています。

問48(3)〔問41(3)〕 鈴鹿市における「子育ての環境や支援に対する満足度」





4 育児休業制度の利用状況、子育ての環境や支援の満足度 における分析、課題

結果1 育児休業を取得または取得中の就学前児童の母親は54.0%、父親は18.9%

就学前児童保護者の育児休業の取得率は、母親が54.0%、父親が18.9%となり、前回調査と比較すると、母親では20.6^{ポイント}、父親では15.6^{ポイント}増加しています。

母親の育児休業取得期間についてみると、実際の取得期間、希望取得期間ともに「1歳～1歳半未満」(45.5%、32.2%)が最も高くなっています。また、3歳以上の長期期間では、実際の取得期間(2.2%)より希望取得期間(21.3%)の割合が上回っています。

育児休業を取得していない理由は、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が30.9%で前回調査同様最も高くなっています。それ以外では、前回調査において13.5%であった「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が24.7%に増加し、一方、前回調査で1.2%であった「産前産後の休暇(産前6週間、産後8週間)を取得できることを知らず、退職した」は6.2%、前回調査で4.7%であった「収入減となり、経済的に苦しくなる」は11.1%と増加しています。一方、父親では「仕事が忙しかった」(45.3%)が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(38.0%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(32.1%)が上位を占めています。

【問29・29-1・問29-4】



以上の結果から、子育て世帯への社会全体の意識の変化にともない、母親父親ともに育児休業取得率が前回調査時よりも高くなっていますが、一方で、育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢と差があることから、引き続き、希望の育児休業期間を取得できるような職場の環境づくりなど、経済的な支援を含めた、提供体制の確保が必要です。



**結果2 子育て環境や支援に対する満足度（「高い」＋「やや高い」＋「ふつう」）は、
就学前児童で69.5%、小学生で67.4%**

鈴鹿市における子育ての環境や支援に対する満足度（「高い（とても満足）」＋「やや高い」＋「ふつう」）は、就学前児童で69.5%、小学生で67.4%となっています。

鈴鹿市における子育てが楽しいと感じる度合い（「高い（とても楽しい）」＋「やや高い」＋「ふつう」）をみると、就学前児童で84.8%、小学生で77.5%となっています。

鈴鹿市における仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い（「高い（とても大変）」＋「やや高い」）をみると、就学前児童で49.2%、小学生で47.1%となっています。

市の子育てに関する情報の入手方法は、就学前児童、小学生ともに「広報紙」（72.8%、71.7%）が最も高くなっています。

【問47・48（1）（2）（3）、[問40・41（1）（2）（3）]】



前回調査（2018年）と比較すると、仕事と子育ての両立が大変と感じる度合い（「高い（とても大変）」＋「やや高い」）は、就学前児童で41.9%、小学生で38.3%であったことから、今回調査では就学前児童が7.3ポイント、小学生が8.8ポイント増加しています。

以上の結果から、本市の子育て環境や支援に対して、一定の評価がされていると言える一方で、約4割の子育て家庭においては、仕事と子育ての両立が大変であると感じており、満足度の向上に結び付くような支援や、仕事と子育ての両立を支援する新たな体制が求められており、引き続き子育て世帯のニーズに即した事業の検討が必要です。